

# 持続可能な観光地域づくりのための事例集



令和7年度 持続可能な観光推進モデル事業

国土交通省観光庁 外客受入担当参事官付

令和8年 3月

## はじめに

我が国では、近年の急速な外国人旅行者の増加に伴い、一部の観光地では混雑やマナー違反への関心が高まっています。こうした背景とともに、国際的な持続可能な観光への関心・意識の高まりを契機に、観光庁では平成30年から外客受入担当参事官室が中心となり、有識者とともに対応策に関する協議・検討を重ねてきました。令和2年からは、UN Tourismアジア太平洋地域事務所と共同で開発・公表した「日本版持続可能な観光ガイドライン」（以下「JSTS-D」）を活用し、持続可能な観光の普及・啓発に取り組んでいます。

また、令和5年3月31日に閣議決定された観光立国推進基本計画（第4次）では、観光の質的向上を象徴する【持続可能な観光】をキーワードの1つとして取り組むこととしており、2025年までに「持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数（JSTS-Dロゴマーク取得団体数）」を100地域（うち、国際認証・表彰地域数50地域）とすることが筆頭に掲げられています。本事業を始めとする取組の結果、令和8年2月時点で121地域が「日本版持続可能な観光ガイドラインロゴマーク」を取得しており、「持続可能な観光地域づくりに取り組む地域が確実に増えてきています。

2025年に訪日外国人旅行者数が過去最高の4,268万人となっている日本では、オーバーツーリズムの未然防止、また地域の自然・文化や生業等の保全・活用に資する「持続可能な観光」は、インバウンドの回復と国内交流拡大の双方を支え、我が国が旅行先として選ばれるためにも、その推進は喫緊の課題といえます。

今後、「住んでよし、訪れてよし」の観光地づくりを実現するためには、地方公共団体や観光地域づくり法人（DMO）が中心となって、観光客と地域住民の双方に配慮し、持続可能な観光地マネジメントを行うことが重要です。

現在、観光庁では令和2年度よりJSTS-Dを活用した持続可能な観光地マネジメントのモデル地域を形成し、その取組を全国各地域に横展開を図る「持続可能な観光推進モデル事業」を実施してきました。

本書では、令和7年度に採択された観光地域づくり法人（DMO）、民間事業者における取組内容を記載しています。今後の皆様の活動の参考としてお役立てください。

# 目次

1.	採択地域の取組内容のまとめ		P4
2.	採択団体の取組事例		P6-82
(1)	一般財団法人箱根町観光協会 【神奈川県箱根町】	環境先進観光地・箱根 食品リサイクル循環プロジェクト	P6-38
(2)	一般社団法人SOE 【福井県鯖江市・越前市・越前町】	産業観光を核とした地域持続モデルの構築	P39-82

## 1.採択地域の取組内容のまとめ

---

# 今年度の採択地域における主要な取組内容のまとめは以下の通りです

(P6-38) 神奈川県箱根町

一般財団法人箱根町観光協会

環境先進観光地・箱根 食品リサイクル循環プロジェクト

## ■ 実施概要 (P8-32)

- ✓ ①町内事業者の機運醸成：取組促進に向けた機運醸成を図るための事業者向け研修の実施、食品循環リサイクルプロジェクトに関するアンケートで機運を醸成し、結果展開と事業者研修で参画の裾野を拡大（観光客・事業者向け）
- ✓ ②“食の資源循環”スキーム確立：運用モデル・スキームの確立に向けた箱根町の12事業者から連携した食品残渣の回収及び食品リサイクル実証調査
- ✓ ③計画的な取組の推進：作成したロードマップに基づき、適切な進捗管理を行うとともに、必要に応じてロードマップの更新

## ■ 主要成果 (P9,10,28,32)

- ✓ ①町内事業者の機運醸成：
  - ・ 観光客向けアンケートにて、計529サンプルを収集。「箱根DMO食品リサイクル循環プロジェクト」に対する評価について国内外ともに66.5%以上が“とても良いと思う”と回答
  - ・ 事業者向け意識調査アンケートでは26件から回答を受領し、71%が本事業への参加意向を明示
- ✓ ②“食の資源循環”スキーム確立：
  - ・ 積替・隔日輸送による運搬の効率化により、通常回収（当日中の輸送）と比較して30%強の運搬コスト削減の可能性があると判明
- ✓ ③計画的な取組の推進：
  - ・ 実証実験の結果を踏まえ、令和10年度を目標年度としてロードマップを更新
  - ・ 各年度の進捗率・達成率の目標値を再設定

## ■ 主要KPIの達成状況 (P35)

- ・ KGI：本事業への参加事業者、目標値：12事業者、実績値：12事業者
- ・ KPI①：本事業の参加意向、目標値：40%、実績値：71%
- ・ KPI②：運搬コストの試算額改善率、目標値：40,680円、実績値：36,510円
- ・ KPI③：ロードマップに沿った取組推進、目標値：進捗率20%、実績値：20%

## ■ 関連するJSTS-D指標

- ・ A3,A5,A9
- ・ D11



食品リサイクル実証調査の全体像



リサイクルの様子

(P39-82) 福井県鯖江市・越前市・越前町

一般社団法人SOE

産業観光を核とした地域持続モデルの構築

## ■ 実施概要 (P41-76)

- ✓ ①持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり：地域事業者向けの研修、観光消費額測定に向けたアンケートの実施
- ✓ ②3市町の連携体制の構築：3市町合同ミーティング開催、各伝統工芸組合との分科会や組合協議への参加、産業観光及び広域連携に取り組む瀬戸内エリアへの現地視察
- ✓ ③伝統工芸・地場産業の事業者の巻き込み・既存コンテンツの高付加価値化：伝統工芸事業者へのアンケート、コンテンツの高付加価値化のため、有識者による現地訪問を実施

## ■ 主要成果 (P42,43,60,67)

- ✓ ①持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり：
  - ・ 研修に地域事業者と行政等から計12名が参加。
  - ・ 3市町に来訪歴のある国内パネルを対象にアンケートを実施し、計1,683サンプル収集の上、経済波及効果を算出※3市町に来訪した有効回答数764
- ✓ ②3市町の連携体制の構築：
  - ・ (一社) SOEが主催するミーティングに福井県・3市町の行政・観光協会等のメンバーが参加し、本事業の取組や成果及び今後の方針を報告
- ✓ ③伝統工芸・地場産業の事業者の巻き込み・既存コンテンツの高付加価値化：
  - ・ 事業者へのアンケートにて20社から回答を受領し、有識者と共に2日間で11事業者を訪問。視察を「高付加価値体験」へ転換するポイントのアドバイスを受領し、原材料から購買までを繋ぐ「一気通貫のストーリー」を確立するという今後の方向性を決定

## ■ 主要KPIの達成状況 (P79)

- ・ KGI：3市町観光データ管理基盤整備進捗率、目標値：100%、実績値：50%
- ・ KPI①：事業者の理解度・協力意向度、目標値・実績値：理解度50%・協力意向度30%
- ・ KPI②：開催・参加した協議回数、目標値：6回、実績値：8回
- ・ KPI③：観光客を通年で受け入れる事業者数、目標値：2件、実績値：4件
- ・ KPI④：高付加価値化に取り組んだ事業者数、目標値：2件、実績値：2件

## ■ 関連するJSTS-D指標

- ・ A5,A9
- ・ C2,C7,C8
- ・ D10,D11



経済波及効果算出結果の資料 有識者視察の様子



## 2.採択団体の取組事例

---



**HAKONE** DMO



**観光庁**  
Japan Tourism Agency



観光庁 令和7年度 持続可能な観光推進モデル事業

## 実証事業に係る最終報告書

一般財団法人箱根町観光協会

# 1. 本事業での取組

---

- (1) 実証事業の目的と取組
- (2) 取組の概要と実施結果
- (3) 各取組の詳細
- (4) 今年度の推進体制及び連携スペシャリスト
- (5) 実証事業のスケジュール
- (6) 実証事業における目標値の達成状況

# 実証事業の目的と取組

対象地域：神奈川県箱根町 | 申請団体名：一般財団法人箱根町観光協会

実証事業名：環境先進観光地・箱根 食品リサイクル循環プロジェクト

自然環境保護（観光GXの推進・廃棄物ゼロ等）の取組

事業費総額（税込）：4,017,030円  
精算対象費（税込）：3,995,768円

## ■ 地域の課題と中長期の取組方針

### 地域の現状・背景

- 環境意識の高い欧米豪の旅行者に選ばれ続ける観光地となるため、自然環境の保全と持続可能な観光地づくりの推進が不可欠である。
- 町内の可燃ごみの約8割を事業系廃棄物が占め、うち約5割が食品残渣である。
- 令和7年10月にごみ処理の広域化がなされており、排出量削減は喫緊の課題である。
- 観光事業者におけるごみ排出量削減の必要性の理解は一定程度あるが、実践に向けた知識や手段が不足している。

### 目指す姿（3年前後で到達したい姿）

- 「みんなでつくるSDGs Show Room」として、環境先進観光地箱根のブランドを確立し、SDGsに関心の高い観光客の選択肢となることを長期的ゴールとし、そのために以下の実現を目指す
- 町内の宿泊施設や製造業等から排出される食品廃棄物を再資源化し、その飼肥料を用いた農畜産物が町内で提供される“食の資源循環”スキームを確立
  - 確立したスキームに多くの宿泊事業者が参加し、箱根町全域に取組を拡大

### 主要な取組

- 中長期の
- 地域の現状・目指す姿から導出されたギャップは、事業者における理解不足及び“食の資源循環”実践に向けたノウハウ不足であるため、以下の取組の柱を設定する。
    - ✓ 町内事業者の機運醸成：取得促進に向けた機運醸成を図るための事業者向け研修の実施、食品循環リサイクルプロジェクトに関するアンケートを実施する
    - ✓ “食の資源循環”スキーム確立：運用モデル・スキームの確立に向けた箱根町の12事業者から連携した食品残渣の回収及び食品リサイクル実証調査を行う
    - ✓ 計画的な取組の推進：作成したロードマップに基づき、適切な進捗管理を行うとともに、必要に応じてロードマップを更新する

### KGI

- 指標名：①本事業への参加事業者数  
②湯本エリア以外の協議会参加事業者数（※）  
③飼料を用いた畜産物の提供事業者数

※面的な拡大を図るため、拡大ターゲットとなるエリアの有力事業者を想定

測定手法：年度末の参加事業者数をカウント

現状値：①6社 ②0社 ③0社（2024年度）  
実績値：①12社 ②0社 ③0社 達成率：100%（2025年度）  
目標値：①20社 ②2社 ③1社（2027年度）

## ■ 本年度事業の目的と取組（KGI達成に向けて本事業で設定している目的と取組）

### 本事業の目的

- “食の資源循環”実装に向け、具体的な課題解決手法の開発と参加意識の醸成を図り、ロードマップの実現可能性を高める
  - ✓ 観光客への意識調査を実施し、その結果を関係者への啓発活動に活用する
  - ✓ 施設見学や観光カンファレンス等の情報共有の機会を提供し、関係者の参加機運醸成を図る
  - ✓ 前年度の課題を踏まえ、参加施設・運搬業者・運搬方法などを見直した拡大実証調査を実施し、現実的な運用モデルを確立する

### 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

観光客への調査を実施し、分別回収の受容性や誘客への影響を把握する。調査結果は、町内事業者への啓発活動に活用し、“食の資源循環”スキームの構築・実装に向けた機運醸成を図る。

### 前年度課題に基づく解決策の実証実験

昨年度実証調査で明らかになった「コスト」「狭路・距離」「安定した運搬体制の構築」の課題解決に加え、実際の運用モデルに近い運用に挑戦する実証調査を実施する。

### ロードマップの更新


地域内合意形成の推進および実証調査の結果を踏まえ、昨年度作成したロードマップを更新（期間を5年に延長）し、計画的な取組を推進し、実装に向けた実現可能性を高める。

# 取組の概要と実施結果

		観光客の声を活用した地域内合意形成の促進	前年度課題に基づく解決策の実証実験	ロードマップの更新
関連基準		<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ A5 事業者における持続可能な観光への理解促進</li> <li>➢ A9 旅行者意見の調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ D11 廃棄物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ A3 モニタリングと成果の公表</li> <li>➢ D11 廃棄物</li> </ul>
概要		<p>観光客への調査を実施し、<b>分別回収の受容性や誘客への影響を把握</b>する。調査結果は、町内事業者への啓発活動に活用し、<b>“食の資源循環”スキームの構築・実装に向けた機運醸成</b>を図る。</p> <p>【取組内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 観光客向けアンケートの実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ “食の資源循環”スキームの誘客に対する影響調査（宿泊客及び将来の顧客となる学生対象）</li> <li>・ 分別への協力に対する受容性調査（宿泊客対象）</li> </ul> </li> <li>② 事業者向け啓発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設見学・観光カンファレンスでの発信・賛助会員への情報共有</li> </ul> </li> </ol> <p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「箱根DMO食品リサイクル循環プロジェクト」に対する評価について、国内外ともに66.5%以上が“とても良いと思う”と回答</li> <li>② 事業者向けアンケートにて71%が本事業への参加意向を明示</li> </ol>	<p>昨年度実証調査で明らかになった「コスト」「狭路・距離」「安定した運搬体制の構築」の課題解決に加え、<b>実際の運用モデルに近い運用に挑戦する実証調査</b>を実施する。</p> <p>【検証ポイント】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 積替（小型車から大型車）・隔日輸送による運搬効率化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コスト削減への挑戦</li> </ul> </li> <li>② 複数社による運搬体制構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安定した運搬体制への構築への挑戦</li> </ul> </li> <li>③ 参画施設の拡大（6施設 → 約12施設） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な宿泊施設に対応した実際の運用モデルに近い検証</li> </ul> </li> </ol> <p>【成果】</p> <p>検証ポイントを踏まえて、約2週間の実証実験を完遂。コスト面では約30%の削減効果可能性が明らかとなり、事業者の負担軽減を実現</p>	<p>地域内合意形成の推進および実証調査の結果を踏まえ、昨年度作成した<b>ロードマップを更新（期間を5年に延長）</b>し、計画的な取組を推進し、実装に向けた実現可能性を高める。</p> <p>【ロードマップ更新の進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 実証実験結果を踏まえ、実装スキーム案を改定</li> <li>② 運搬業者、箱根町環境課と実装スキーム改定案を協議し、合意形成</li> <li>③ 事業結果を踏まえ、事務局と主要関係者で協議のうえ、ロードマップ更新案を策定</li> <li>④ 1月末の協議会にて合意形成</li> </ol> <p>【成果】</p> <p>実証実験を踏まえて、令和10(2028)年度を目標年度として3ヵ年ロードマップを更新。各年度の進捗率・達成率の目標値を再設定。更新したロードマップに基づき、次年度の実行計画（要旨）を策定</p>
KPI	指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 本事業の取組の参加意向</li> </ul> <p>【測定手法】事業者（箱根DMO賛助会員）向けアンケート実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 運搬コストの試算額改善率</li> </ul> <p>【測定手法】年度末の振り返り協議</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ロードマップに沿った取組推進</li> </ul> <p>【測定手法】年度末の振り返り協議</p>
	実績	71%（2025年度）	36,510円/月・施設（▲33%）	単年度達成率100%、進捗率25%
残った課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 今年度参加事業者を除く、新たな9社の事業者が本事業への参画意向を示した結果を取得したが、全体数に対してアンケートの回答数が少ないため、次年度以降の取組に巻き込むための周知の強化が喫緊の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 今年度に掲げた3つの課題に応じて、それぞれ以下が継続課題として顕在化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運搬コスト：効率化・標準化・費用負担の設計</li> <li>・ 輸送距離：保管場所・車両仕様・少量排出者対応</li> <li>・ 体制：複数社運搬・動線整理・容器管理・分別教育</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 参加事業者拡大に向けた啓発活動の継続</li> <li>➢ 実証実験の継続と拡大</li> <li>➢ 上記に必要な資金の調達</li> <li>➢ 箱根町の各種計画との整合性調整</li> </ul>
取組方針	今後の	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 本事業内容の周知の拡大（カンファレンス、DMOだより等）</li> <li>➢ 町や議会を通しての発信、旅館ホテル協同組合など、組合を通じてた広報活動の周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 下記に重点をおいた実証調査の継続・拡大</li> <li>➢ 集約運搬スキームの再構築（保管場所・車両仕様の見直し）</li> <li>➢ 町内回収の効率化（置き場集約、ルート最適化、少量排出者対応）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 箱根町環境課との協議を本格化</li> <li>➢ 環境省、農水省等の補助事業活用検討</li> <li>➢ 拡大実証実験と事業者向け啓発活動の継続</li> </ul>

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 1/18

## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

取組内容	KPIの達成状況
<p>■ 目的</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 観光客への調査を通じて、観光客における分別回収の受容性や誘客への影響を把握</li><li>✓ 調査結果を施設見学や観光カンファレンス等の町内事業者への啓発活動に活用し、“食の資源循環”スキームの構築・実装に向けた参画機運を醸成</li></ul> <p>■ 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 観光客向けアンケート<ul style="list-style-type: none"><li>・ 概要：（１）“食の資源循環”スキームの誘客に対する影響調査 （２）分別への協力に対する受容性調査</li><li>・ 時期：常設調査...11月27日（木）～12月22日（月） 対面調査...12月20日（土）～12月21日（日）</li><li>・ 対象：箱根に訪れている観光客、将来の顧客となる学生</li><li>・ 手法：QRコード（Googleフォーム）を活用</li></ul></li><li>✓ 事業者向け啓発<ul style="list-style-type: none"><li>※下記以外に、観光カンファレンスでの発信、賛助会員への情報共有も実施</li><li>・ 概要：（１）リサイクル施設視察 （２）意識調査アンケート（対象事業者数：300） （３）観光客向けアンケート結果のフィードバック （４）箱根DMO賛助会員向け本事業結果の共有</li><li>・ 時期：（１）12月9日（火） （２）12月1日（月）～12月22日（月） （３）1月27日（火） （４）3月配信予定 （観光カンファレンスにて）</li></ul></li></ul> <p>■ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 観光客向けアンケートにて、計300サンプルを収集。「箱根DMO食品リサイクル循環プロジェクト」に対する評価について、国内外ともに66.5%以上が“とても良いと思う”と回答</li><li>✓ 事業者向け意識調査アンケートにて、71%が本事業への参加意向を明示</li></ul>  <p>大涌谷での現地調査の様子</p>	<p>■ 指標項目</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 本事業の取組の参加意向</li></ul> <p>■ 測定手法</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 事業者（箱根DMO賛助会員）向けアンケート実施</li></ul> <p>■ 目標値</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 2025年度：40%</li><li>✓ 2027年度：60%</li><li>※目標値は事業終了時に見直し予定</li></ul> <p>■ 実績値</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 2025年度：71%</li></ul> <p>推進上の工夫点</p> <p>■ 観光客向けアンケート</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 国内観光客だけではなく、インバウンド観光客からも十分なサンプル数を得るために、日頃からインバウンド観光客の来訪が多い箱根湯本駅の観光案内所・大涌谷インフォメーションでの常設調査を実施した。</li><li>✓ また箱根DMO単独ではなく、サーキュラーエコノミーの分野の研究を専門としている横浜国立大学の学生とともに、現地でのアンケート調査も実施した。日帰り・宿泊などの属性に関わらず多くの人を訪れる「大涌谷」という人気観光地で実施することにより、「サステナブルな観光」に対してかならずしも意識の高い客層以外からも、満遍なく声を集めることができた。</li></ul> <p>■ 事業者向け啓発</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 食品リサイクル循環プロジェクトに対する地域内での理解・参画促進を図るために、箱根DMOが中核を担う会議体や、メールマガジンを活用し、情報共有を行うとともに、日本フードエコロジーセンターへの現地視察を実施した。</li><li>✓ 現在実証実験を展開している箱根エリア以外も含む、箱根全山における本事業への意識を調査するため、事業者向けアンケート調査を実施した。</li></ul>

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 2/18

## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

### 観光客向けアンケート

#### 観光客向けアンケートに係る目的・設問項目

#### 目的

- ① **参加宿泊施設の啓発** | 観光客からのサステナブルな観光に対する高い関心度を示すことで、プロジェクトへ参加した宿泊施設のモチベーション向上に貢献
- ② **新規参加施設の獲得** | 今後プロジェクトへの参加を検討する宿泊施設に対し、本プロジェクトが観光客のニーズに応える取組であることをデータに基づき示すことで新たな参加を促進
- ③ **ブランド力向上のための効果的な広報戦略の策定** | 回答者の意見を分析することで、若年層を含む多様な層に響く情報発信の手法について検討

上記目的を踏まえて、宿泊客及び将来の顧客となる学生を対象として以下のアンケート項目を設定

【回答形式】

SA：単一回答

MA：複数回答

FA：自由回答

#### 宿泊客向けアンケート

No	大項目	設問	回答形式
1	基本情報	あなたの年齢をお聞かせください。	SA
2		あなたがお住まいの都道府県を教えてください。	FA
3	観光客の基本情報とサステナブル観光への意識	今回の箱根旅行の主な目的は何ですか？	MA
4		あなたにとって、「サステナブルな観光」とはどのようなイメージですか？	SA
5		旅行先を選ぶ際、「サステナブルな観光」を意識して旅行先を選定していますか？	SA
6		箱根エリアでは環境先進観光地箱根を目指す持続可能な観光に関するさまざまな取組を行っていますが、聞いたことがある取組はありますか？	MA
7	箱根の取組への理解と評価	「箱根DMO食リサイクル循環プロジェクト」について、あなたはどのように評価しますか？	SA
8		このような取組を行っている宿泊施設に、より泊まりたいと思いますか？	SA
9	行動変容と今後の期待	もし、あなたが宿泊する施設でこの食リサイクルに協力できるとしたら、どんな方法なら協力しやすいですか？	MA
10		このようなサステナブルな取組を行っている「箱根」という地域に、より魅力を感じますか？	SA
11		今回のアンケートを通じて知った箱根のサステナブルな取組などを、より多くの観光客に知ってもらうには、どのような情報発信が効果的だと思いますか？	MA
12		箱根のサステナブルな取組について、どのような情報をより知りたいと思いますか？	MA

#### 将来の顧客向けアンケート

No	大項目	設問	回答形式
1	基本情報	これまで箱根に旅行に来たことはありますか？	SA
2	「サステナブルな観光」のイメージと関与意欲	「SDGs（持続可能な開発目標）」について、どの程度ご存知ですか？	SA
3		「SDGs（持続可能な開発目標）」のなかで、もっとも関心のある目標、自分自身で関与したいと思う目標はどれですか？	SA
4		旅行先を選ぶ際、「サステナブルな観光」を意識して目的地を選んだり、宿を選ぶことはありますか？	SA
5		あなたにとって、「サステナブルな観光」とはどのようなイメージですか？ もっとも当てはまるものを1つお選びください。	SA
6		箱根エリアでは環境先進観光地箱根を目指す持続可能な観光に関するさまざまな取組を行っていますが、聞いたことがある取組はありますか？	SA
7		あなたが宿泊する施設でこの食リサイクルに協力できるとしたら、どんな方法なら協力しやすいですか？	MA
8		情報発信と期待	箱根町が「環境先進観光地」を目指すこの「食リサイクル循環プロジェクト」にあなたが関与するとしたら、どのような手法が思い浮かびますか？
9	箱根のサステナブルツーリズムに関わる取組について、どのような情報発信があなたの世代に最も響くと思いますか？		SA
10	今後、箱根のような観光地に対して、どのようなサステナブルな取組を期待しますか？		FA

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 3/18

## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

### 観光客向けアンケート（対象：箱根を訪れている観光客）

#### 観光客向けアンケートの結果

実施期間：12/1（月）～12/26（金）  
 実施場所：常設調査⇒①大涌谷インフォメーションセンター  
 ②箱根町総合観光案内所  
 対面現地調査⇒大涌谷駅舎周辺  
 回答枚数：国内362件、海外167件（計529件）

#### 観光客の基本情報とサステナブル観光への意識

##### 【問1. あなたの年齢をお聞かせください。】

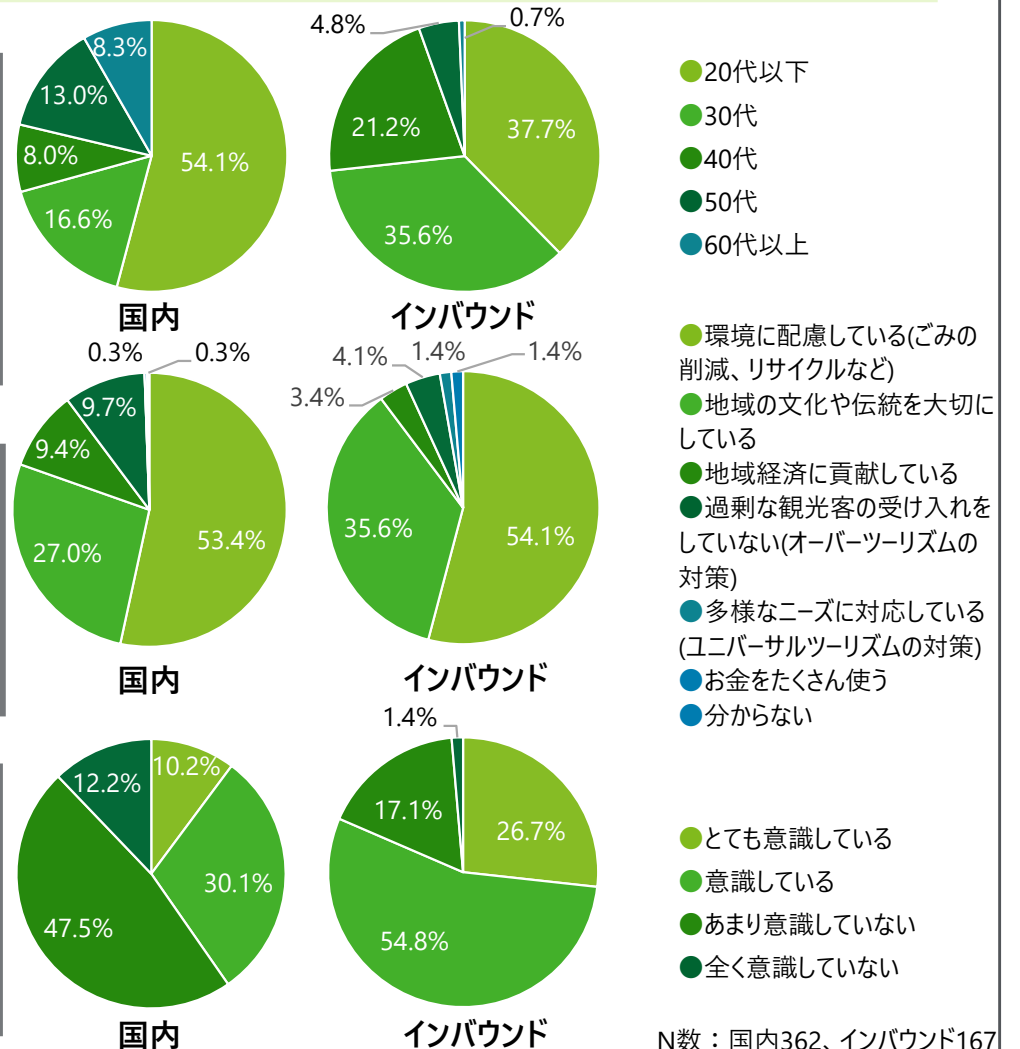
国内外ともに20代～30代の若年層の回答が多い  
 こちらは箱根DMO観光診断書アンケートの年齢配置とほぼ等しい結果となった。  
 ※箱根DMO観光診断書アンケート  
 町内の観光施設91カ所と協業して、通年実施しているアンケート調査。  
 属性・旅行目的などを集計しており、平均回答数は6000件／年間程度。

##### 【問4. あなたにとって、「サステナブルな観光」とはどのようなイメージですか？】

国内旅行者・海外旅行者ともに、かなり高い割合で「環境に配慮している」取組とサステナブルな観光を紐づけて考えていることが伺える。  
 ※「地域の伝統や文化を大切にする」という点においては、10%ほど高い数値となっている。

##### 【問5. 旅行先を選ぶ際、「サステナブルな観光」を意識して旅行先を選定していますか？】

インバウンドは「意識している」以上の回答で80%を占めているのに対して、国内は40%に留まり、国内外で「サステナブルな旅行」に対する意識・モチベーションの差があることが読み取れる。



# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 4/18

## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

観光客向けアンケート（対象：箱根を訪れている観光客）

### 観光客向けアンケートの結果

#### 観光客の基本情報とサステナブル観光への意識

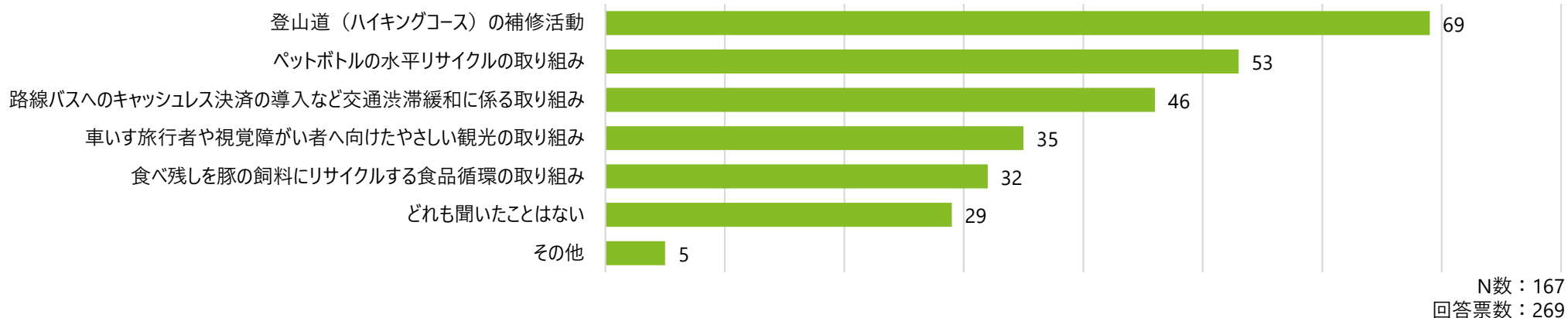
##### 【問6. 下記の選択肢のなかで、聞いたことがあるものはありますか？（複数回答可）】

箱根サステナブルツーリズムの公式HPで周知している、「登山道補修活動」や、実際に旅行中に目にする「路線バスへのキャッシュレス決済の導入」などは一定の認知があることが分かる。観光客の協力が必要となる当該事業やペットボトルの水平リサイクルなどの取組は、より一層発信を強化する余地があると読み取れる。

##### 【国内観光客】



##### 【インバウンド観光客】



# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 5/18

## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

観光客向けアンケート（対象：箱根を訪れている観光客）

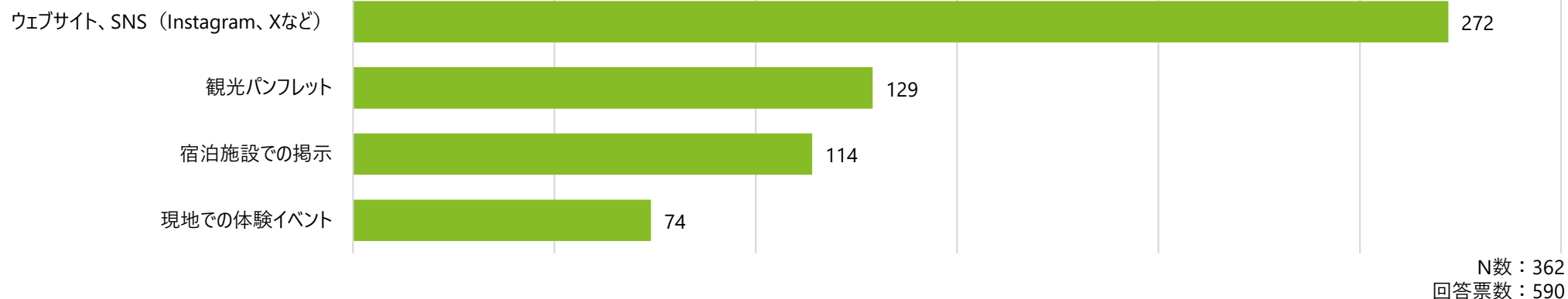
### 観光客向けアンケートの結果

#### 箱根DMOの取組への理解と評価

【問11. アンケートを通じて知ったサステナブルな取組などを、多くの観光客に知ってもらうには、どのような情報発信が効果的だと思いますか？  
（複数回答可）】

想定通り、オンライン媒体を通じた周知が効果的であることが分かる一方で、箱根のハイキングマップなど、サステナブルツーリズムに親和性の高い層が手に取るパンフレット類に、取組の紹介などを掲載することも十分な効果があると認識する。

#### 【国内観光客】



#### 【インバウンド観光客】



# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 6/18

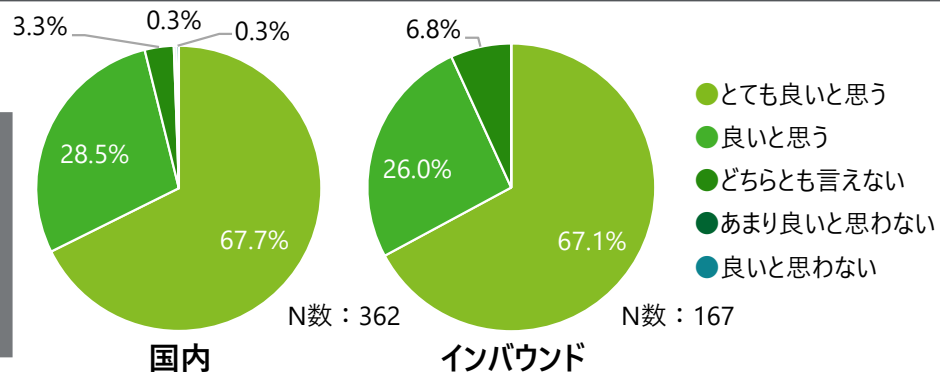
## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

### 観光客向けアンケート（対象：箱根を訪れている観光客）

#### 観光客向けアンケートの結果

**【問7.「箱根DMO食品リサイクル循環プロジェクト」について、あなたはどのように評価しますか？】**

具体的な取組について説明したうえで、どう評価するか問う形式であったが、「箱根DMO食品リサイクル循環プロジェクト」に対する評価について、国内外ともに66.5%以上が“とても良いと思う”と回答し、非常に良い評価を得ている。



#### 行動変容と今後の期待

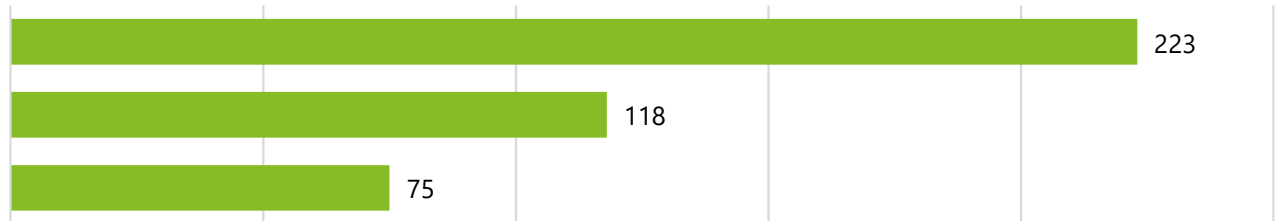
**【問9. あなたが宿泊する施設でこの食品リサイクルに協力できるとしたら、どんな方法なら協力しやすいですか？（複数回答可）】**

国内旅行者は「食べ残し」を減らす方法がもっともハードルが低く、海外旅行者では「残渣とゴミの分別」がもっともハードルが低いことが分かった。

食卓における文化の差があると考えられ、国内旅行が多いか、海外旅行者が多いかという宿泊客の利用比率によって、打ち手を分けるという対応も取れるのではと考える。

#### 【国内観光客】

案内があれば、食事の際、食べ残しとそれ以外のゴミを分けて廃棄する



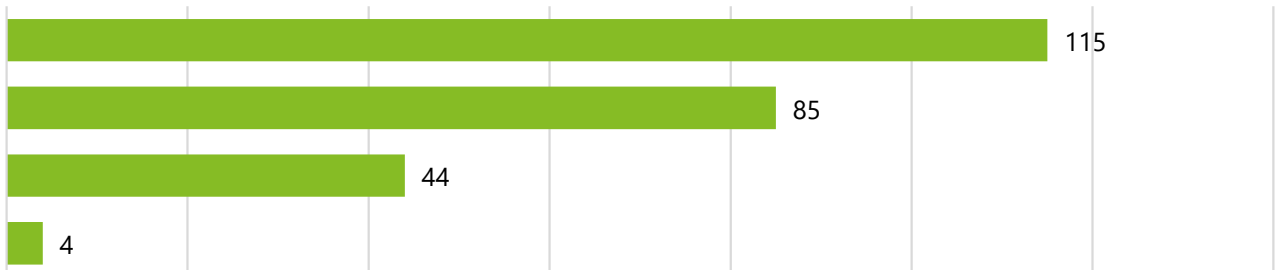
N数：362

回答票数：416

※その他の回答数は0

#### 【インバウンド観光客】

案内があれば、食事の際、食べ残しとそれ以外のゴミを分けて廃棄する



N数：167

回答票数：248

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 7/18

## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

観光客向けアンケート（対象：箱根を訪れている観光客）

### 観光客向けアンケートの結果

#### 箱根DMOの取組への理解と評価

##### 【問12. 箱根のサステナブルな取組について、どのような情報をより知りたいと思いますか？（自由記述）】

「その取組に関与するとどのようないいことが起こるのか知りたい」または「取組を推進している施設の情報などを対外的に発信して欲しい」といった声が多く、箱根DMOとしても、箱根サステナブルツーリズムのホームページや、箱根温泉インスタグラムなどのオウンドメディアを活用して箱根全体の取組を発信していくとともに、各事業者さまにおいても、ホームページなどで自社の取組を発信していただくことが、選ばれ続ける観光地であるために、必要であると認識している。

#### ① 旅行者が「自分も参加できる」取組

- 旅行者でも協力できるサステナブルな取組内容
- 貢献すると何かが返ってくる（特典・見返り・参加感）
- その取組を自分がすることで、どのようなメリットがあるのか

#### ② 分かりやすさ・見える化（現地での判断材料）

- ゴミ箱設置場所の情報
- 箱根限定のサステナブル取組シールを店舗前に掲示
- どのホテル・飲食店がその取組をしているのか分かる情報
- 実際にサステナブルを実施している観光地・店舗をまとめた情報

#### ③ 食・資源循環への関心

- 食材の地産地消
- 食べ残しなどが、どのように豚の餌へと変わっていくのか、その過程

#### ④ 環境・自然保護への取組

- 環境保護／森林保護の取組内容

#### ⑤ 快適さの追求とサステナビリティ推進の両立

- サステナブルな取組を行うことで、観光しにくくなっていないか

#### ⑥ 他地域との比較・箱根の先進性

- 行っている取組について、他の地域と異なる点／似ている点

#### ⑦ 取組の先にある箱根の目指す姿

- サステナブルな取組を続けた先に目指す「箱根の姿」

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 8/18

## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

将来顧客向けアンケート（対象：横浜国立大学生徒（池島ゼミ生等））

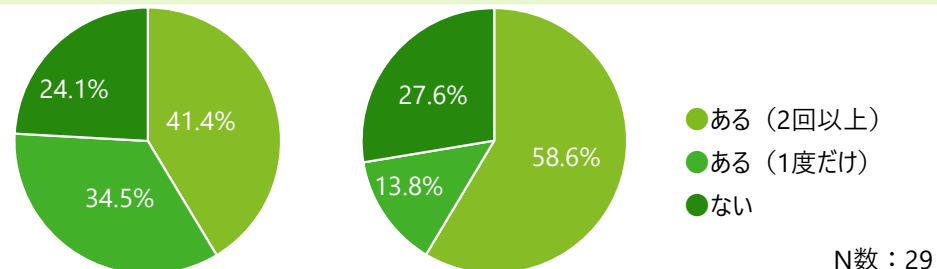
### 将来顧客向けアンケートの結果

実施期間：1/15（木）～2/1（日）  
 対象：横浜国立大学 池島ゼミ生 + 友人・知人  
 回答枚数：29件

### 観光客の基本情報とサステナブル観光への意識

#### 【問1. これまでに箱根に旅行（宿泊）にきたことはありますか？】

日帰り・宿泊問わず、約半数が2回以上旅行にきていることがわかる  
 しかしながら、約3割は来訪未経験であることもともに分かっており、  
 こちらには宿泊施設等の価格帯の上昇による20代（特に学生）の旅行控えなども  
 影響も考え得る。



#### 【問2. 「SDGs（持続可能な開発目標）」について、どの程度ご存知ですか？】

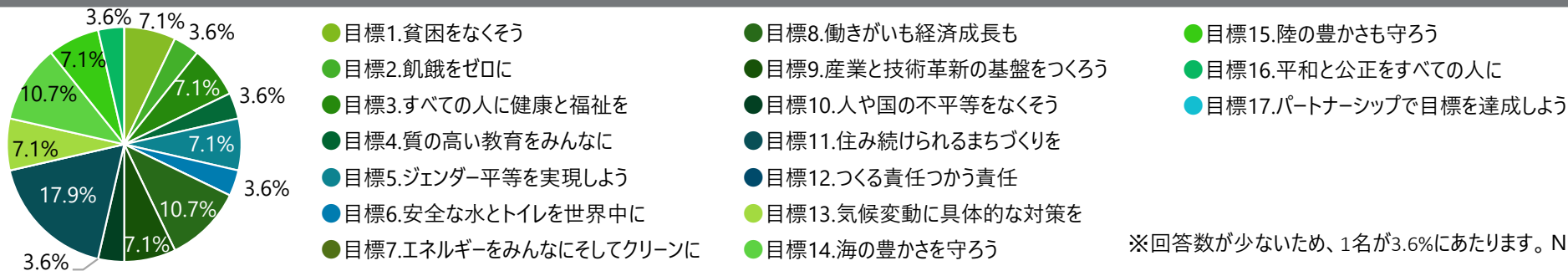
「いくつかの目標を知っている」「聞いたことがある程度」が9割程度を占めており、  
 ▶ SDGsは「学校やSNSで触れたことがある一般教養」であり、  
 各項目の内容を把握するレベルの“自分ごと化”はまだ進んでいないことがわかる



#### 【問3. 「SDGs（持続可能な開発目標）」のなかで、もっとも関心のある目標、自分自身で関与したいと思う目標はどれですか？】

もっとも関心のあるSDGs目標⇒目標11（住み続けられるまちづくり）

▶ 海・陸・エネルギーといった抽象的な概念よりも、「暮らし」「地域」「自分の生活圏」に近いテーマに関心が強い。観光×サステナブルの親和性は高い素地がある



# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 9/18

## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

将来顧客向けアンケート（対象：横浜国立大学生徒（池島ゼミ生等））

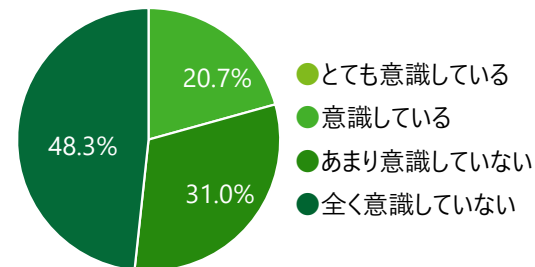
### 将来顧客向けアンケートの結果

#### 観光客の基本情報とサステナブル観光への意識

【問4. 旅行先を選ぶ際、「サステナブルな観光」を意識して旅行先を選定していますか？】

「全く意識していない」「あまり意識していない」が多数派

▶SDGsなどに対する意識は低いものの、「優先順位が低い」状態もしくは、旅行と結びつていない段階かと推測する

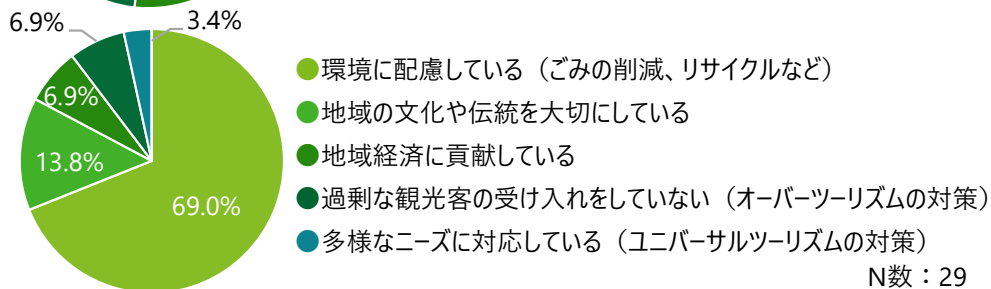


N数：29

【問5. あなたにとって、「サステナブルな観光」とはどのようなイメージですか？】

こちらは、観光客向けアンケート（全年齢）よりも高い数値で、「環境配慮」がもっとも高い数値となっている

▶食品リサイクルやペットボトルなどの資源循環などの、「環境配慮」の要素が強い施策の訴求効果は高いと見受けられる



N数：29

【問6. 下記の選択肢のなかで、聞いたことがあるものはありますか？（複数回答可）】

旅行中に目にする事の多い「路線バスへのキャッシュレス決済の導入」などは一定の認知があることが分かる。

「環境配慮」の要素の強い、ペットボトルの水平リサイクルや食品リサイクルに係る取組は、より一層発信を強化する余地があると読み取れる。



N数：29  
回答票数：43

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 10/18

## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

将来顧客向けアンケート（対象：横浜国立大学生徒（池島ゼミ生等））

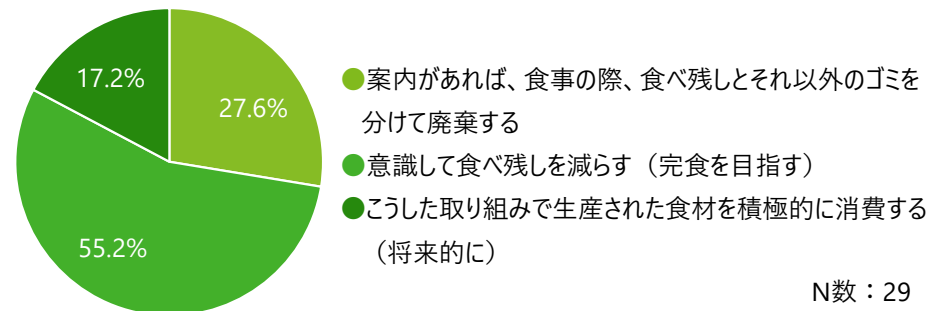
### 将来顧客向けアンケートの結果

#### 行動変容と今後の期待

【問7. あなたが宿泊する施設でこの食品リサイクルに協力できるとしたら、どんな方法なら協力しやすいですか？】

協力しやすい行動は圧倒的に「意識して食べ残しを減らす」こと

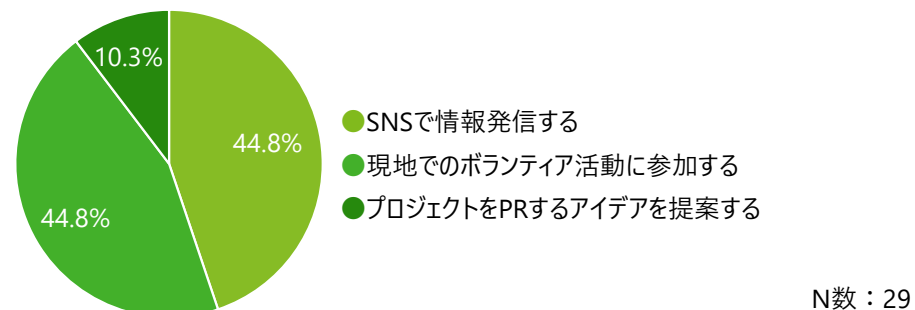
▶ 20代は✓ 手間が少ない✓ 行動ハードルが低い✓ 説明が分かりやすい  
ものであればあるほど協力しやすいと読み取れる



【問8. 箱根町が「環境先進観光地」を目指すこの「食品リサイクル循環プロジェクト」にあなたが関与するとしたら、どのような手法が思い浮かびますか？】

SNS + 発信ボランティアが圧倒的に多い

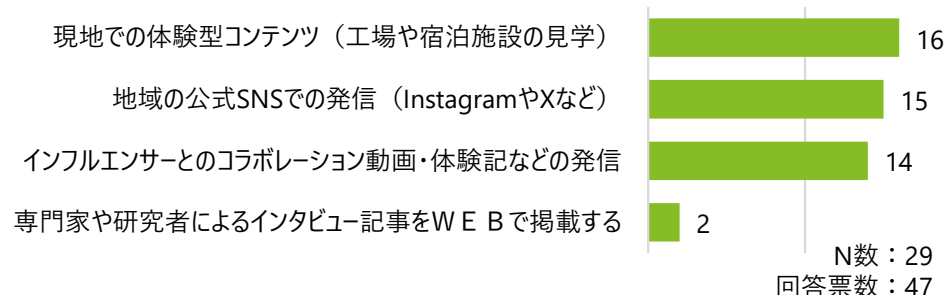
▶ 若者世代にとって当たり前になっている「自分の体験したことを発信する」という構造にマッチしている



【問9. 箱根のサステナブルツーリズムに関わる取組について、どのような情報発信があなたの世代に最も響くと思いますか？（複数回答可）】

地域の公式SNSでの発信 + 現地体験型コンテンツが多い

▶ 観光客向けアンケート（全年齢）と比較して、「現地体験型コンテンツ」の率がかなり高いことから、若い世代では、自分自身で体験することに重きを置いていることが分かる。



# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 11/18

## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

将来顧客向けアンケート（対象：横浜国立大学生徒（池島ゼミ生等））

### 将来顧客向けアンケートの結果

#### 行動変容と今後の期待

【問10. 今後、箱根のような観光地に対して、どのようなサステナブルな取組を期待しますか？（自由記述）

例：「宿泊施設で自分も参加できるSDGsのイベントの開催」「マイボトル持参で飲食店などで優待を受けられる」など...】

回答は主に①～④のジャンルでのコメントが寄せられた。

特に意見の数としては①～④の順に多いため、20代はサステナブルな取組に対し、行動ハードルが低く、楽しさやインセンティブがあるものを強く期待していることが分かる。

若者の場合は、サステナブルが目的のものよりも、旅行中に体験としてできることなど、結果的にサステナブルにつながる取組のほうが協力を得やすいことがアンケート結果で示唆されている。

#### ① インセンティブ・得がある仕組み（行動の後押し型）

##### 該当回答

- マイボトルの持参で、飲料水が無料で飲めるような仕組み
- サステナブルな取組を自発的に行ったら割引や手当がもらえる
- 貢献したらクーポンがもらえると若い層は取組やすい
- マイボトルやマイバッグを持っていくことで優待があればなおよい

#### ② 食・フードロス・循環への関心（身近で分かりやすい）

##### 該当回答

- 地域で栽培した作物を使った料理
- 食べ残しがどう豚の餌になるのかの紹介
- 宿泊施設や飲食店でのフードロス削減と環境に配慮した製品の使用

#### ③ イベント・体験型（楽しさ・共有前提）

##### 該当回答

- みんなが参加できるイベントを街で開催
- 持続可能性の高い芸術系イベント
- 気軽に参加できるものだと自分もやろうと思える

#### ④ 情報の見える化・分かりやすさ

##### 該当回答

- 地域の伝統を分かりやすく説明する掲示
- サステナブルな飲食店がわかるといい
- 取組の積極的拡散
- 情報を取りに行かないと分からないことが多い

前頁のアンケートにおいて、若者はボランティアや現地体験コンテンツへの関心が高いことが分かったため、今後、将来の顧客層を対象とした場合は、③イベント・体験型の意見を参考にしていきたい。

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 12/18

## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

### 事業者向けアンケート

#### 事業者向けアンケートに係る目的・設問項目

##### 目的

- ① **地域事業者におけるSDGs取組状況の現状把握と意識の可視化** | 観光事業者・宿泊事業者が現在どのようなSDGs（特に環境）に関する取組を実施しているか、また実施できていない理由を把握
- ② **新規参画促進のための具体的なニーズの把握** | 食品残渣リサイクル事業への関心度、参画する上での懸念事項、重要視する点（コスト、PR、衛生面など）を具体的に特定し、新規事業者を増やすための営業戦略およびプロジェクトの改善に活用
- ③ **効果的な「参画支援パッケージ」の検討と提案** | 事業者がリサイクル事業を「取組やすくなる」ために必要な具体的な支援策（補助金、情報提供、回収システムなど）を明確にし、今後のDMOとして提供すべき支援策を策定

上記目的を踏まえて、箱根DMOの賛助会員及び商工会議所を対象として以下のアンケート項目を設定

#### アンケート設問

No	大項目	設問	回答形式
1	基本情報	業種を教えてください。	単一回答
2		事業所の所在エリアを教えてください。	単一回答
3		従業員数を教えてください。	単一回答
4	SDGsへの取組の状況	現在、貴施設で、プラスチックや廃棄物、食品ロスの削減等のSDGsに関する取組をされていますか。	単一回答
5		(No.5で「はい」と回答した方) どのような事を行っているか可能な範囲で教えてください。	複数回答
6		上記の取組の詳細、または上記以外の取組があればそれについて、具体的に教えてください。	自由記述
7	食品残渣リサイクルへの関心	貴施設において、食品残渣（食べ残し、調理くずなど）はどの程度発生していますか。	単一回答
8		発生した食品残渣は現在どのように処理していますか。	単一回答
9		箱根DMOが検討中の、「食品残渣を豚の飼料としてリサイクルする取組」について、貴施設は関心がありますか。	単一回答
10		取組に参画する上で、最も重要視する点は何ですか。	単一回答
11	今後の支援と事業所情報	今後、SDGsの取組（特にリサイクル施策）を始める・続けるにあたり、箱根町や箱根DMOからどのような支援・協力があれば取組やすくなりますか。	複数回答
12		今後行ってみたい取組があれば、教えてください。	自由記述

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 13/18

## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

### 事業者向けアンケート

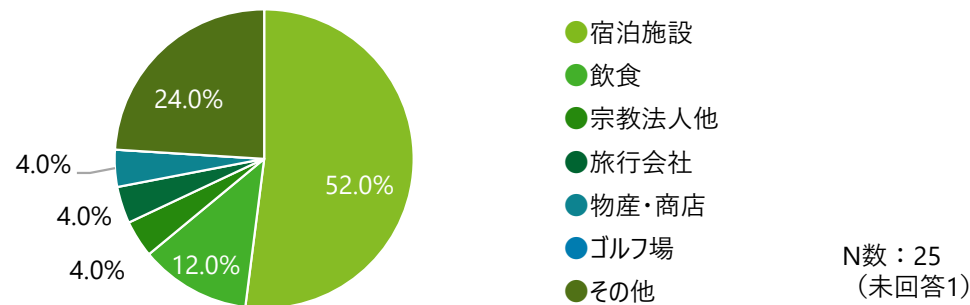
#### 事業者向けアンケートの結果

実施期間：1/15（木）～2/3（火）  
 対象：箱根DMO賛助会員施設（360施設）  
 回答数：26件

#### 基本情報と取組状況について

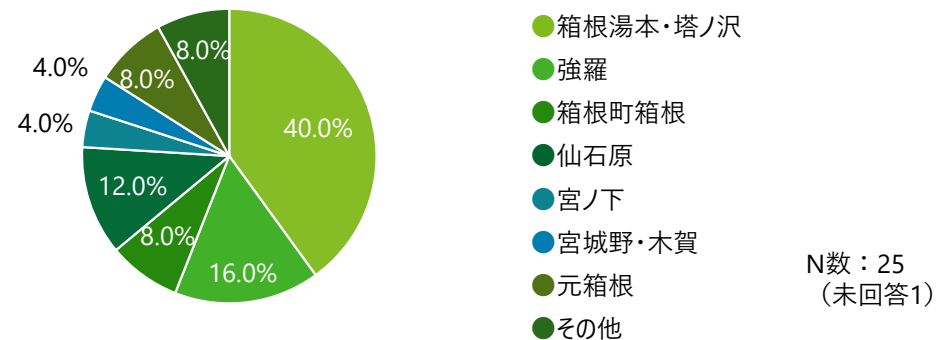
##### 【問1. 業種を教えてください。】

宿泊 + 飲食施設で過半数の回答を得るも、  
 食品の発生しうる観光施設や温浴施設からの回答も見られた。



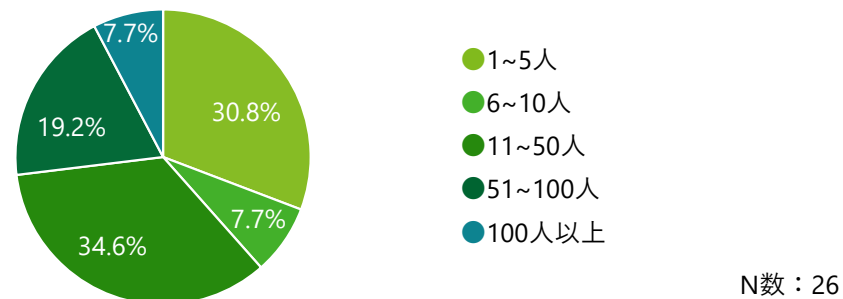
##### 【問2. 事業所の所在エリアを教えてください。】

今回実証実験を行った箱根湯本エリア半数を占める中、  
 それ以外のエリアからも、偏りなく回答を得ることが出来ている。  
 ▶食品リサイクル事業に限定せず、箱根一体となったサステナブルな取組について、  
 箱根湯本エリア以外からも高い関心があることが読み取れる。



##### 【問3. 従業員数を教えてください。】

50名以下の中小規模事業者が約7割を占めている  
 ▶これまでの実証事業で検証が実施できている部分もあるが、サステナブルな取組に  
 関するDMOとしての支援策は大規模向けだけでなく小規模事業者でも無理なく参  
 加できる設計が重要となると、改めて認識できる。



# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 14/18

## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

### 事業者向けアンケート

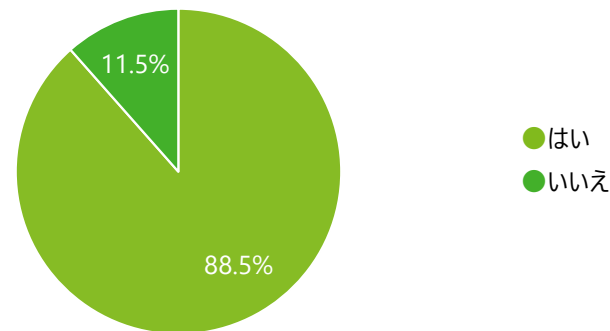
#### 事業者向けアンケートの結果

#### 基本情報と取組状況について

【問4. 現在、貴施設で、プラスチックや廃棄物・食品ロスの削減等のSDGsに関する取組をされていますか？（どんな小さなことでも構いません）

88.9%の事業者が、すでに取組を実施している

▶2021年に箱根DMOが実施したアンケート調査では、85.5%を記録した為、全体的な取組進捗があがっていると見受けられる。

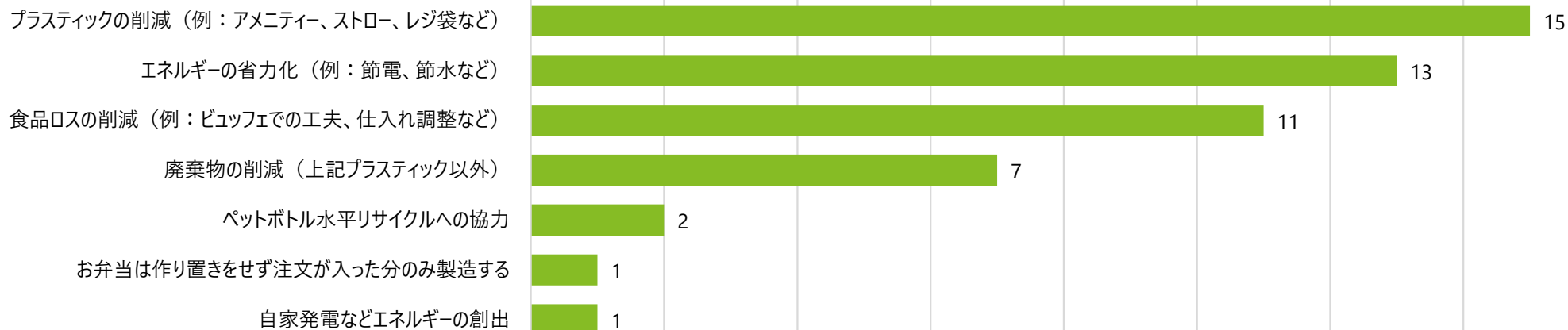


N数：26

【問5. 「はい」とお答えいただいた事業者様へお伺いします。どのような事を行っているか可能な範囲で教えてください。（選択 + 自由記述）】

想定通り「環境配慮」の要素がかなり強く、アメニティを中心とするプラスチックの削減や食品ロス、省エネルギーの取組が上位に挙がっている。

▶一方で、サントリーと箱根DMO共同で推進した水平リサイクルの取組の定着や、食品ロスの発生抑制に関する取組も見受けられた。



N数：26

回答票数：50

※「その他」を選択した場合は自由記述制のため、一部重複の項目あり

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 15/18

## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

### 事業者向けアンケート

#### 事業者向けアンケートの結果

#### 基本情報と取組状況について

【問6. 上記の取組の詳細、または上記の選択肢以外の取組があればそれについて、具体的に教えてください。】

多くの施設で取組が実施されている①・②のカテゴリーのほか、温泉地箱根ならではの取組としての温泉熱の活用や、組織内でのSDGs推進体制の構築など、さまざまな取組状況を把握できた。

#### ① フードロス削減・資源の有効活用（食）

- 食材の在庫確認を怠らない
- 仕入れの調整と、余剰分を自家消費できるよう工夫
- 美味しい食事を適切な量で提供し、食べ残しが非常に少ない

#### ② プラスチック削減・循環型資源利用

- 箱根では唯一となるオールペーパーのテイクアウトコーヒーカップを使用

#### ③ 水資源の節約

- 節水コマを導入

#### ④ エネルギー・脱炭素への取組

- 電気自動車の使用
- 温泉熱を床暖房、浴場・厨房使用水の加温に利用

#### 番外編)

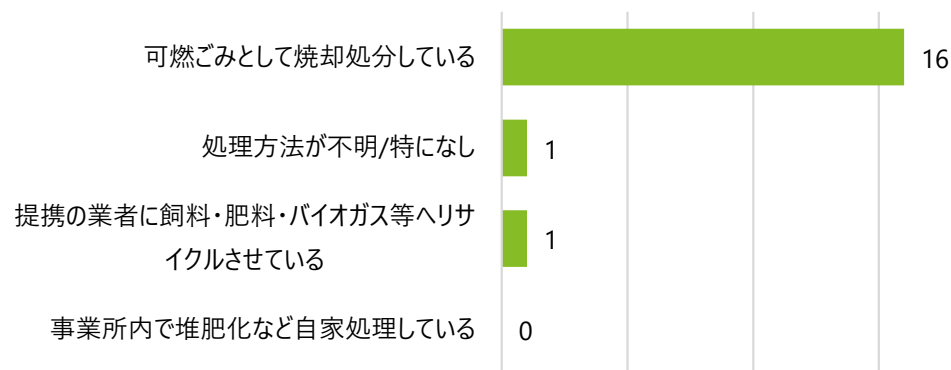
#### ★SDGs推進体制の組織づくり

- 会社で定めているSDGs活動の一環として、支店内に委員会制度を設けている

【問7. 貴施設で発生する食品残渣は現在どのように処理していますか？（複数回答可）】

19件の回答の内、16件が「可燃ごみとして焼却処分している」ことが判明。

▶食品リサイクルへの潜在層が多くいることが分かる。



N数：26  
回答票数：18

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 16/18

## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

### 事業者向けアンケート

#### 事業者向けアンケートの結果

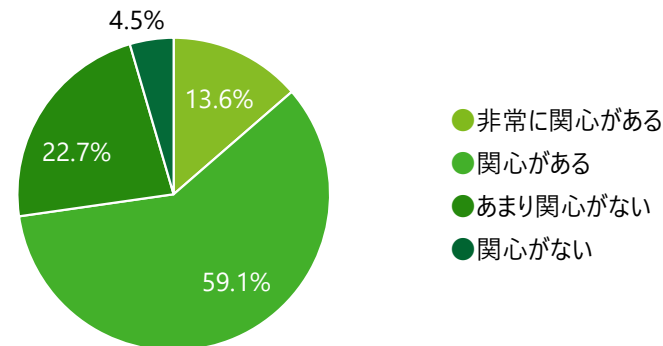
#### 箱根DMOの取組への関心とニーズ

【問9. 箱根DMOが検討中の、「食品残渣を豚の飼料としてリサイクルする取組」へのご参加について、貴施設は関心がありますか？（要回答）】

回答21件のうち、15件が「非常に高い関心がある」または「関心がある」と回答

▶本事業のKPIとして掲げていた参加意向について、目標として設定していた40%に対して、結果は71%と非常に関心もたれていることが分かった。

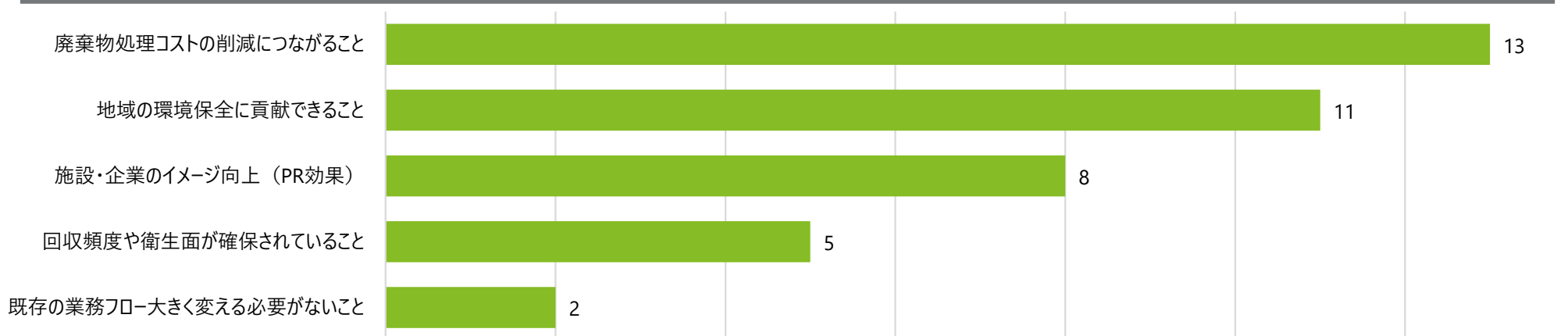
次年度の事業拡大へ向けて、対象の事業者へは丁寧に説明を行う必要がある。



N数：22  
(未回答4)

【問10. 「非常に高い関心がある」「関心がある」とお答えになった事業者様へお伺いします。取組に参画する上で、重要視する点は何ですか？（複数回答可）】

「廃棄物処理コストの削減につながること」が最上位にあがるなか、「地域の環境保全に貢献できること」もその次に上げられており、事業者単位ではなく、箱根地域が官民一体となって推進するという点にも、価値が見出されていることがわかる。



N数：26  
回答票数：39

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 17/18

## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

### 事業者向けアンケート

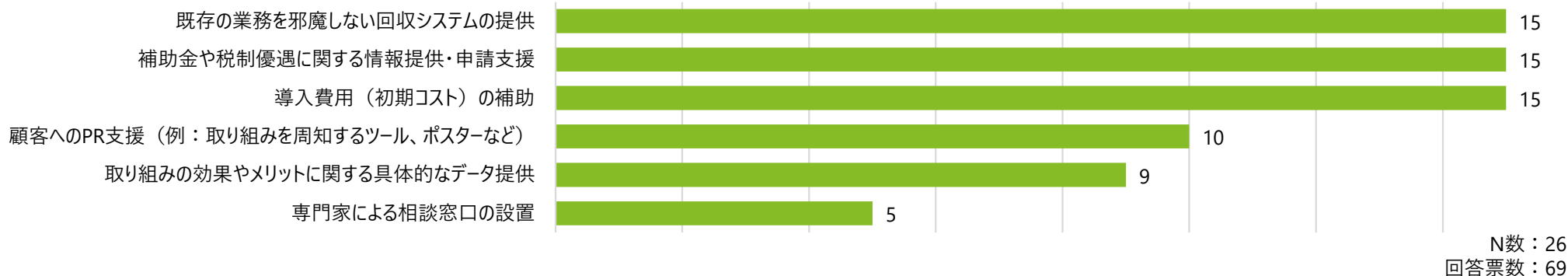
#### 事業者向けアンケートの結果

#### 今後の支援

【問11. 今後、SDGsの取組（特にリサイクル施策）を始める・続けるにあたり、箱根町や箱根DMOからどのような支援・協力があれば取組やすくなりますか？（複数回答可）】

「補助金・税制優遇の情報提供」「初期コストの支援」といったコストの面はさることながら、「既存業務を邪魔しない回収・運用システム」についても同様の需要があることが分かる

▶慢性的な人手不足や、外国人材の雇用促進が進むなか、オペレーションへの負担も大きな判断材料になっているというより現場の課題感に近い結果が見受けられた。



【問12. 今後行ってみたい取組があれば、教えてください。（自由記述）】

あがった意見はおもに以下の4つのカテゴリーに分類することができた。いずれも、現場負担を増やさずに、観光価値と両立する取組とできるかがポイントとなる。

#### ①【資源循環・廃棄物削減】

- ・落ち葉や枯れ木を活用したSDGsの取組
- ・食事量の適正化（特にインバウンド対応による食品ロス削減）

#### ②【エネルギー・環境負荷低減】

- ・省エネ・省コストにつながる自家発電自家発電などエネルギーの創出

#### ③【観光客参加型SDGs】

- ・マイボトル持参を条件としたプレミアム体験

#### ④【意識醸成・人材育成】

- ・定期的なSDGs講習会や勉強会

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 18/18

## ■取組① | 観光客の声を活用した地域内合意形成の促進

### 事業者向けアンケート

#### 事業者向けアンケートの総括

#### 箱根町内事業者アンケート 総括（全26件）

##### 調査目的

本調査は、①事業者のSDGs取組状況の把握、②食品残渣リサイクル等への参画ニーズの特定、③今後DMOが提供すべき支援策の検討、の3つを目的に据えて調査を実施

##### ① 取組状況・意識の現状

- 観光・宿泊事業者を中心に、プラスチック削減・食品ロス削減・省エネ等はすでに一定程度実施
- 未実施の主因は「関心不足」ではなく、何から始めるか分からない／コスト・手間への不安
- SDGsは理念と日常業務とのバランスが重視されている

##### ② 新規参画に向けたニーズ（食品残渣リサイクル）

- 食品残渣は多くの事業者で発生しているが、現状は焼却処理が中心
- 条件次第で参加したい事業者が多数
- 重視点：コスト削減／PR効果／衛生・回収体制の安心感

##### ③ DMOに求められる役割

- 補助金・制度情報の整理と申請支援
- 導入・運用が分かる分かりやすい仕組みづくり
- 取組を“見える化”するPR・事例共有

##### ④ 総括

事業者の意識はすでに高いことが分かった。  
今後は箱根DMOが仕組みと支援を整えることで、事業の拡大を図っていく。

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 1/4

## ■取組② | 前年度課題に基づく解決策の実証実験

取組内容								KPIの達成状況																																																																																							
<p>■ 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 前年度の課題である「コスト」「狭路・距離」「安定した運搬体制の構築」を踏まえ、参加施設・運搬業者・運搬方法などを見直した拡大実証調査の実施による現実的な運用モデルの確立</li> </ul> <p>■ 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 食品リサイクル実証調査                     <ul style="list-style-type: none"> <li>概要：湯本エリアの宿泊施設等12施設の食品循環資源を通い箱方式で回収保管拠点に保管車両（4t車）を設置して日々集約し、隔日でリサイクル施設へ搬入</li> <li>時期：2025年12月8日（月）～12月22日（月）</li> <li>対象：宿泊10＋飲食2施設（計12施設）</li> </ul> </li> </ul> <p>■ 実施スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>0週目</th> <th>12/1(月)</th> <th>12/2(火)</th> <th>12/3(水)</th> <th>12/4(木)</th> <th>12/5(金)</th> <th>12/6(土)</th> <th>12/7(日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事前準備</td> <td colspan="7">通い箱2セット積込→排出場所へ1セット設置</td> </tr> <tr> <td>1週目</td> <td>12/8(月)</td> <td>12/9(火)</td> <td>12/10(水)</td> <td>12/11(木)</td> <td>12/12(金)</td> <td>12/13(土)</td> <td>12/14(日)</td> </tr> <tr> <td>排出者 →保管拠点</td> <td>回収(昼)</td> <td>回収(昼)</td> <td>回収(昼)</td> <td>回収(昼)</td> <td>回収(昼)</td> <td>回収(昼)</td> <td>回収(昼)</td> </tr> <tr> <td>保管拠点 →J.FEC</td> <td>車両借受(朝) →空容器積込</td> <td></td> <td>運搬(朝)</td> <td></td> <td>運搬(朝)</td> <td></td> <td>運搬(朝)</td> </tr> <tr> <td>2週目</td> <td>12/15(月)</td> <td>12/16(火)</td> <td>12/17(水)</td> <td>12/18(木)</td> <td>12/19(金)</td> <td>12/20(土)</td> <td>12/21(日)</td> </tr> <tr> <td>排出者 →保管拠点</td> <td>回収(昼)</td> <td>回収(昼)</td> <td>回収(昼)</td> <td>回収(昼)</td> <td>回収(昼)</td> <td>回収(昼)</td> <td>回収(昼)</td> </tr> <tr> <td>保管拠点 →J.FEC</td> <td></td> <td>運搬(朝)</td> <td></td> <td>運搬(朝)</td> <td></td> <td>運搬(朝) 空容器なし</td> <td>空容器撤収</td> </tr> <tr> <td>3週目</td> <td>12/22(月)</td> <td>12/23(火)</td> <td>12/24(水)</td> <td>12/25(木)</td> <td>12/26(金)</td> <td>12/27(土)</td> <td>12/28(日)</td> </tr> <tr> <td>保管拠点 →J.FEC</td> <td>運搬(朝) →車両返却</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 積替・隔日輸送による運搬の効率化により、通常回収（当日中の輸送）と比較して30%強の運搬コスト削減の可能性があることがわかった</li> <li>✓ 複数社による運搬体制は、組合方式により窓口を事務局へ一本化することで、運搬業者間のスムーズな連携を図ることができた</li> <li>✓ 規模や運営形式の異なる12施設を対象とすることで、実装に向けた具体的な課題抽出ができた</li> </ul>								0週目	12/1(月)	12/2(火)	12/3(水)	12/4(木)	12/5(金)	12/6(土)	12/7(日)	事前準備	通い箱2セット積込→排出場所へ1セット設置							1週目	12/8(月)	12/9(火)	12/10(水)	12/11(木)	12/12(金)	12/13(土)	12/14(日)	排出者 →保管拠点	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	保管拠点 →J.FEC	車両借受(朝) →空容器積込		運搬(朝)		運搬(朝)		運搬(朝)	2週目	12/15(月)	12/16(火)	12/17(水)	12/18(木)	12/19(金)	12/20(土)	12/21(日)	排出者 →保管拠点	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	保管拠点 →J.FEC		運搬(朝)		運搬(朝)		運搬(朝) 空容器なし	空容器撤収	3週目	12/22(月)	12/23(火)	12/24(水)	12/25(木)	12/26(金)	12/27(土)	12/28(日)	保管拠点 →J.FEC	運搬(朝) →車両返却							<p>■ 指標項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 運搬コストの試算額改善率</li> </ul> <p>■ 測定手法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 年度末の振り返り協議</li> </ul> <p>■ 目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2025年度：40,680円/月・施設（▲25%）</li> <li>✓ 2027年度：32,500円/月・施設（▲40%）</li> </ul> <p>■ 実績値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2025年度：36,510円/月・施設（▲33%）</li> </ul>							
0週目	12/1(月)	12/2(火)	12/3(水)	12/4(木)	12/5(金)	12/6(土)	12/7(日)																																																																																								
事前準備	通い箱2セット積込→排出場所へ1セット設置																																																																																														
1週目	12/8(月)	12/9(火)	12/10(水)	12/11(木)	12/12(金)	12/13(土)	12/14(日)																																																																																								
排出者 →保管拠点	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)																																																																																								
保管拠点 →J.FEC	車両借受(朝) →空容器積込		運搬(朝)		運搬(朝)		運搬(朝)																																																																																								
2週目	12/15(月)	12/16(火)	12/17(水)	12/18(木)	12/19(金)	12/20(土)	12/21(日)																																																																																								
排出者 →保管拠点	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)	回収(昼)																																																																																								
保管拠点 →J.FEC		運搬(朝)		運搬(朝)		運搬(朝) 空容器なし	空容器撤収																																																																																								
3週目	12/22(月)	12/23(火)	12/24(水)	12/25(木)	12/26(金)	12/27(土)	12/28(日)																																																																																								
保管拠点 →J.FEC	運搬(朝) →車両返却																																																																																														
推進上の工夫点																																																																																															
<p>■ 食品リサイクル実証調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 運搬業務の効率化および運搬コストの削減を図るため、1台の中型車両で毎日回収～リサイクル施設への運搬を行う方式から、<b>町内の回収は小型車で行い、中継拠点を設けて大型車に積み替え、リサイクル施設への運搬は大型車で隔日実施する方式に変更し、運搬業務の効率化効果およびコスト削減効果の検証を実施した</b></li> <li>✓ 運搬業者の負荷軽減とリスク回避を図るため、複数業者で構成される協同組合に運搬業務を委託し、<b>組合事務局が窓口業務を行うことで業者間の連携をスムーズにし、参画施設を6→12へと倍増したうえで、複数社による運搬体制の検証を実施した</b></li> </ul>																																																																																															



# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 3/4

## ■取組② | 前年度課題に基づく解決策の実証実験

### 食品リサイクル実証調査

出典：地理院タイルに実証参画施設や食品残渣の保管拠点等を追記して掲載

#### 実証実験の全体像と実施ポイント

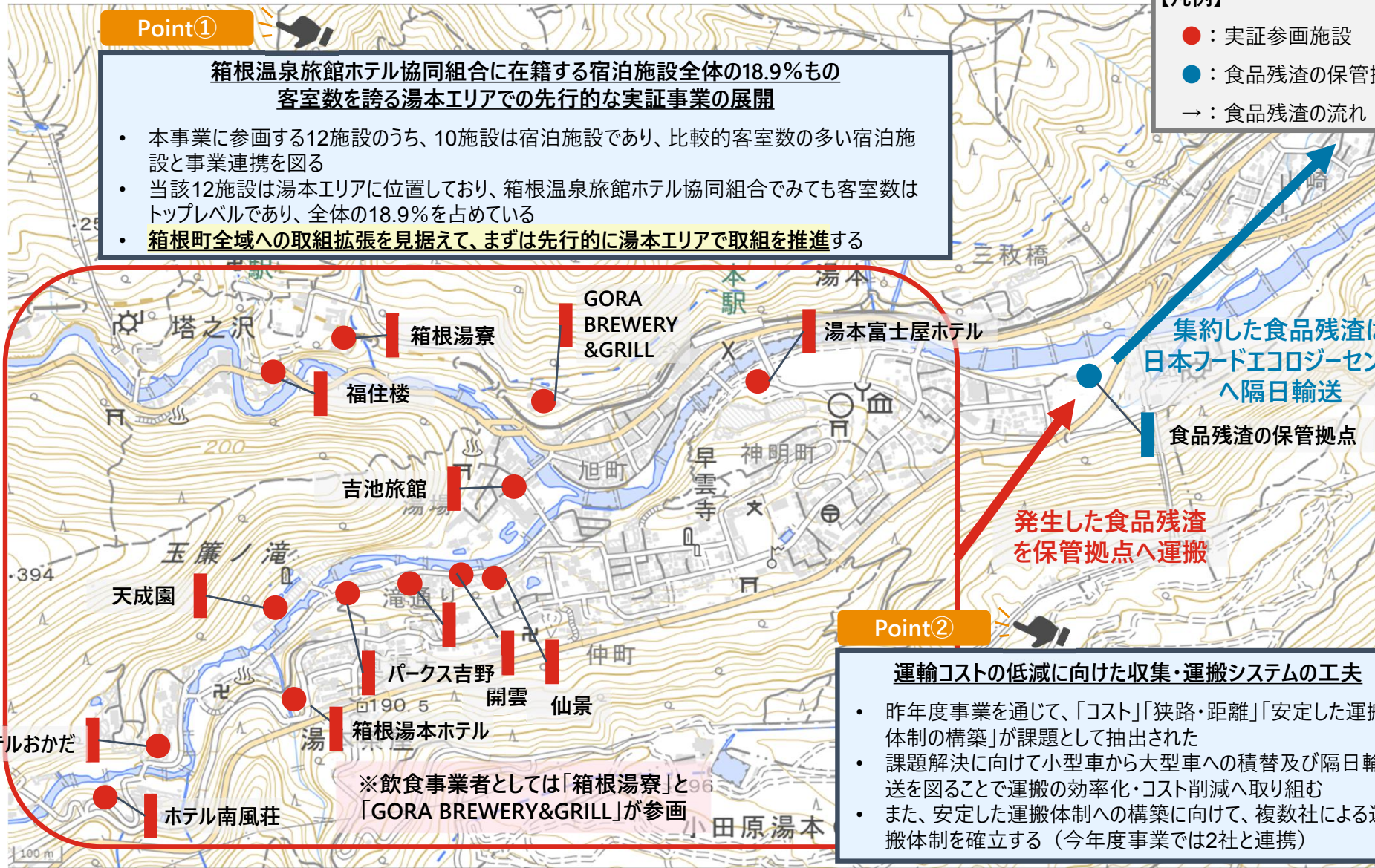
**【凡例】**

- ：実証参画施設
- ：食品残渣の保管拠点
- ：食品残渣の流れ

**Point①**

**箱根温泉旅館ホテル協同組合に在籍する宿泊施設全体の18.9%もの客室数を誇る湯本エリアでの先行的な実証事業の展開**

- ・ 本事業に参画する12施設のうち、10施設は宿泊施設であり、比較的客室数の多い宿泊施設と事業連携を図る
- ・ 当該12施設は湯本エリアに位置しており、箱根温泉旅館ホテル協同組合でも客室数はトップレベルであり、全体の18.9%を占めている
- ・ 箱根町全域への取組拡張を見据えて、まずは先行的に湯本エリアで取組を推進する



集約した食品残渣は日本フードエコロジーセンターへ隔日輸送

食品残渣の保管拠点

発生した食品残渣を保管拠点へ運搬

**Point②**

**運輸コストの低減に向けた収集・運搬システムの工夫**

- ・ 昨年度事業を通じて、「コスト」「狭路・距離」「安定した運搬体制の構築」が課題として抽出された
- ・ 課題解決に向けて小型車から大型車への積替及び隔日輸送を図ることで運搬の効率化・コスト削減へ取り組む
- ・ また、安定した運搬体制への構築に向けて、複数社による運搬体制を確立する（今年度事業では2社と連携）

※飲食事業者としては「箱根湯寮」と「GORA BREWERY&GRILL」が参画

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 4/4

## ■取組② | 前年度課題に基づく解決策の実証実験

### 食品リサイクル実証調査

#### ■ 参加施設対象アンケート結果

- 参加意向 ぜび参加：5 条件付き参加：4 来年度NG・以降検討：2（改装工事・外国人スタッフ浸透の課題） 未回答：1
- プラス面 従業員の意識向上（食品ロス・SDGs） / 社会貢献の実感  
廃棄量の可視化による抑制 / 廃棄作業の負担軽減
- マイナス面 分別の手間、スタッフ浸透の難しさ / 臭気の懸念（特に夏場）  
容器移動忘れなど運用上の課題

#### ■ 食品リサイクルに関する集計結果

- 期間中食品リサイクル量 2,547kg（467kg/日）  
→ 可燃ごみ処理経費（箱根町における焼却コスト）の削減：▲45,846円（8,406円/日）  
※現行の箱根町における可燃ごみ処理単価（18円/kg）にリサイクル量を乗じて算出

#### ■ 収集運搬に関する試算結果（前年比）

- 1車両の回収可能施設数：19施設 → 33施設...+74%
- 湯本エリア52施設の必要車両台数：2.7台 → 1.57台...▲42%
- 1施設あたり運搬コスト：1,808円/日（54,240円/月） → 1,217円/日（36,510円/月）...▲32.6%
- 集約運搬による大幅な効率化とコスト削減の可能性を確認

#### ■ 主な課題

- 容器が施設固有で管理が煩雑
- 少量でも容器交換が必要で非効率
- 回収場所の不一致、他業者との動線重複
- 繁忙期の渋滞による回収遅延・回収不能リスク
- リサイクル施設での荷下ろし時間・容器保管場所増大
- リサイクル施設での小型容器の移替・洗浄作業負荷増大

#### ■ 今後の方向性

- 集約運搬スキームの再構築（保管場所・車両仕様・容器仕様の見直し）
- 町内回収の効率化（置き場集約、ルート最適化、少量排出者対応）
- コスト相殺策（可燃ごみ回収頻度削減、有価物化、発生抑制）
- リスク分散（複数社による運搬体制）
- インセンティブ創出（特産品化、スタディツアー化）



排出の様子



積み替えの様子



リサイクルの様子

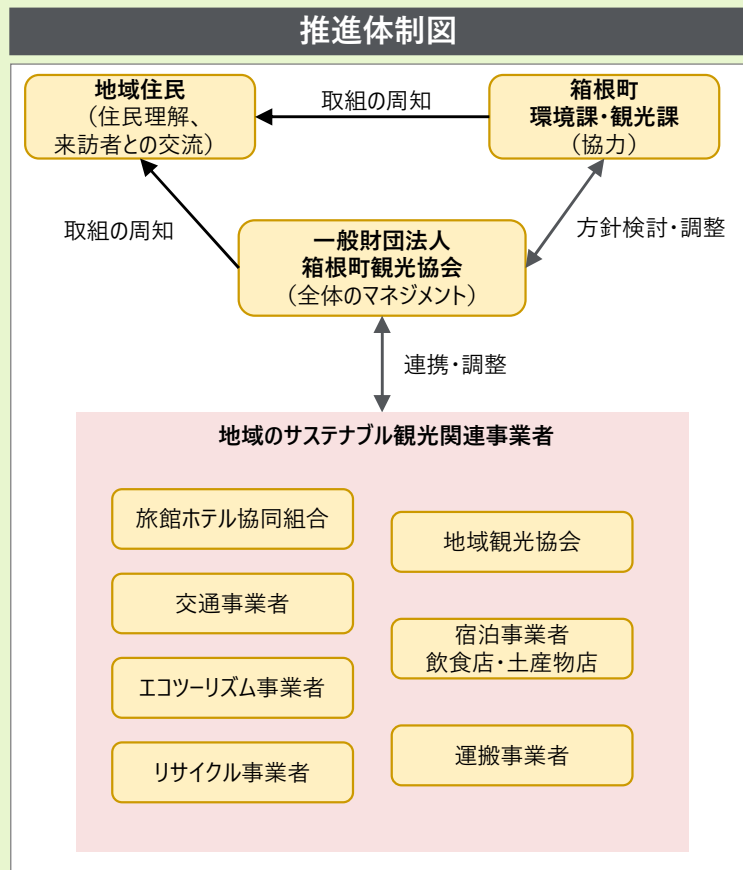
# 各取組の詳細（取組ごとに記載）

## ■取組③ | ロードマップの更新

取組内容	KPIの達成状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 目的               <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域事業者の食の資源循環スキームの意義理解・機運醸成</li> </ul> </li> <li>■ 実施内容               <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ロードマップの更新                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容：①実証実験結果を踏まえ、実装スキーム案を改定</li> <li>②運搬業者、箱根町環境課と実装スキーム改定案を協議し、合意形成</li> <li>③事業結果を踏まえ、事務局と主要関係者で協議のうえ、ロードマップ更新案を策定</li> <li>④1月末の協議会にて合意形成</li> </ul> </li> <li>・ 時期：2026年1月末</li> </ul> </li> <li>■ 成果               <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 昨年度策定したロードマップでは5年後からの実装を目指していたところ、実証実験の結果を踏まえ、令和10年度を目標年度としてロードマップを更新した</li> <li>✓ 上記ロードマップの更新を踏まえ、各年度の進捗率目標値を再設定し、単年度達成率目標を新たに設定した</li> <li>✓ 更新したロードマップに基づき、次年度の実行計画（要旨）を策定した。</li> <li>✓ 行政や運搬業者等の本事業の実装に関わる主要関係者と密に連携を行い、ロードマップおよび次年度実行計画に基づく具体的な取組の推進に向けた調整を実行中</li> </ul> </li> <li>■ 次年度実行計画（要旨）               <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 食品リサイクル実証実験の拡大実施                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実装に向けた集約保管場所の確定（箱根町環境課との合意）</li> <li>・ 参画施設数の拡大（12社⇒24社）</li> <li>・ 実証エリアの拡大</li> </ul> </li> <li>✓ 地域内合意形成の促進                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 箱根町の広報や議会（議員）による周知の実施</li> <li>・ 各種団体（ホテル旅館協同組合、商工会議所、飲食店組合等）を通じての周知の実施</li> <li>・ 施設従業員、派遣スタッフ向けに分別手順をわかりやすく説明する動画を作成</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 指標項目               <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ロードマップに沿った取組推進</li> </ul> </li> <li>■ 測定手法               <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 年度末の振り返り協議</li> </ul> </li> <li>■ 目標値               <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2025年度：単年度達成率100%、進捗率20%</li> <li>✓ 2027年度：単年度達成率100%、進捗率60%</li> <li>✓ 2029年度：単年度達成率100%、進捗率100%</li> <li>※目標値は本年度のロードマップ見直しを受け、見直し予定</li> </ul> </li> <li>■ 実績値               <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2025年度：単年度達成率100%、進捗率25%</li> </ul> </li> </ul>
<b>推進上の工夫点</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ロードマップの更新               <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 参加施設の拡大と集約保管による運搬の効率化を実証し、実装に向けた課題を再抽出した</li> <li>✓ 抽出した課題を検証し、昨年度策定したロードマップの更新案の作成に着手した</li> <li>✓ 箱根町環境課より、集約保管場所として箱根町環境センター（芦ノ湯）の活用可能性について言及があり、集約運搬スキームの実現可能性が高まった</li> <li>✓ これをうけて実装開始年度を再検討し、令和10(2028)年度を目標年度として令和8年度からとする形で3か年ロードマップ案を更新した</li> <li>✓ 1月末現在、行政や運搬業者等の本実装に関わる主要関係者との調整を実行中である</li> <li>✓ 目標年度の更新にあわせ、目標値も下記に更新することとした                   <ul style="list-style-type: none"> <li>2026年度：単年度達成率100%、進捗率50%</li> <li>2027年度：単年度達成率100%、進捗率75%</li> <li>2028年度：単年度達成率100%、進捗率100%</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	

# 今年度の推進体制及び連携スペシャリスト

## ■今年度の推進体制



推進体制における今年度の協議実施結果及び参画団体		
	主要アジェンダ	開催時期
第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>キックオフ</li> <li>事業内容・実施スケジュールの共有</li> </ul>	9月12日 (金)
第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設視察</li> <li>食品ロス削減にむけたレクチャー・意見交換</li> </ul>	12月9日 (火)
第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>結果報告会</li> <li>ロードマップの合意形成</li> <li>事業結果報告および次年度実行案</li> </ul>	1月27日 (火)
団体名	役割	
箱根町内宿泊施設	協議会、各種調査参加 (残渣排出事業者)	
その他食品関連事業者 (GORABREWERY等)	協議会、各種調査参加 (残渣排出事業者)	
広域一般廃棄物事業協同組合	協議会、各種調査参加 (収集運搬事業者)	
株式会社日本フードエコロジーセンター	協議会、各種調査参加 (リサイクル業者) 全体企画立案サポート	
箱根町 環境課・観光課	協議会オブザーバー 各種調査手続、調整等協力	

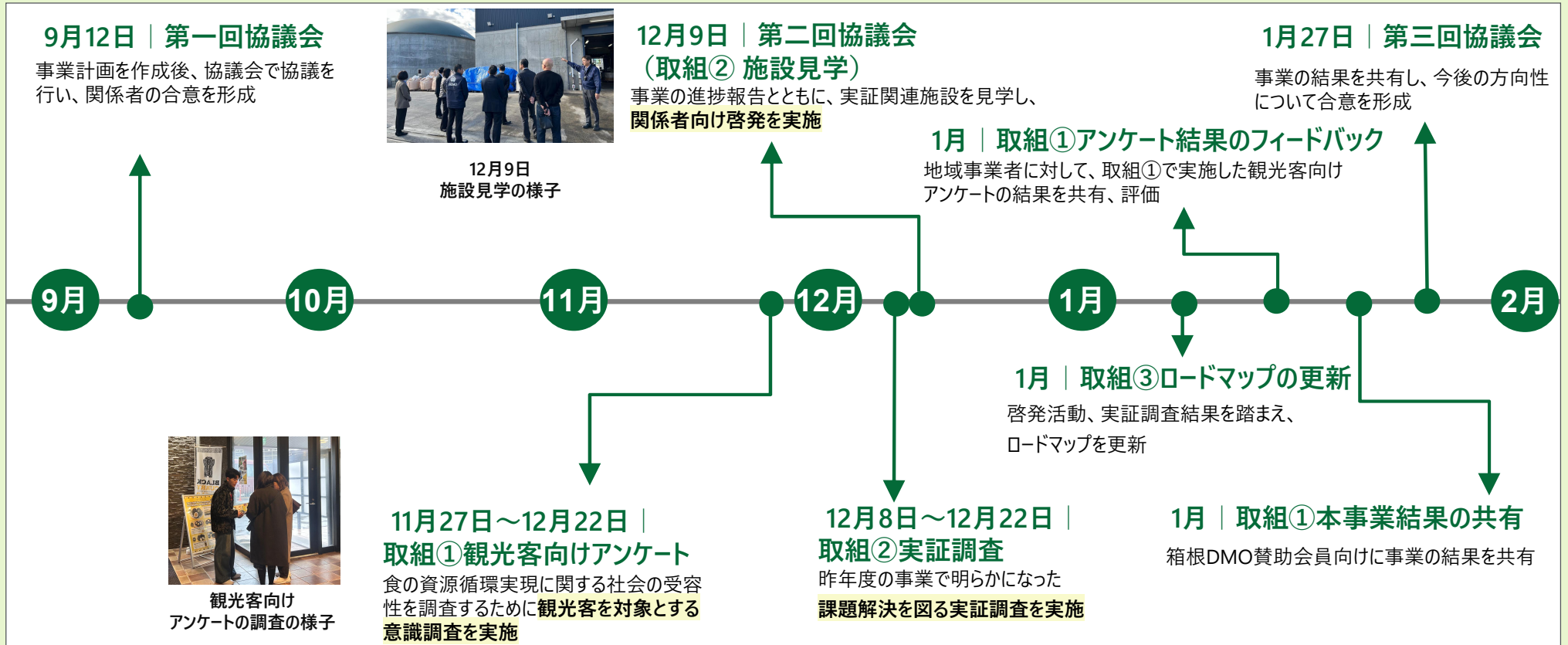
## ■本事業で連携したスペシャリスト

- 専門家①：一般社団法人JARTA 高山傑氏**
  - ✓ 環境保全と観光の知見を基に地域事業者向けのオンライン研修に登壇し、地域事業者がサステナブルな観光に取り組む重要性と今後取り組むべき事項を共有いただいた。
- 専門家②：東洋大学 古屋秀樹氏**
  - ✓ 持続可能な観光指標に関する検討会の委員としてJSTS-Dの策定に携わった知見を基に、主にマネジメント分野や環境分野に係るJSTS-Dアセスメントレポートへのフィードバックをいただいた。

# 実証事業のスケジュール

## ■ タイムライン

(注) 事業者向け啓発として、施設見学以外に、観光カンファレンスでの発信、賛助会員への情報共有も実施



## ■ 重点施策と結果・実施時期

### 観光客向けアンケート

実施時期：11月27日～12月22日

- 食の資源循環実現に関する社会の受容性を調査するために観光客を対象とする意識調査を実施
- 得られた結果は町内事業者に共有し、観光客からの評価を基にした啓発活動を展開

### 事業者向け啓発活動

実施時期：12月～1月

- 町内事業者の取組推進への機運を醸成するための啓発活動を実施
- 実証関連施設の見学のほか、観光カンファレンスでの発信、賛助会員向け情報共有を実施

### 食品リサイクル実証調査

実施時期：12月8日～12月22日

- 昨年度の実証調査結果を踏まえ、明らかとなった課題解決を図る実証を実施
- 今年度はより実際の運用モデルに近い形で検証し「コスト」「狭路・距離」「安定した運搬体制の構築」の解決に挑戦

# 実証事業における目標値の達成状況

## ■ KGI・KPI別の達成状況

	指標項目	2025年度目標値	結果詳細	達成率
KGI	➤ 本事業への参加事業者数	➤ 12社	➤ 12社の参加目標を達成した	➤ 達成
	➤ 本事業の取組の参加意向	➤ 40%	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 参加事業者12社のうち9社については来年度以降も参加の意思が確認でき、参加しないと回答したのは0社であった。</li> <li>➤ 事業者向けアンケートにおいては、飲食事業を展開する21社のうち15社が、「関心あり（今年の成果を含む取組の詳細を聞きたい）」もしくは「高い関心がある(ぜひ参加したい)」と回答した。</li> <li>➤ また参加意向を示した事業者のうち、5社が箱根湯本エリア以外の事業者という結果となった。</li> </ul>	➤ 達成
KPI	➤ 運搬コストの試算額改善率	➤ 40,680円/月・施設 (▲25%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 試算結果は36,510円/月・施設 (▲33%) であった</li> <li>➤ 集約保管と隔日輸送により、運搬業務の効率化とコスト削減の可能性が確認できた</li> </ul>	➤ 達成
	➤ ロードマップに沿った取組推進	➤ 進捗率20%	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 実証実験を踏まえて、令和10年度を目標年度として3ヵ年ロードマップを更新した</li> <li>➤ 行政や運搬業者等の本事業の実装に関わる主要関係者と密に連携を行い、ロードマップに基づいた具体的な取組の推進に向けた調整を実行中</li> </ul>	➤ 達成

## 2. 次年度以降の取組方針

---

- (1) JSTS-Dを活用した自地域のアセスメント結果と優先課題
- (2) 次年度以降の推進ロードマップ

# JSTS-Dを活用した自地域のアセスメント結果と優先課題

## ■優先課題の特定・課題への対応方策（案）の検討

現時点のアセスメント結果	◆ 合計スコア：456pt、セクションA：177pt、セクションB：107pt、セクションC：78pt、セクションD：94pt	
優先的に対応すべき事項	具体的な対応方策（案）	
<b>対応事項1：</b> 廃棄物 （関連指標：D11.①）	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も引き続き参画事業者の裾野を広げるとともに、参画施設数および参画エリアの拡大を図りながら、2028年度の本格実装を見据え、段階的かつ継続的に実証実験を実施していく予定である。</li> <li>実証実験により抽出された課題に対しては、検証・分析を行い、その結果を踏まえた対応策を講じることで、PDCAサイクルに基づいた実効性ある取組を継続的に推進する。</li> </ul>	◆ 現状値：5pt ◆ 目標値：5pt
<b>対応事項2：</b> 事業者における持続可能な観光への理解促進 （関連指標：A5）	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証調査の結果及び観光客アンケートの公表を通じて、地域内関係事業者の理解促進と取組への機運醸成を図り、将来的な本格実施に向けた円滑な導入体制の構築を目指す。</li> </ul>	◆ 現状値：1pt ◆ 目標値：5pt
<b>対応事項3：</b> モニタリングと成果の公表 （関連指標：A3）	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業の進捗および成果については、箱根町広報媒体（広報紙、ホームページ等）を活用した周知に加え、箱根町議会における報告などの情報発信を通じて、町民全体への理解促進と機運醸成を図る。</li> <li>ホテル旅館協同組合、商工会議所、飲食店組合など、地域の主要産業団体と連携し、本事業の趣旨・進捗・成果に関する情報提供を継続的に行い、事業の理解促進および新たな参画事業者の発掘・裾野拡大を目指す。</li> </ul>	◆ 現状値：15pt ◆ 目標値：15pt

# 次年度以降の推進ロードマップ

【今後の3か年で目指す地域の姿】

令和10年度より、箱根町内の複数エリア40施設以上の参画による食品リサイクルスキームが実装され、“食の資源循環スキーム”実現に向けた観光資源としての取組活用の検討が開始されている状態を目指す

対応団体	基本役割	令和8年度	令和9年度	令和10年度以降
一般財団法人 箱根町観光協会	観光に係る 持続可能な取組を 推進する主体	<p>協議会の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電磁、リアルの併用により関係者間の意思疎通と事業進捗のため、2か月に1回程度開催</li> </ul> <p>箱根温泉旅館ホテル協同組合、湯本エリア食品関連事業者への働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクルスキームへの参画施設数を増やす + 食品廃棄物の発生抑制を促進</li> </ul> <p>拡大実証実験の実施（12→24施設・2地域）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実装に向けた課題をより明確化し、解決策を明らかにするための拡大実証実験を実施</li> </ul> <p>観光資源としての活用方法検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資源循環の取組を観光資源へ昇華するための対策を検討し、実証</li> </ul> <p>取組の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページに取組の状況を随時掲載し、周知を図る</li> </ul>	<p>拡大実証実験の実施（24→32施設・3地域）</p> <p>観光資源としての活用実証実験の実施</p>	令和10年度からの実装に向け、40以上の参画施設が確定し、残り課題が明確化されている状態
株式会社日本 フードエコロジー センター	全体企画立案 サポート リサイクル業務	<p>協議会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクル事業者、全体企画立案サポート担当として参加</li> </ul> <p>拡大実証実験の実施（リサイクル、全体企画～検証）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実装に向けた課題をより明確化し、解決策を明らかにするための拡大実証実験を実施</li> </ul>	<p>拡大実証実験の実施（リサイクル、全体企画～検証）</p>	令和10年度からの実装に向け、残り課題が明確化されている状態
広域一般廃棄物 事業協同組合	収集運搬業務	<p>協議会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>収集運搬業者として参加</li> </ul> <p>拡大実証実験の実施（収集運搬・保管施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実装に向けた課題をより明確化し、解決策を明らかにするための拡大実証実験を実施</li> </ul>	<p>拡大実証実験の実施（収集運搬・保管施設）</p>	令和10年度からの実装に向け、残り課題が明確化されている状態
箱根温泉旅館 ホテル協同組合 ほか食品関連 事業者	食品残渣の排出	<p>協議会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>排出事業者として参加</li> </ul> <p>拡大実証実験への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実装に向けた課題をより明確化し、解決策を明らかにするための拡大実証実験に参加</li> </ul>	<p>拡大実証実験への参加</p>	令和10年度からの実装に向け、40以上の参画施設が確定している状態
箱根町	行政	<p>協議会への参加（保管施設設置場所検討、町の各種計画との整合性確認）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境課：所管部署として参加</li> <li>観光課：オブザーバーとして参加</li> </ul>		町としてのスタンスが明確化されている状態



観光庁 令和7年度 持続可能な観光推進モデル事業  
実証事業に係る最終報告書

一般社団法人SOE

# 1. 本事業での取組

---

- (1) 実証事業の目的と取組
- (2) 取組の概要と実施結果
- (3) 各取組の詳細
- (4) 今年度の推進体制及び連携スペシャリスト
- (5) 実証事業のスケジュール
- (6) 実証事業における目標値の達成状況

# 実証事業の目的と取組

対象地域：福井県鯖江市・越前市・越前町 | 申請団体名：一般社団法人SOE

実証事業名：産業観光を核とした地域持続モデルの構築

地域の持続可能性を  
支える仕組みの推進

事業費総額（税込）：2,881,854円  
精算対象費（税込）：2,881,854円

## ■ 地域の課題と中長期の取組方針

### 地域の現状・背景

- 鯖江市・越前市・越前町の3市町で自治体ごとに観光計画等を策定していること及び持続可能な産業観光モデルを推進する組織団体等が存在していないことから、通年を通して**3市町が連携して、産業観光を推進する体制構築が求められる。**
- 福井県の観光ビジョンでは「富裕層向けの誘客強化」という方針を掲げているが、対応できる工房が少ない為、誘客数に限りがある。また新規事業者においても、富裕層受け入れの共通認識やメリットの理解が不十分である可能性があり、体制整備に至っていない。まずは**意識づくりの強化、地域の理解力を高める対応が求められる。**

### 目指す姿（3年前後で到達したい姿）

- 地域の理解と受け入れ意識が高まり、今まで受け入れていた工房が富裕層向けの受け入れを強化したり、イベント期間だけでなく、通年でも新規で受け入れできる工房が増加。ものづくりの町として職人が無理なく本業に専念できる環境を守りつつ、観光客や関係人口が実際に産地を訪れることにより、職人自身の意識や誇りが高まり、地域への愛着や継承意識を促進する効果となる。
- 産業観光による売上が拡大する仕組みを整備し、住民・事業者・観光客が共に関わる地域循環型の持続可能な産業観光モデルを実現する。

### 主要な取組

- 地域の現状・目指す姿から導出されたギャップは以下①②である。これらを解決するため取組の柱①②を設定する。
  - <課題①> 伝統工芸・地場産業の貴重価値、魅力を十分に伝えきれておらず、**観光消費額増加を目的とした高付加価値化が十分でない**
  - <課題②> 推進主体の明確化及び、**3市町が目指すターゲットがそれぞれが異なっている為、効果的な取組ができていない**
  - <取組の柱①> **地域文化の魅力の最大化・基盤の構築**：観光消費額増加を目的としたコンテンツの高付加価値化・体制づくりの実施・ガイド人材の育成等
  - <取組の柱②> **地域一体となった持続可能な体制づくり**：3市町一体となった産業観光を推進する連携体制の構築
- ※福井県「ネクストふくい観光ビジョン」、越前市「越前市観光振興プラン」、鯖江市策定の「めがねのまちさばえビジョン2040」との整合性も図っております

### KGI

- 指標名①：3市町\* 観光データ管理基盤整備進捗率（2025年度）
- 指標名②：3市町\*の観光消費総額（2026年度以降）
- 指標名③：3市町\*の1人あたり消費額単価（2026年度以降）
- \*3市町＝福井県鯖江市・越前市・越前町を指す

測定手法：観光客向けアンケート  
（国内：WEBアンケート、  
インバウンド：実地調査）

- 目標値①：100%＝3市町\*の観光データ取得のためのアンケート・分析手法構築（2025年度）
- 目標値②：約520億円\*年平均成長率2%見込時（2027年度）
- 目標値③：日帰り：4,300円、宿泊：27,000円（2027年度）
- 実績値①：50%＝アンケート手法構築・体制未構築（詳細はP37結果詳細を参照）
- 現状値②：約489億5,274万円（2024年：県データ参照して推計）
- 現状値③：日帰り：3,972円、宿泊：24,913円（2024年：県データ引用）

## ■ 本年度事業の目的と取組（KGI達成に向けて本事業で設定している目的と取組）

### 本事業の目的

- 地域資源を活かした産業観光による循環型観光モデルの構築：  
地域事業者自身が伝統工芸・地場産業の価値・魅力の再認識、観光振興による経済活性化の重要さの理解醸成
- 年間を通じた3市町の連携体制の構築と実践：  
今年度中に「3市町の行政・事業者等のステークホルダーを含んだ協議会等の開催」、「協議計画の作成に向けた検討」を実施し、地域一体となった体制づくりの最初のステップとする

#### 持続可能な観光地域づくりを行う 意義の理解醸成・仕組みづくり

- 地域事業者向けの研修の実施
- 観光消費額測定に向けたアンケートの実施

#### 3市町の連携体制構築

- 3市町合同のキックオフミーティング開催
- 3市町への報告会
- 組合との分科会や組合協議への参加
- 事業者や行政メンバーと他地域への現地視察

#### 伝統工芸・地場産業の事業者の 巻き込み・既存のコンテンツの高付加価値化

- 事業者・職人へのヒアリング、ルート検討、ロードマップの作成、観光客を受け入れている工房見学
- 事業者・職人へのヒアリング、サステナブル要素を取り入れたコンテンツの造成

# 取組の概要と実施結果

		持続可能な観光地域づくりを行う 意義の理解醸成・仕組みづくり	3市町の連携体制構築	伝統工芸・地場産業の事業者の 巻き込み・既存のコンテンツの高付加価値化
関連 基準		➢ A5：事業者における持続可能な観光への理解促進	➢ A2：デスティネーション・マネジメント ➢ A6：住民参加と意見聴取 ➢ B8：多様な受入環境整備	➢ C2：有形文化遺産 ➢ C7：文化遺産における旅行者のふるまい ➢ D11：廃棄物
概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 目的：事業者の観光振興の意義理解・機運醸成</li> <li>■ 実施内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>地域事業者向けの研修の実施</b>（産業観光の貴重さ・観光振興の意義等）</li> <li>2. <b>観光消費額測定に向けたアンケートの実施</b>（県にて取得済みのデータ整理、3市町* 観光データ管理基盤の整備、アンケート内容の作成）</li> </ol> </li> <li>■ 成果：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 11月10日(月)に地域事業者向けの研修を実施し、地域事業者と行政の方々計12名が参加</li> <li>2. 鯖江市・越前町・越前市に来訪歴のある国内居住者及び福井県に来訪したインバウンドを対象に、アンケート回答を国内1,683名（3市町に来訪した有効回答数764）、インバウンド9名からサンプル収集</li> </ol> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 目的：3市町の通年連携体制構築、推進主体の明確化に資する取組の推進</li> <li>■ 実施内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>3市町合同のキックオフミーティング開催</b></li> <li>2. <b>3市町への成果報告会の実施</b></li> <li>3. <b>組合との分科会や組合協議会への参加</b></li> <li>4. <b>事業者や行政メンバーと他地域への現地視察</b></li> </ol> </li> <li>■ 成果：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 9月29日(月)にキックオフミーティングを開催し、計23名（関係者11名含む）が参加</li> <li>2. 1月29日(木)に最終報告会を実施し、計11名が参加</li> <li>3. 越前焼・委員会に2回、鯖江市・交流分科会に2回、越前市・越前和紙バレー意見交換会2回に参加</li> <li>4. 1月27日(火)-28日(水)に事業者含む4名で岡山視察を行い、DMCによる広域エリアのマネジメント状況や産業観光の課題点を把握（詳細P25参照）</li> </ol> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 目的：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. RENEW期間だけでなく、観光客を通年で新規に受け入れる事業者・工房の増加</li> <li>2. 既に観光客を受け入れている工房に対して、観光客を通年で受け入れるための課題・現状把握、コンテンツの高付加価値化</li> </ol> </li> <li>■ 実施内容               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業者・職人へのヒアリング、ルート検討、ロードマップの作成、観光客を受け入れている工房見学</li> <li>2. 事業者・職人へのヒアリング、サステナブル要素を取り入れたコンテンツの造成検討（地域文化を含んだストーリーづくり等による高付加価値化）</li> </ol> </li> <li>■ 成果：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アンケートによるヒアリングを実施し、20社から回答あり</li> <li>2. 有識者と共に2日間で11事業者を訪問。実情を知り、現状における課題の明確化（詳細P30-33参照）</li> </ol> </li> </ul>
KPI	指標	① “持続可能な観光”に対する事業者の理解度・協力意向度	① 開催・参加したWG・協議回数	① 観光客を通年で受け入れる事業者数 ② 既存コンテンツにサステナブル要素を追加もしくは高付加価値化に取り組む意欲のある事業者数
	実績	① 理解度 50%、協力度意向 30% （目標対比 100%）	① 合計8回（目標5回、目標対比 160%） ※3市町に向けた報告会や分科会・協議会への参加	① 4件（目標2件、目標対比 200%） ② 2件（目標2件、目標対比 100%）

\*3市町 = 鯖江市・越前市・越前町

残った課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地域事業者向けの研修は1回のみではなかなか理解度は測れないので、継続して回数を重ねることが必要</li> <li>➢ 今後定期的な測定を考えた場合のコスト問題と、外国人向けは設問数が多く、収集期間内に十分なアンケートサンプル数を集めることができなかったのが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 短い時間ではあったが、3市町との連携のスタートアップにはなったが、真髓のところまで進めるにはかなりの時間がかかる。その為、連携体制構築に向けては、各市町でのキーパーソンを設定し、定期的な協議と各組合や事業ごとの分科会、協議会へは積極的な参加が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ RENEW参加企業にアンケートを実施した結果、今後通年での受け入れを増やしたいという事業者が半数以上いたことが新しい発見であった。共通の課題も出ており、時間が割かれる問題や、消費額に繋がらないなどの意見もあり、ここを解決すれば可能性は大いにある。</li> </ul>
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 定期的な調査においては、福井県と各市町でデータを共有し、人流データだけでなく、各市町別の観光消費額の測定、並びに各産業における経済波及効果や、宿泊費や飲食費を除く、各産業の消費額についても計測することで、各産業の方向性の指針になると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 3市町とは、RENEW以外でもこのような機会を作り、定期的に話し合う場を民間側から設定することが必要だと感じた。また一方で組合や事業者とは、学びの時間も作って、他産地を視察をし、自分の地域をどうしていくかを考える時間も一緒に作っていくことが必要と感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ アンケートで回答もらった事業者とヒアリングを重ね、意欲のある事業者については、ターゲット設定や一緒に学べる環境の提供、さらに消費額が落ちる仕組みづくりなども考えながら、生業を主としながらも産業観光を推進できる体制づくりができる可能性を感じている。</li> </ul>

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 1/17

## ■取組① | 持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり

取組内容	KPIの達成状況		
<ul style="list-style-type: none"><li>■ 目的<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 地域事業者の観光振興の意義理解・機運醸成</li></ul></li><li>■ 実施事項<ul style="list-style-type: none"><li>① 11月10日(月)に14:00-16:00に、地域事業者向けの研修を実施</li><li>② 2022年9月21日(水)-2025年09月20日(土)に越前市、鯖江市、越前町に60分以上滞在した15~99歳の国内居住者を対象に、観光消費額測定に向けたアンケートを実施</li><li>③ 2025年12月13日(土)-12月17日(水)に福井駅に訪したインバウンドを対象にアンケートを実施</li></ul></li><li>■ 成果<ul style="list-style-type: none"><li>① 研修に地域事業者と行政の方々計12名が参加 参加者から、「持続可能な観光地域づくりを実施することの意義を改めて考える機会になった」との意見をもらった</li><li>② 鯖江市・越前市・越前町に訪歴のある国内居住者から計1,683サンプル収集 ※3市町に訪した有効回答数764</li><li>③ 全103人に声掛けを行ったが、結果9サンプル収集（QRコード読み取りは26名） 断られた数は79名であり、理由として①そもそも話を聞いていただけない、②在住の外国の方のため対象外、③英語がわからないという理由が多かった。 &lt;補足：調査員コメント&gt; ・平日土日共に駅の利用者が少なく、ターゲットのインバウンドを探すことが難しかった。 ・屋外での調査のため、長くその場で最後まで入力をお願いすることは難しかった。（移動中の方が主体）</li></ul></li><li>■ 見えてきた課題<ul style="list-style-type: none"><li>① 地域事業者向けの研修の課題 今回スタートアップとして行った単発での研修から、今後は定期的な研修会や共有会へと進化させることで、地域内の共通言語を強化できる可能性がある。</li><li>② 国内居住者向けアンケート（オンライン調査）の課題 3市町を横断したデータが揃ったため、広域周遊促進の可能性を可視化できる土台が整った。また今後インバウンドデータと比較することで、戦略的すみ分けが可能になる。</li><li>③ インバウンド向けアンケート（現地調査）の課題 駅という「通過点」で実施したため、滞留時間が短く、回答完了率が低かった可能性と、QRコード読み取り26名に対し完了9名という結果により設問数やUXの課題がある。</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 指標項目<ul style="list-style-type: none"><li>✓ “持続可能な観光”に対する事業者の理解度・協力意向度</li></ul></li><li>■ 目標値<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 2025年度：理解度50%、協力意向度 30%</li><li>✓ 2027年度：理解度70%、協力意向度 50%</li></ul></li><li>■ 実績値<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 2025年度：理解度50%、協力意向度 30%</li></ul></li></ul> <thead><tr><th data-bbox="1218 651 2145 702">推進上の工夫点</th></tr></thead> <tbody><tr><td data-bbox="1218 707 2145 1513"><ul style="list-style-type: none"><li>■ 工夫点（地域事業者向けの研修の実施）<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 越前鯖江地域における持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成を目的とした事業の取り組みの一環として、事業者、ステークホルダーの皆様に向けて「持続可能な観光地域づくりのためのセミナー」を実施した。講師は、「持続可能な観光」の国際基準・指標に関する高い知見を有する有識者であり、GSTC 公認トレーナーでもある、二神 真美氏。並びに「グローバル PR 会社」×「欧米富裕層旅行会社」の2つの機能を軸に活動されている、株式会社 wondertrunk&amp;co 岡本 岳大氏を講師に迎え、日本の他の地域で進められている持続可能な観光地域づくりの取組内容、他の産業観光の事例などを学ぶ時間となった。</li></ul></li><li>■ 工夫点（観光消費額測定に向けたアンケートの実施）<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 日本人向けアンケートでは、GPS情報から過去3年間の中で鯖江市・越前町・越前市に訪したパネルを絞り込み、短期間で効率的に数値が取れるオンライン形式で、アンケートを実施した。一方で過去実施実績がないインバウンド向けアンケートでは、福井駅にスタッフを配置し、5日間実施し、今後アンケートを継続し、経年比較できるよう、設問内容を設定した。</li></ul></li></ul></td></tr></tbody>	推進上の工夫点	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 工夫点（地域事業者向けの研修の実施）<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 越前鯖江地域における持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成を目的とした事業の取り組みの一環として、事業者、ステークホルダーの皆様に向けて「持続可能な観光地域づくりのためのセミナー」を実施した。講師は、「持続可能な観光」の国際基準・指標に関する高い知見を有する有識者であり、GSTC 公認トレーナーでもある、二神 真美氏。並びに「グローバル PR 会社」×「欧米富裕層旅行会社」の2つの機能を軸に活動されている、株式会社 wondertrunk&amp;co 岡本 岳大氏を講師に迎え、日本の他の地域で進められている持続可能な観光地域づくりの取組内容、他の産業観光の事例などを学ぶ時間となった。</li></ul></li><li>■ 工夫点（観光消費額測定に向けたアンケートの実施）<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 日本人向けアンケートでは、GPS情報から過去3年間の中で鯖江市・越前町・越前市に訪したパネルを絞り込み、短期間で効率的に数値が取れるオンライン形式で、アンケートを実施した。一方で過去実施実績がないインバウンド向けアンケートでは、福井駅にスタッフを配置し、5日間実施し、今後アンケートを継続し、経年比較できるよう、設問内容を設定した。</li></ul></li></ul>
推進上の工夫点			
<ul style="list-style-type: none"><li>■ 工夫点（地域事業者向けの研修の実施）<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 越前鯖江地域における持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成を目的とした事業の取り組みの一環として、事業者、ステークホルダーの皆様に向けて「持続可能な観光地域づくりのためのセミナー」を実施した。講師は、「持続可能な観光」の国際基準・指標に関する高い知見を有する有識者であり、GSTC 公認トレーナーでもある、二神 真美氏。並びに「グローバル PR 会社」×「欧米富裕層旅行会社」の2つの機能を軸に活動されている、株式会社 wondertrunk&amp;co 岡本 岳大氏を講師に迎え、日本の他の地域で進められている持続可能な観光地域づくりの取組内容、他の産業観光の事例などを学ぶ時間となった。</li></ul></li><li>■ 工夫点（観光消費額測定に向けたアンケートの実施）<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 日本人向けアンケートでは、GPS情報から過去3年間の中で鯖江市・越前町・越前市に訪したパネルを絞り込み、短期間で効率的に数値が取れるオンライン形式で、アンケートを実施した。一方で過去実施実績がないインバウンド向けアンケートでは、福井駅にスタッフを配置し、5日間実施し、今後アンケートを継続し、経年比較できるよう、設問内容を設定した。</li></ul></li></ul>			

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 2/17

## ■取組① | 持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり

### 地域事業者向けセミナー

#### セミナーの目的・概要

目的	✓ 地域のステークホルダー間で持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解を醸成する	
	日程	✓ 11月10日（月）14:00-16:00
実施概要	会場	✓ サンドーム福井 ものづくりキャンパス 研修室
	対象	✓ 3市町の地域事業者（伝統工芸等）

#### 当日の様子



➤ 二神先生による持続可能な観光地域づくりに取り組む意義やGSTC関連等の最近の動向等に関する講義の様子



➤ 日本におけるインバウンド誘致の重要性や観光における高付加価値化とは何かに関する岡本氏の講義の様子



➤ ワークショップでは、持続可能性は、自分や地域にとってどんなことかサステナブルの可能性を話し合った後、各チームからの発表をしている様子

#### 当日のプログラム

合計 120min

#### 導入



1. 開会・事業趣旨
2. 持続可能な観光の世界基準をめぐる最近の動向
  - ① 「持続可能な観光」の意義
  - ② 観光・旅行分野における世界基準（GSTC）確立の意義
  - ③ 世界基準をめぐる近年の動向と今後の方向性
  - ④ 日本における取組について

-質疑-

#### 実践



3. 高付加価値なインバウンド観光地域づくりについて
  - ① 高付加価値旅行者が地方に求める「本物」とは
  - ② 日本の地域を、世界の観光地にするために
  - ③ 他県の事例と北陸における福井の可能性

-質疑-
4. ワークショップ
  - ① 趣旨説明
  - ② 【ワークショップ】
    - ・ 自己紹介
    - ・ グループディスカッション（テーマ：“サステナブル・持続可能性”は、自分や地域にとってどんなことか）
  - ③ 各チームからの発表
5. 閉会

#### 当日の参加者

- ・ 現地参加：10名（地域事業者、行政を含む）
- ・ オンライン参加：2名（地域事業者の方）

#### ワークショップでの意見

- ・ 伝統工芸を「特別なもの」だけでなく、普段使いの漆器など日常で使うことも伝えていきたいし、それが産地を支えることにつながる。
- ・ 越前打刃物は長く使い修理しながら、使っている人々の愛着を育てること自体が産地のサステナブルに繋がっていくと思う。

#### 参加者の感想

- ・ 今回のセミナーを受けて持続可能な観光地域づくりを実施することの意義を改めて考える機会になった
- ・ 持続可能な観光を推進する事業者と連携する良い機会となった

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 3/17

## ■取組① | 持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり

### ①（日本人観光客向け）オンラインパネルアンケート | ②（インバウンド観光客向け）現地調査アンケート

アンケート目的

1. 3市町の観光消費額、経済波及効果の算定
2. 産業観光に対する観光客の興味・関心度把握

大項目①：3市町内の観光客の動向観光消費を把握するための設問

大項目②：3市町の伝統工芸に対する観光客の関心・満足度を把握するための設問

No	大項目	設問項目	回答手法	回答数
1	基本情報	世帯年収を教えてください。	選択式	択一
2	観光客の消費行動等	主な来訪先を教えてください。	選択式	複数
3		3市町（越前市、越前町、鯖江市）に訪れた際、これまで来訪したのは何回目ですか。	選択式	択一
4		3市町（越前市、越前町、鯖江市）への訪問形態を教えてください。 複数人の場合、何人で来訪されましたか。	選択式	択一
5		主な来訪目的を教えてください。	選択式	複数
6		来訪中に訪れた（訪れる予定の）3市町内の観光スポットを教えてください。	選択式	複数
7		3市町（越前市、越前町、鯖江市）への旅行は宿泊・日帰りどちらか教えてください。	選択式	択一
8		主にどのような交通手段で来られましたか。	選択式	複数
9		訪問に際し、3市町の観光情報をどのように入手しましたか。	選択式	複数
10		来訪中に利用した決済方法を教えてください。	選択式	複数
11		来訪中に使用した3市町内での1人あたりの金額を教えてください。 （項目：飲食、交通、宿泊、土産、伝統工芸品、入館・入場料、体験、その他）	記述式	-
12		来訪中に利用した決済方法を教えてください。	選択式	複数
13	観光客の関心・満足度	3市町へ訪問後、興味がある伝統工芸品を教えてください。	選択式	複数
14		越前鯖江の地場産業 7品について、訪問前から知っていたか、 また来訪時の購入有無について教えてください。	記述式	択一
15		3市町の滞在総合満足度を教えてください。	選択式	択一

※性別、居住地などの基本情報はオンラインパネルの登録情報から抽出可能なため、割愛

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 4/17

## ■取組① | 持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり

### ①（日本人観光客向け）オンラインパネルアンケート結果（抜粋） 1/9

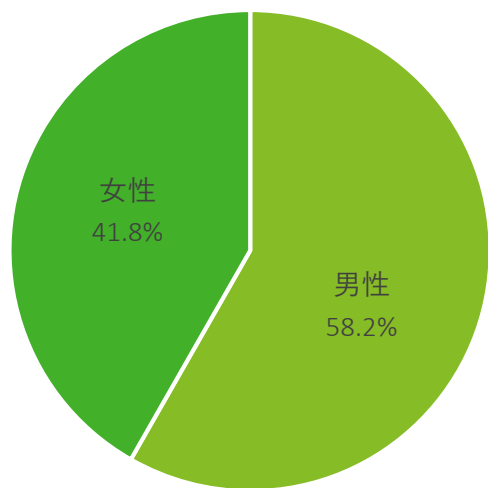
#### ● アンケート概要

- **実施方法**：株式会社NTTドコモが提供する「dポイントクラブ」の会員のうち、アンケートへの参加に同意した方を対象に、dポイントクラブアンケートサイト上で依頼者が作成した調査票に基づき、オンラインでアンケートを実施
- **アンケート対象**：2022/09/21～2025/09/20に越前市、鯖江市、越前町に60分以上滞在した15～99歳の国内居住者（位置情報から絞り込み）
- **調査期間**：2025/12/23～2026/01/23
- **サンプル数**：1,683（3市町に来訪した有効回答数764）

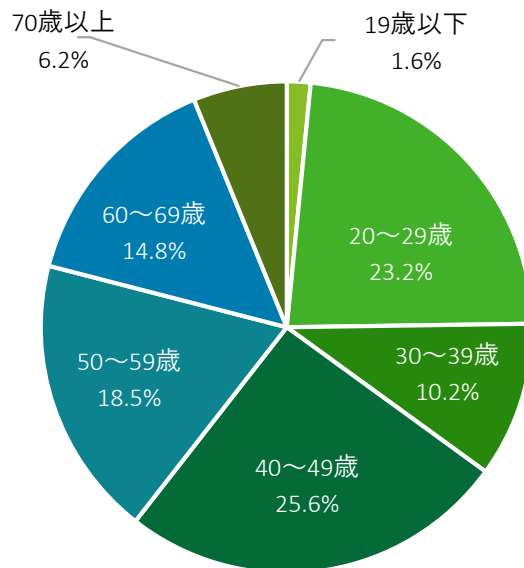
#### ● 3市町に来訪したと回答した方の基本情報

※3市町のいずれかに来訪したと回答した方のみで集計

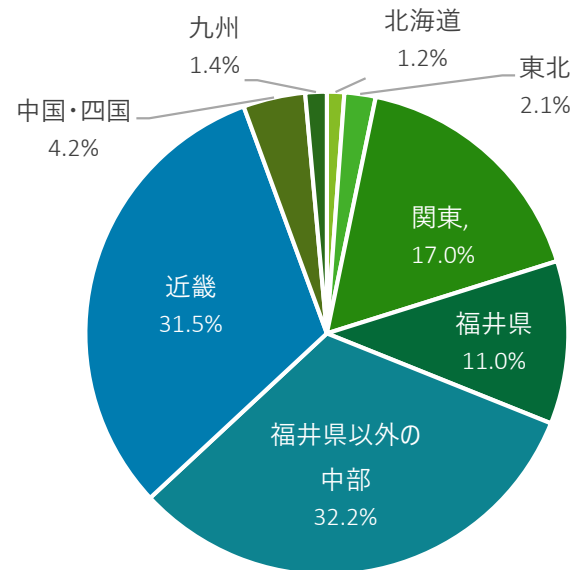
#### ■ 性別



#### ■ 年齢



#### ■ 居住地



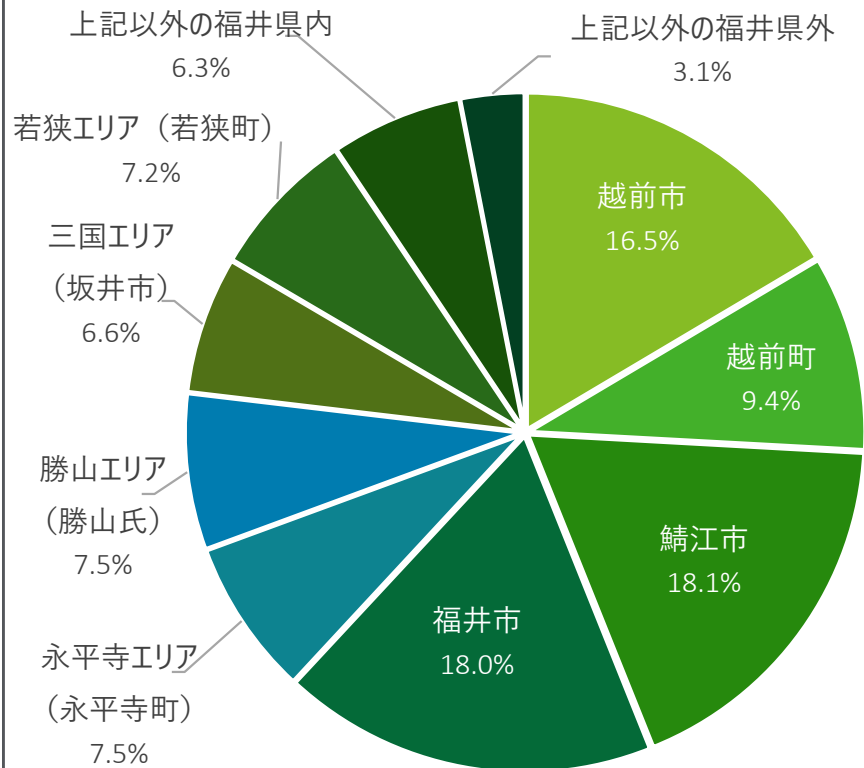
いずれもN=764

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 5/17

## ■取組① | 持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり

### ①（日本人観光客向け）オンラインパネルアンケート結果（抜粋） 2/9

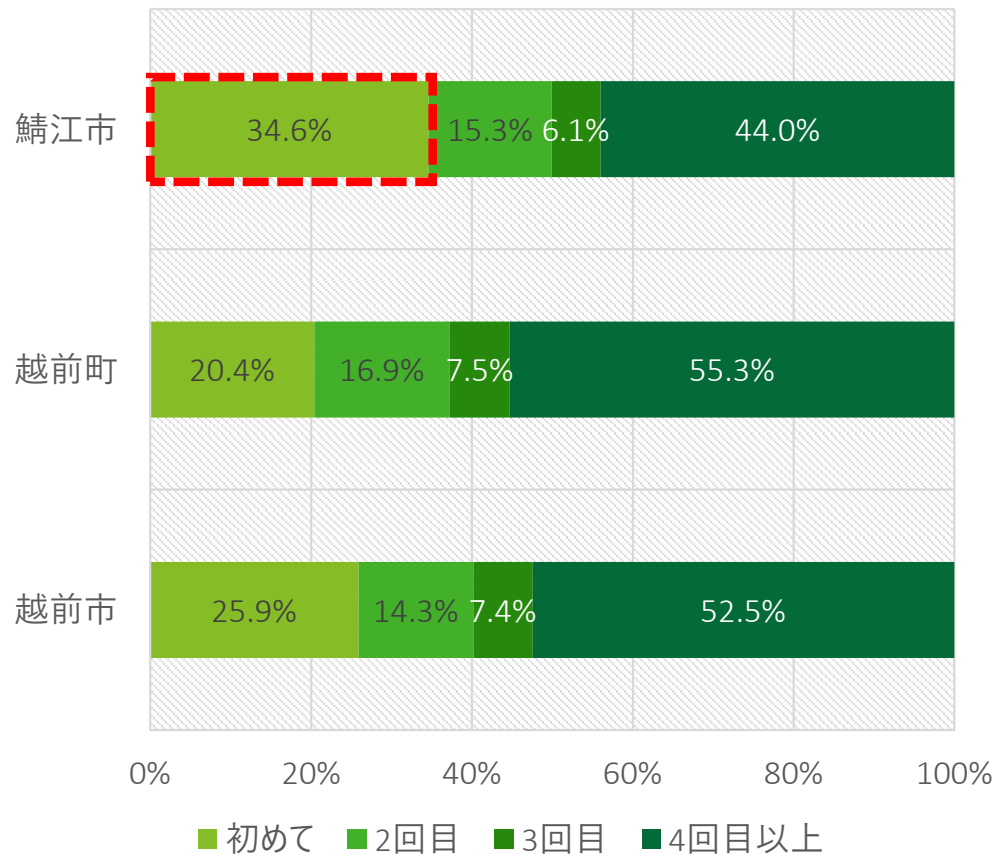
● 主な来訪先（No.2）



N=764

- 3市町以外に、福井市、永平寺、勝山、三国若狭などにも来訪している。
- 越前町は、越前市・鯖江市と比べ、来訪した人の割合が低い結果となった。

● 3市町における訪問回数（No.3）



鯖江市：N=448、越前町：N=255、越前市：N=491

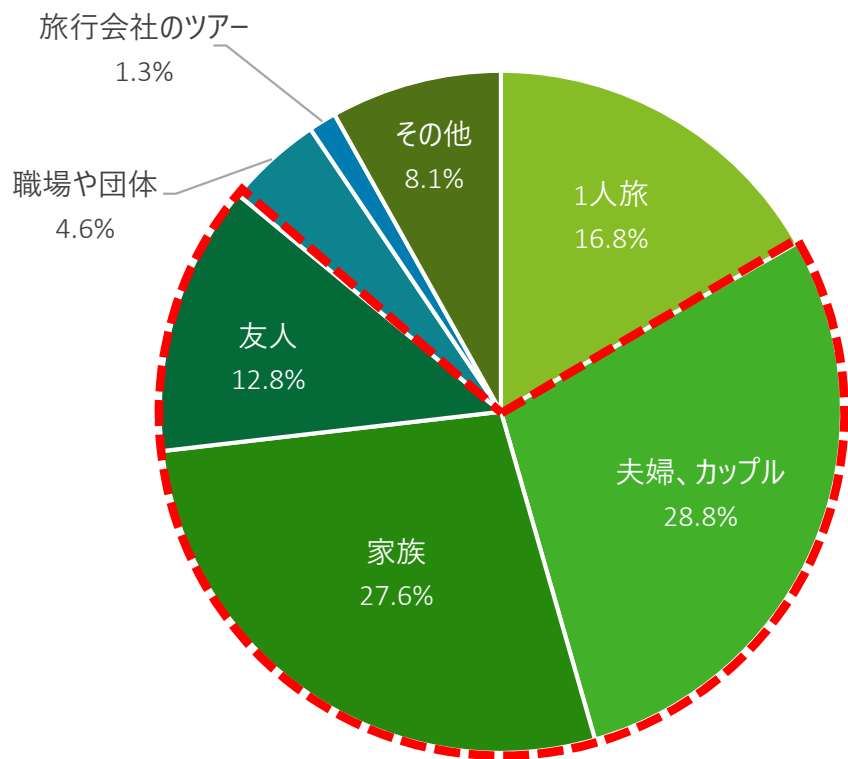
- 訪問回数について“初めて”と回答したのは鯖江市が一番多く、30%を超えた。
- 越前町・越前市は“初めて”と回答した割合が低く、“4回目以上”と回答した人が50%を超えた。

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 6/17

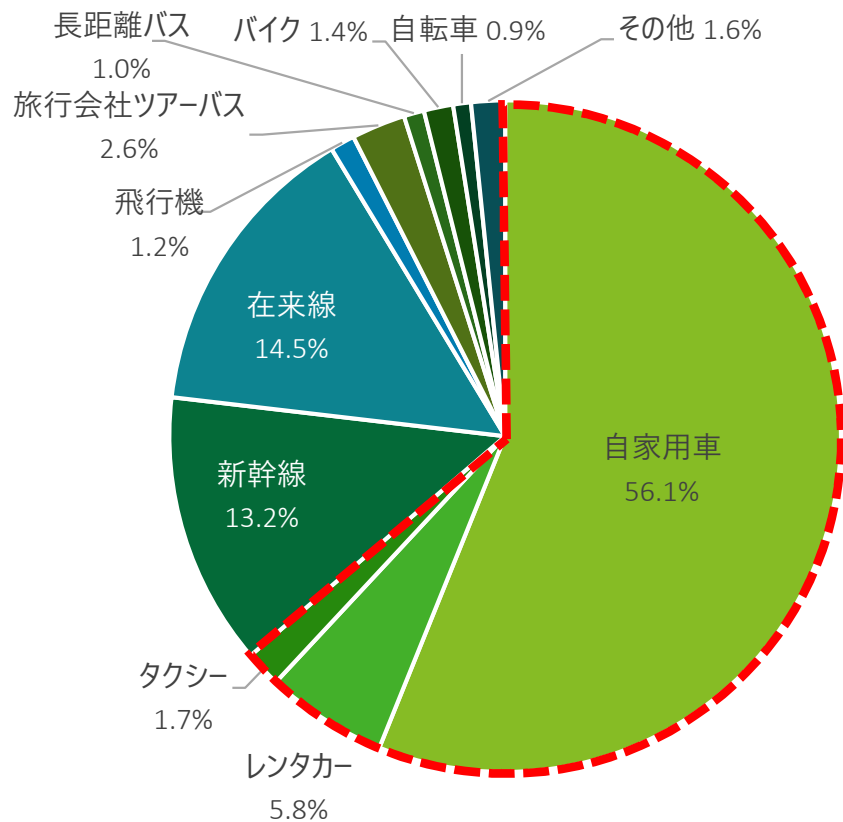
## ■取組① | 持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり

### ①（日本人観光客向け）オンラインパネルアンケート結果（抜粋） 3/9

● 来訪形態（No.4）



● 交通手段（No.8）



いずれもN=764

- （2人以上の）複数人での旅行は約70%を占める結果となった。
- 団体旅行は5.7%と低い結果となった。

- 自家用車、レンタカー、タクシーなどの車移動が全体の63%を占めている。
- 飛行機は1.2%と少なく、車に次ぎ、新幹線が13.2%と大きい結果になった。
- 長距離バス・旅行会社ツアーバスは3.6%と少ない結果となった。

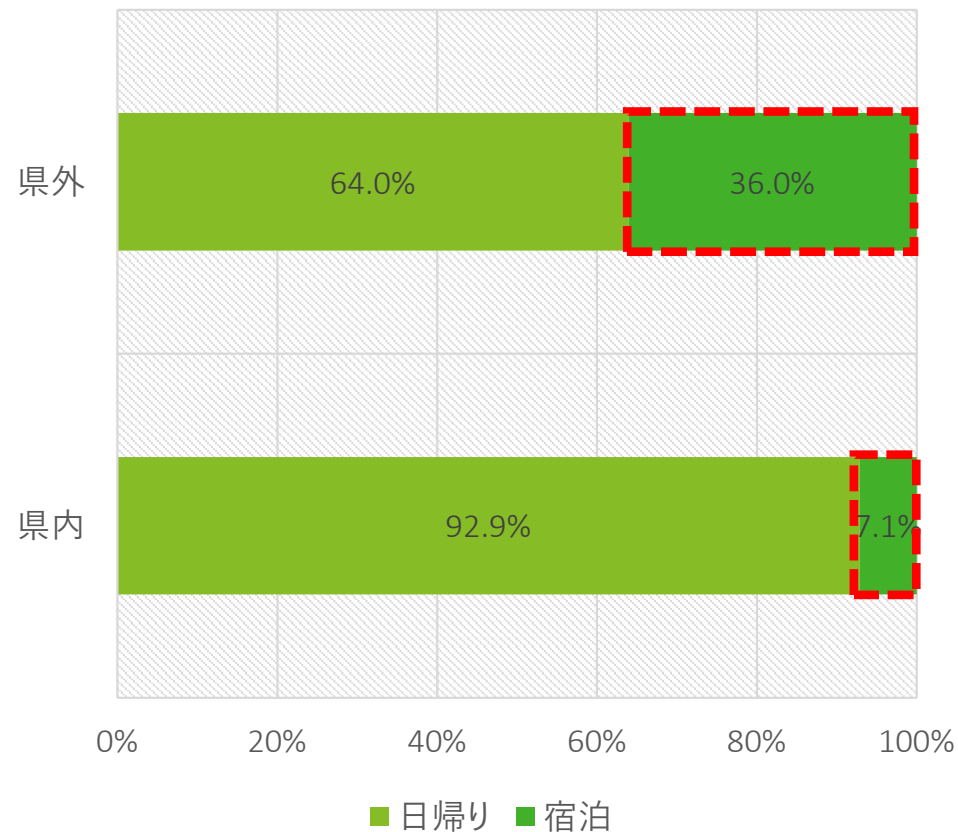
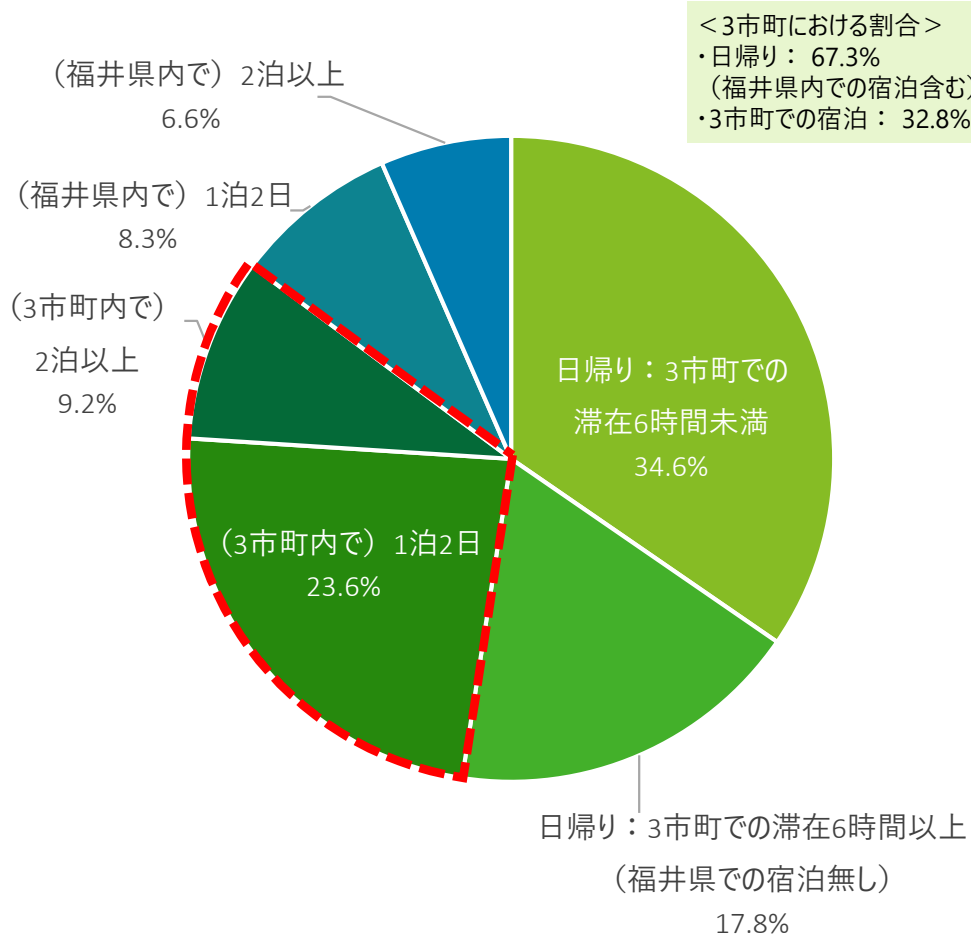
# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 7/17

## ■取組① | 持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり

### ①（日本人観光客向け）オンラインパネルアンケート結果（抜粋） 4/9

● 日帰り・宿泊（No.7）

● 日帰り・宿泊（No.7） ※県外・県内比



N=764

- 3市町に訪問している方は、福井県内に宿泊している人が約15%いるが、3市町で宿泊している人が17%を超えており、やや高い結果となった。
- 3市町での滞在時間が6時間未満と少ない人が1番大きい結果となった。

※3市町に訪れているが、福井県内（3市町以外）に宿泊した方は日帰りとしてカウント

- 県内客の宿泊率は7.1%だが、県外客は36%となっており、約5倍の結果となった。

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 8/17

## ■取組① | 持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり

### ①（日本人観光客向け）オンラインパネルアンケート結果（抜粋） 5/9

●（3市町に訪れた方の）消費額単価（No.11）

【参考】令和6年度福井県観光入込客数（推計）データ：

1人あたりの観光消費額単価（食事は昼食のみ） **宿泊 ¥24,913円、日帰り ¥3,972**

3市町に訪れている方のみ対象として集計、福井県に「訪れていない」と回答した方は対象外

アンケート項目	宿泊	日帰り	全体
■1人あたりの消費額（合計）	¥38,052	¥14,396	¥22,147
■飲食費	¥8,793	¥5,239	¥6,404
■交通費（3市町内の移動で使ったタクシーやバスなどの交通費）	¥4,446	¥2,581	¥3,192
■宿泊費	¥16,743	¥0	¥5,486
■買い物・土産購入品(1)（乳製品、菓子や飲料類）	¥2,651	¥1,396	¥1,807
■買い物・土産購入品(2)（コメ、野菜、肉等の農産物、畜産物）	¥518	¥484	¥495
■買い物・土産購入品(3)（魚、えび、かに等の水産物）	¥1,604	¥1,540	¥1,561
■買い物・土産購入品(4)（キーホルダーなどの雑貨、民芸品）	¥401	¥323	¥348
■買い物・土産購入品(5)（衣類・帽子・ハンカチ、繊維・羽二重の織物等を含む伝統工芸品）	¥246	¥154	¥184
■買い物・土産購入品(6)（陶磁器、ガラス製品、越前焼など）	¥270	¥160	¥196
■買い物・土産購入品(7)（金属製品、越前打刃物など）	¥246	¥202	¥216
■買い物・土産購入品(8)（木工品、竹細工、漆器、越前箆笥など）	¥199	¥132	¥154
■買い物・土産購入品(9)（紙・紙加工品、越前和紙など）	¥243	¥87	¥138
■買い物・土産購入品(10)（鯖江めがね）	¥834	¥1,148	¥1,045
■入館・入場料（温泉、温泉地、美術館等）	¥688	¥797	¥761
■体験料（伝統工芸の視察料など）	¥168	¥152	¥157

➢ 宿泊においては、3市町と比較してそこまで大きな差はないのですが、日帰りになると県全体で大幅に減少。

➢ 3市町での日帰り消費額が、福井県全域の他地域と比べて単価が高いという結果となっている。

N=764

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 9/17

## ■取組① | 持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり

### ①（日本人観光客向け）オンラインパネルアンケート結果（抜粋） 6/9

●（福井県内に来訪した方の）消費額単価（No.11）

【参考】令和6年度福井県観光入込客数（推計）データ：

1人あたりの観光消費額単価（食事は昼食のみ） **宿泊 ¥24,913円、日帰り ¥3,972**

※福井県内に訪れている方のみ対象として集計、福井県に「訪れていない」と回答した方は対象外

アンケート項目	宿泊	日帰り	全体
■1人あたりの消費額（合計）	¥38,119	¥7,734	¥13,860
■飲食費	¥8,723	¥2,800	¥4,026
■交通費（3市町内の移動で使ったタクシーやバスなどの交通費）	¥4,411	¥1,345	¥1,959
■宿泊費	¥16,967	¥0	¥3,399
■買い物・土産購入品(1)（乳製品、菓子や飲料類）	¥2,642	¥755	¥1,133
■買い物・土産購入品(2)（コメ、野菜、肉等の農産物、畜産物）	¥514	¥257	¥309
■買い物・土産購入品(3)（魚、えび、かに等の水産物）	¥1,592	¥844	¥994
■買い物・土産購入品(4)（キーホルダーなどの雑貨、民芸品）	¥398	¥169	¥215
■買い物・土産購入品(5)（衣類・帽子・ハンカチ、繊維・羽二重の織物等を含む伝統工芸品）	¥244	¥78	¥112
■買い物・土産購入品(6)（陶磁器、ガラス製品、越前焼など）	¥268	¥134	¥161
■買い物・土産購入品(7)（金属製品、越前打刃物など）	¥244	¥103	¥131
■買い物・土産購入品(8)（木工品、竹細工、漆器、越前筆筒など）	¥198	¥97	¥117
■買い物・土産購入品(9)（紙・紙加工品、越前和紙など）	¥241	¥44	¥84
■買い物・土産購入品(10)（鯖江めがね）	¥827	¥600	¥646
■入館・入場料（温泉、温泉地、美術館等）	¥682	¥412	¥466
■体験料（伝統工芸の視察料など）	¥167	¥93	¥108

- 滞在時間の長さが地域経済への波及効果を高めている。
- 日本人ということもあり、伝統工芸品の購入や体験は、小物類や安価なものが主流である。
- 福井県全体と比較して、日帰りでも消費額が多い結果となり、飲食費は越前町が多い＝カニの影響の可能性あり。

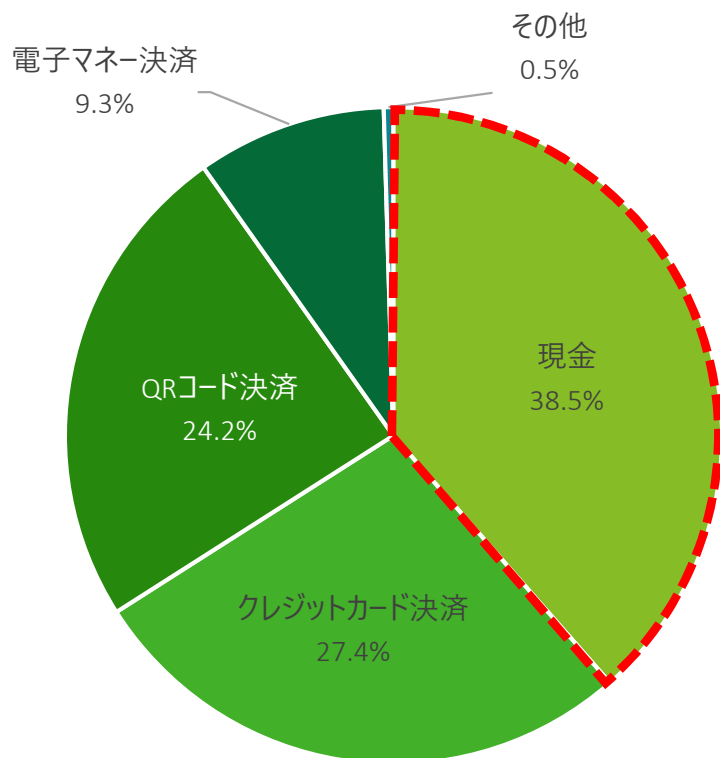
N=1,258

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 10/17

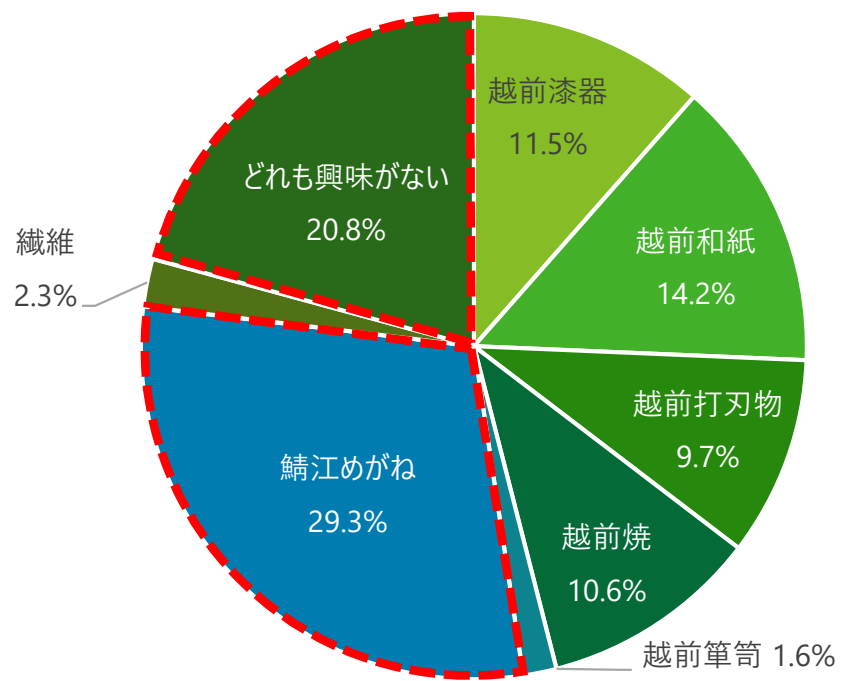
## ■取組① | 持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり

### ①（日本人観光客向け）オンラインパネルアンケート結果（抜粋） 7/9

● 決済方法（No.12）



● 興味がある伝統工芸品（No.13）



いずれもN=764

- “現金”と回答した方が38%と割合が一番大きい結果となり、クレジットカード決済、QRコード決済は20%代という結果となった。
- 電子マネーは9%と低い結果となった。

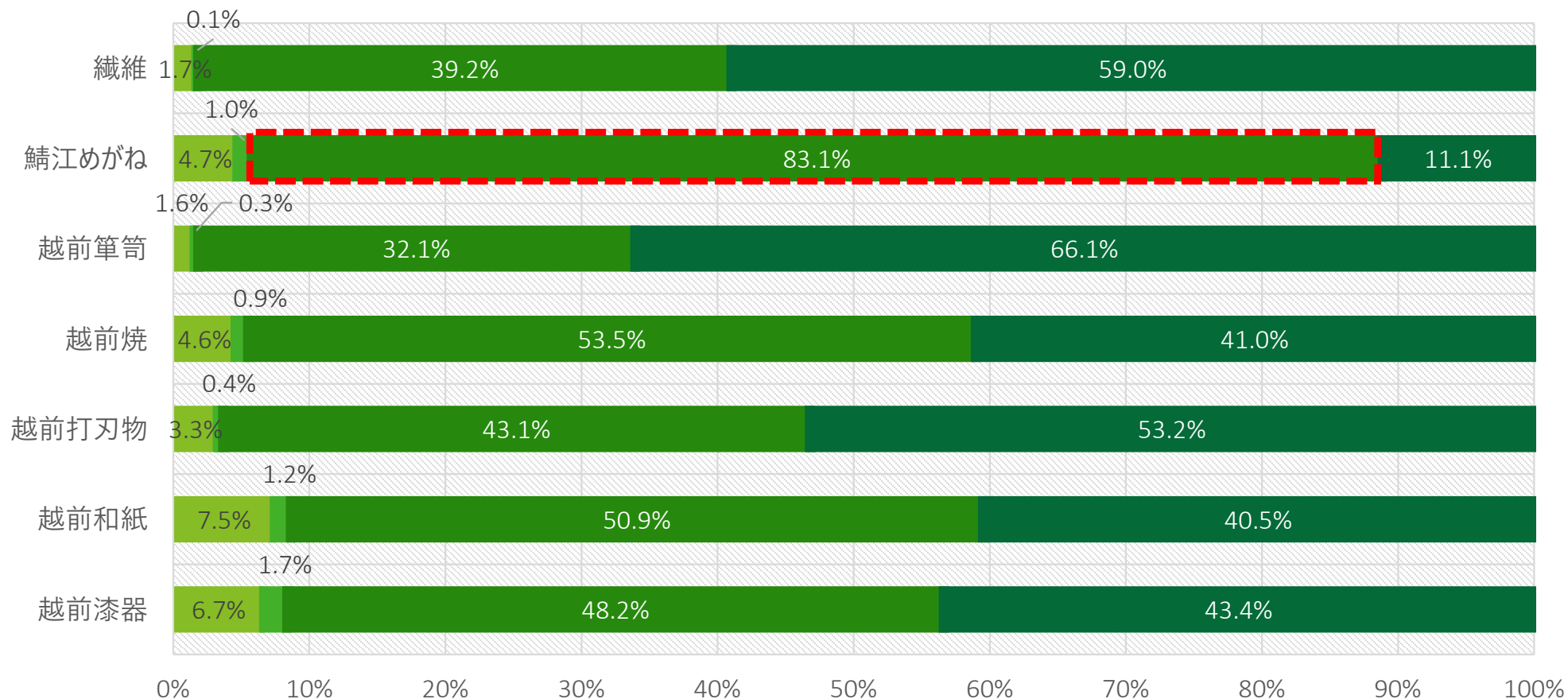
- 興味がある伝統工芸品について、“鯖江めがね”は約30%と高い結果となったが、次に多かったのは“どれも興味がない”が多く、20%を占めた。
- その次に単価が低い越前和紙が2番目に高く14%という結果となった。

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 11/17

## ■取組① | 持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり

### ①（日本人観光客向け）オンラインパネルアンケート結果（抜粋） 8/9

#### ● 伝統工芸品の認知度と購入有無（No.14）



■ 知っているが購入していない
 ■ 現地で知っていると思い購入した
 ■ 現地で知り、購入した
 ■ 知らないかつ購入していない

- “現地で知っていると思い購入した”と回答した割合が多かったのは、越前和紙・越前漆器、鯖江めがね、越前焼、越前打刃物、越前筆筒、繊維の順となったが、全体と比較するといずれも低い数値となった。“現地で知り、購入した”と回答した割合が多かったのも、同じ順となった。
- “知っているが購入していない”と回答したのは、鯖江めがねが80%以上を占めており、認知度の高さが分かった。

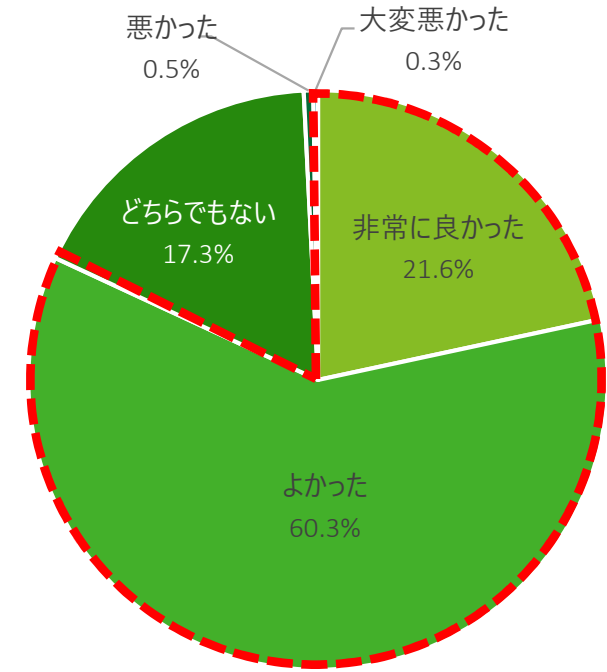
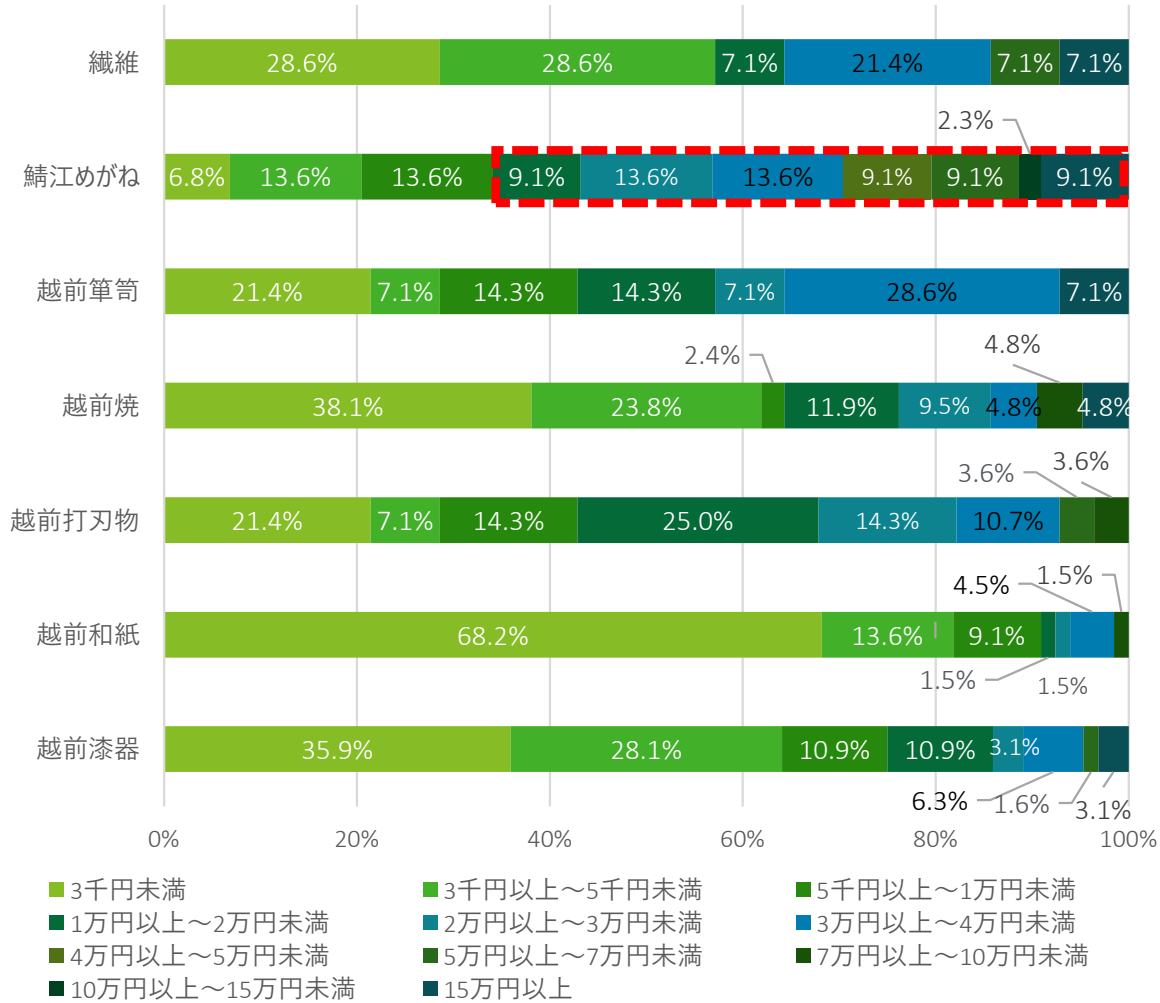
# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 12/17

## ■取組① | 持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり

### ①（日本人観光客向け）オンラインパネルアンケート結果（抜粋） 9/9

● 購入価格（No.14）※購入したと回答した方のみ

● 3市町の滞在総合満足度（No.15）



- 安価な割合が多いのは、単価が低いと思われる越前和紙が1番低い結果となった。
- 鯖江めがねは安価な割合が少なく、1万円上の価格で購入した人割合が、65%以上と高い結果となった。

- 旅行について、「非常に良かった」「良かった」と回答したのは、80%を超えており、高い結果となった。

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 13/17

## ■取組① | 持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり

### ①（日本人観光客向け）オンラインパネルアンケート結果を踏まえた経済波及効果算出

**実施内容：**本事業で実施したオンラインパネル向けアンケート結果から分かった数値（宿泊客の割合、日帰り・宿泊客の消費額単価）を、環境省サイトにて公開されている分析ツールに入力し、経済波及効果の算出を行いました。（URL：[地域経済循環分析 | 環境省ローカルSDGs -地域循環共生圏-](#)）

**結果・考察：**第1次間接が直接効果と比べると約20.5%、第2次間接が約1.2%と極めて小さい結果となった。この結果から、地元の関連産業や住民の消費へ広がる度合いが限られ、仕入れなどでお金が地域の外へ流れやすい可能性がある。地域内調達率が他の産業と比べ高くなっている、「宿泊・飲食サービス業」や「その他のサービス業」は、域内の生産・所得の誘発を通じた地域経済への波及効果の向上が期待されるため、今後優先的に需要拡大策を検討していきたい。

#### ● 設定値

##### 施策メニュー

観光振興(観光客の増加)

##### 施策規模の設定値

項目	設定値	単位
観光客の増加数	7,474,000	人
うち、宿泊客の割合	32.8%	%

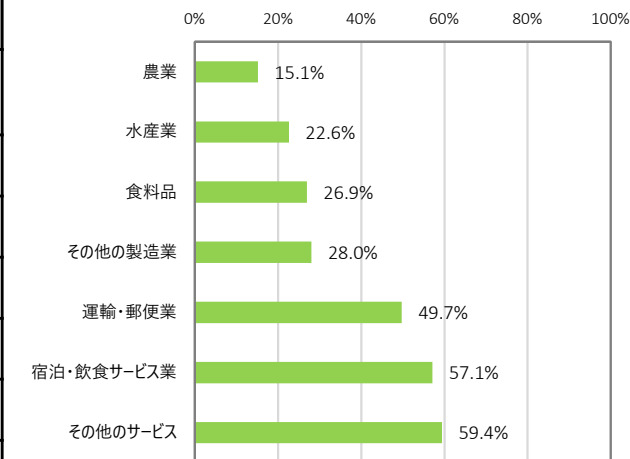
※観光客数の増加数は「令和6年福井県観光客入込客数（推計）」の「（10）目的別入込状況（市町別）（延べ人数）」の鯖江市・越前町・越前市の合計の数値を用いています

【出典】[https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kankou/fukuiken-kankouyakusu\\_d/fil/023.pdf](https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kankou/fukuiken-kankouyakusu_d/fil/023.pdf)

##### 観光客1人当たり支出金額の設定値

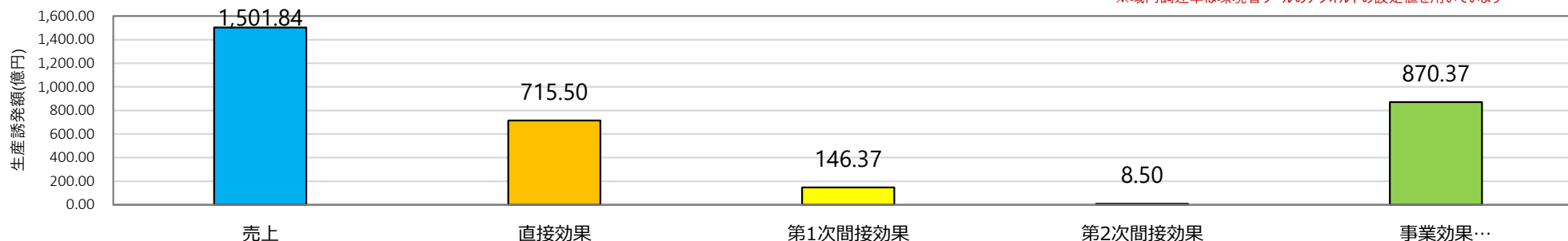
項目	日帰り客 (円/人・回)	宿泊客 (円/人・回)
農業 (農産品、畜産品のお土産(加工品を除く))	434	561
水産業 (水産品のお土産(加工品を除く))	1,136	1,389
食料品 (飲食物品(加工品)のお土産)	1,502	2,556
その他の製造業 (雑貨、民芸品等のお土産)	1,534	2,241
運輸・郵便業 (鉄道、バス、タクシー等の交通費)	2,975	3,980
宿泊・飲食サービス業 (宿泊費、飲食費)	4,980	22,933
その他のサービス (温泉、遊園地等の娯楽費)	1,083	791

##### 域内調達率<sup>注1</sup>の設定値



注1) 観光客の支出金額のうち、どれだけ地域内で支出しているかを表す割合  
※域内調達率は環境省ツールのデフォルトの設定値を用いています

#### ● 経済波及効果の算出結果



注2) 図中の事業効果(効果の合計)は、直接効果、第1次間接効果、第2次間接効果の合計である。数値は表章単位未満の位で四捨五入しているため、合計と内訳の合計は必ずしも一致しない。

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 14/17

## ■取組① | 持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり

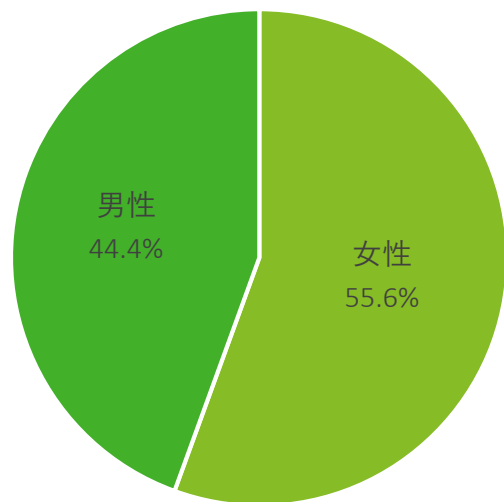
### ②（インバウンド観光客向け） 現地調査アンケート結果 1/4

#### ● アンケート概要

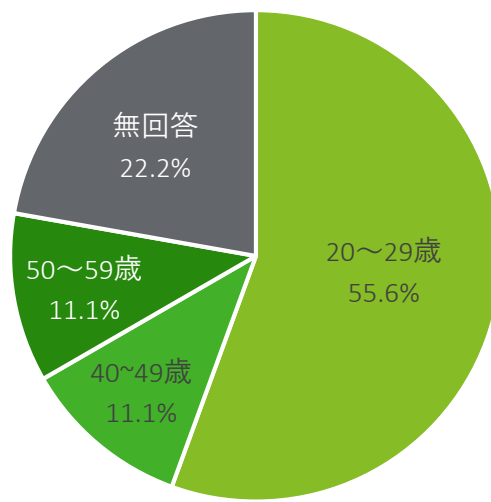
- **実施方法**：福井に来訪したインバウンド旅行客を対象に、日本人向けに作成した調査票をインバウンド向けに改良した調査票に基づき、福井駅の街頭にてスタッフを5日間配置し、インバウンドへ声掛けを行い、アンケートを実施
- **アンケート対象**：2025/12/13～2025/12/17に福井に来訪したインバウンド旅行者
- **調査期間**：2025/12/13～2025/12/17
- **サンプル数**：9

#### ● 基本情報

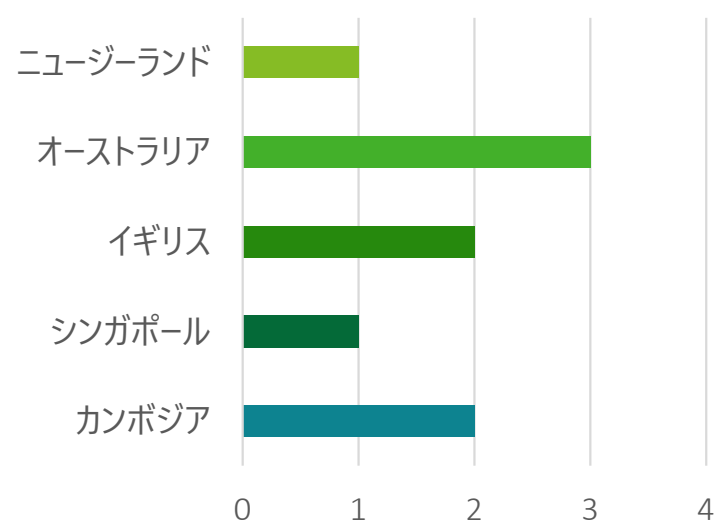
##### ■ 性別



##### ■ 年齢



##### ■ 居住地



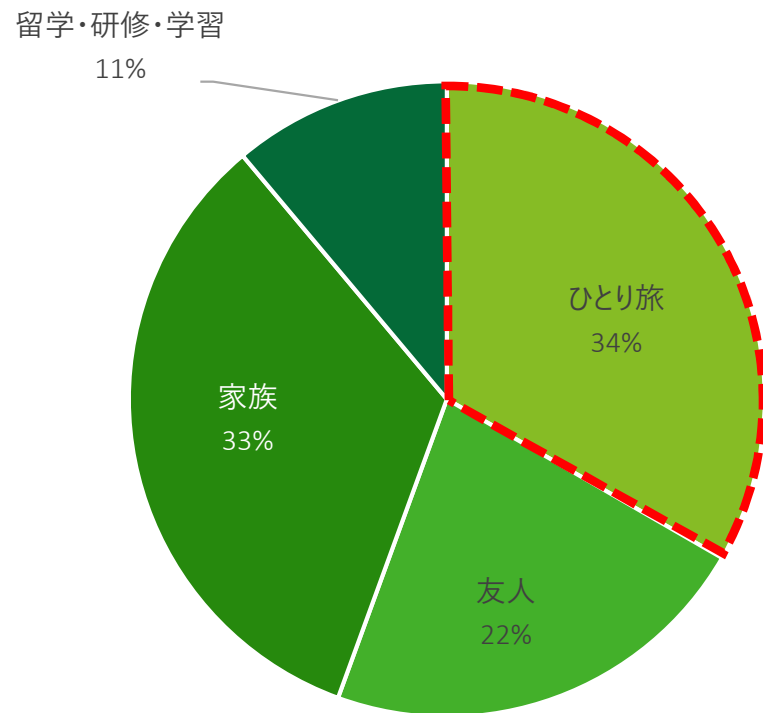
いずれもN=9

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 15/17

## ■取組① | 持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり

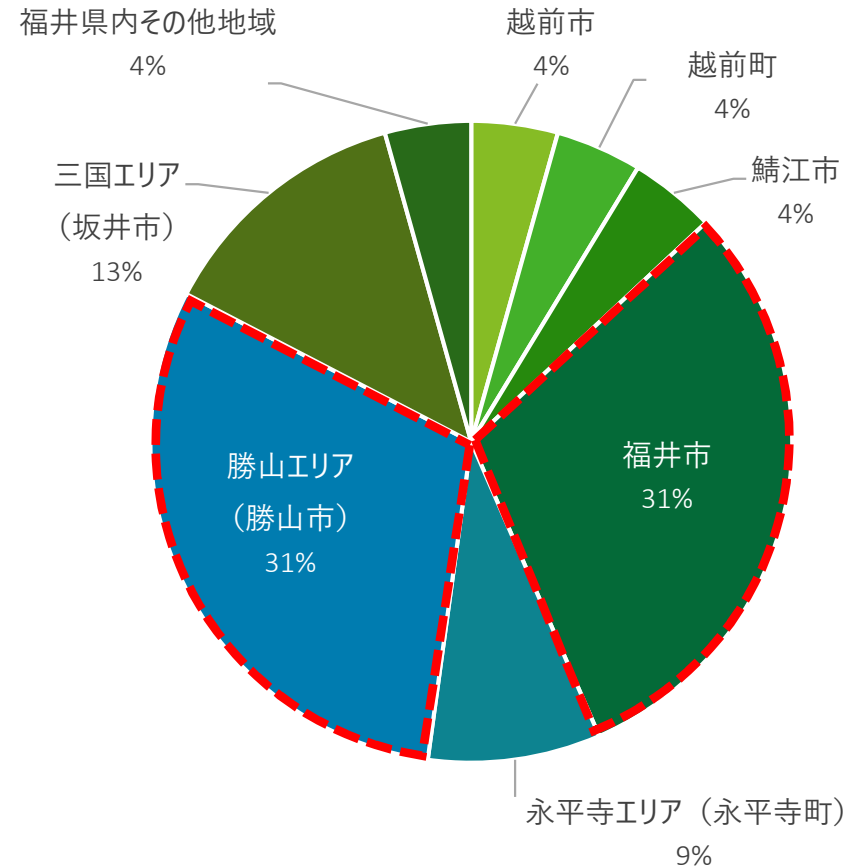
### ②（インバウンド観光客向け） 現地調査アンケート結果 2/4

● 来訪形態



● 来訪した場所（複数選択可）

いずれもN=9



- 一人旅、家族の割合がほぼ同じであり、日本人に比べて一人旅の割合が大きい結果となった。

- 福井市、勝山エリアに行っているインバウンドが多かった。
- 越前町・越前市・鯖江市は同率の割合となり、低い結果となった。

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 16/17

## ■取組① | 持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり

### ②（インバウンド観光客向け） 現地調査アンケート結果 3/4

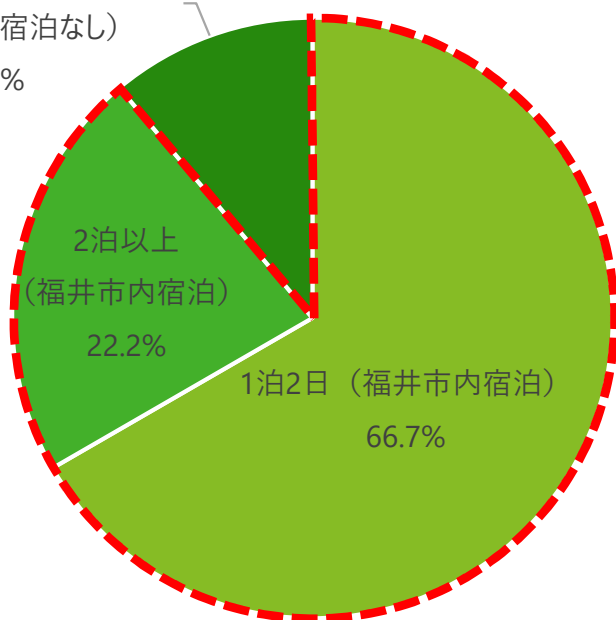
● 日帰り・宿泊（詳細）

● 決済方法

いずれもN=9

日帰り（3市町内6時間以上滞在・福井県内宿泊なし）

11.1%



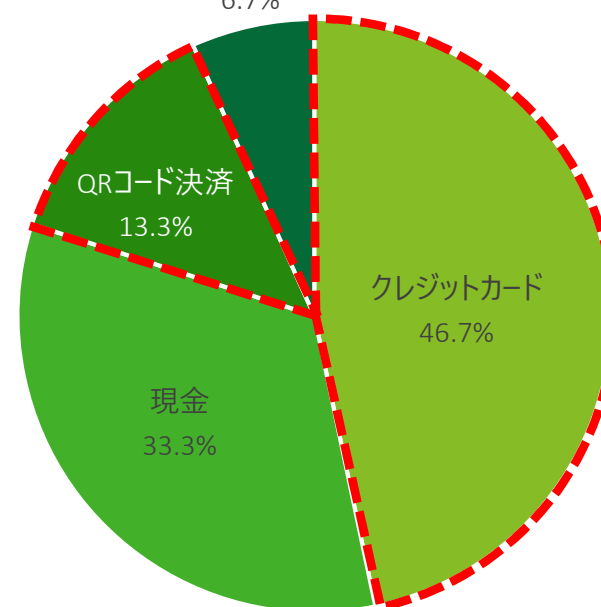
主な宿泊先

- ・ マリオットホテル
- ・ 東横イン福井駅前
- ・ 亀の井ホテル

- ・ 3市町に宿泊した方はおらず、宿泊したインバウンドの全員が福井市内に宿泊している結果となった。

電子マネー

6.7%



- ・ 日本人アンケートと比べると、クレジットカード・QRコード決済と回答した人の割合が大きく、現金と回答した方が少ない結果となった。

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 17/17

## ■取組① | 持続可能な観光地域づくりを行う意義の理解醸成・仕組みづくり

### ②（インバウンド観光客向け） 現地調査アンケート結果 4/4

#### ● 消費額単価

アンケート項目	N=5	N=3	N=8
	宿泊	日帰り	全体
■1人あたりの消費額（合計）	¥84,720	¥87,000	¥85,575
■飲食費	¥8,500	¥20,833	¥13,125
■交通費（福井県内の移動で使ったタクシーやバスなどの交通費）	¥23,740	¥17,500	¥21,400
■宿泊費	¥12,600	¥0	¥7,875
■買い物・土産購入品(1)（乳製品、菓子や飲料類）	¥2,740	¥11,000	¥5,838
■買い物・土産購入品(2)（コメ、野菜、肉等の農産物、畜産物）	¥4,000	¥2,333	¥3,375
■買い物・土産購入品(3)（魚、えび、かに等の水産物）	¥4,000	¥1,333	¥3,000
■買い物・土産購入品(4)（キーホルダーなどの雑貨、民芸品）	¥1,540	¥4,000	¥2,463
■買い物・土産購入品(5)（衣類・帽子・ハンカチ、繊維・羽二重の織物等を含む伝統工芸品）	¥1,700	¥2,333	¥1,938
■買い物・土産購入品(6)（陶磁器、ガラス製品、越前焼など）	¥320	¥4,167	¥1,763
■買い物・土産購入品(7)（金属製品、越前打刃物など）	¥2,000	¥3,833	¥2,688
■買い物・土産購入品(8)（木工品、竹細工、漆器、越前筆筒など）	¥320	¥4,167	¥1,763
■買い物・土産購入品(9)（紙・紙加工品、越前和紙など）	¥60	¥3,667	¥1,413
■買い物・土産購入品(10)（鯖江めがね）	¥0	¥667	¥250
■入館・入場料（温泉、温泉地、美術館等）	¥3,200	¥6,667	¥4,500
■体験料（伝統工芸の視察料など）	¥20,000	¥4,500	¥14,188

※有効な回答を得られなかった1人は集計対象外としました

➤ 十分なパネル数を確保することができなかつたため、消費額単価は正確なものといえることができないが、インバウンド8人の平均消費額単価は8万5千円以上の高単価となっており、飲食費、交通費、体験費は10,000円以上の平均値となっている。また日本人アンケートと比較すると、伝統工芸品の単価が高くなっている。今後インバウンドのニーズを調査し、事業者と共に消費額単価向上に資する施策やコンテンツの高付加価値化を実施していきたい。

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 1/7

## ■取組② | 3市町の連携体制構築

取組内容	KPIの達成状況
<p>■ 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 3市町の通年連携体制構築、推進主体の明確化に資する取組の推進</li> </ul> <p>■ 実施事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9月29日(月)に3市町合同のキックオフミーティング開催 場所：福井ものづくりキャンパス 1階ワークルーム / オンライン（ハイブリット形式） 内容：当会議の出席者およびアジェンダ、事業概要・計画内容、質疑応答</li> <li>1月29日(木)に3市町への成果報告会（事業の最終報告会）開催 場所：オンラインのみ 内容：当会議の出席者およびアジェンダ、事業実施内容および成果報告、質疑応答</li> <li>一般社団法人SOEの観光チームメンバーが組合との分科会や組合協議への参加</li> <li>1月27日(火)-28日(水) 事業者含む4名で岡山県へ視察</li> <li>越前焼工業協同組合の窯元などに向けたトークショーの開催</li> </ol> <p>■ 成果</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>合計23名（関係者11名含む）が参加 福井県産業労働部 商業・市場開拓課、鯖江市産業振興課、越前市観光誘客課、越前町商工観光課</li> <li>合計20名（関係者7名含む）が参加 福井県産業労働部 商業・市場開拓課、鯖江市産業振興課、越前市観光誘客課</li> <li>越前焼・委員会に2回、鯖江市・交流分科会に1回、越前市・越前和紙パレー意見交換会2回に、委員やオブザーバーとして参加し、現把握と課題について話し合った。</li> <li>1月27日・28日 岡山県・せとうちエリアでの広域連携の現状把握と、日本六古窯である備前焼における産業観光の課題点など、他産地を学ぶ現地視察へ合計4名で参加。</li> <li>1/18（日）に越前焼の窯元 5社と、組合、福井県、SOE含め、合計13名が参加。 有識者①：浜野氏（promoduction） / 有識者②：佐々木氏（羅針盤） 組合や参加された窯元の方々からは、今までこのような会をあまり開いたことがなかったので、継続的に開催をしていきたい、とても勉強になったとの前向きな意見をいただいた。</li> </ol>	<p>■ 指標項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 開催・参加したWG・協議回数</li> </ul> <p>■ 目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2025年度：合計5回、2027年度：合計7回</li> </ul> <p>■ 実績値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2025年度：合計8回（目標5回、目標対比 160%） ※3市町に向けた報告会や分科会・協議会への参加</li> </ul> <p>■ 推進上の工夫点</p> <p>■ 工夫点（キックオフミーティング開催） 本事業を進めるにあたり、まずは3市町に向けて説明の場を設け、どのようなことを進めていくかを具体的に取組①～③で設定し、共有することで、その後の事業においてもスムーズに進めることが出来た。また最終報告会も3市町に向けて開催することで、キックオフの時よりも積極的に参加をしてくれた。各市町の興味が醸成されたこと、そして本事業終了後もこのような場を増やし、連携を継続していきたい。</p> <p>■ 工夫点（各種委員会や交流分科会などへの参加） 3市町が開催する委員会や意見交換会にも積極的に参加したことで、問題・課題における情報の把握をするとともに、行政や観光協会と顔を合わす機会も増やすことが出来た。それ以外でも行政主導の分科会ではなく、今回予定にはなかった有識者に視察の行程中に、組合や職人との接点を増やすためのトークショーを開催したことで、お互いにとって学びとなることも多く、産業観光についての理解力も高まったように思う。今後もこのような時間を作って欲しいという意見も事業者から積極的に出てきたので、双方で継続していきたい。</p>
	 <p>▲窯元5社が集まり分科会 ▲有識者2名によるトークショー ▲越前焼関係者との交流会</p>

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 2/7

## ■取組② | 3市町の連携体制構築

### 3市町合同のキックオフミーティング・成果報告会開催

#### キックオフミーティングの目的・概要

目的	✓ 持続可能な観光推進モデル事業の事業における、概要や計画内容等について、3市町の行政や観光協会へ発表する会として開催。	
実施概要	日程	令和7年9月29日（月） 15：00～16：00
	場所	福井ものづくりキャンパス 1階ワークルーム オンライン（ハイブリット形式）
	参加者	計23名（福井県産業労働部 商業・市場開拓課、越前市、鯖江市、越前町、越前市観光協会、鯖江観光協会、その他関係者含む）

#### アジェンダ

会議名：「持続可能な観光推進モデル事業」キックオフ会議

1. オープニング
2. 本事業の概要
3. 本事業の実証事業計画
4. 今後のスケジュール共有
5. ご挨拶 | 観光庁様
6. クロージング

#### SOEコメント

- SOE内田代表により、3市町の行政の皆様に向けオープニングでは、今回の採択における事業の内容を共有するとともに、SOE濱本からは本事業でどのようなことを進めていくのかをスライドとともに、なぜこの地域にとって、産業観光を軸とした持続モデルの構築が必要なのか、細かく説明した。3市町の行政と民間が集まる機会はあまりないので、まずは現状の共有や計画について共有できる場としてはとても良い機会になった。

#### 成果報告会の目的・概要

目的	✓ 持続可能な観光推進モデル事業の事業における、概要や計画内容等について、3市町の行政や観光協会へ報告する会として開催。	
実施概要	日程	令和8年1月29日（木） 16：00～17：00
	場所	オンライン形式
	参加者	計11名（福井県産業労働部 商業・市場開拓課、越前市、鯖江市、越前町、越前市観光協会、鯖江観光協会）

#### アジェンダ

会議名：「持続可能な観光推進モデル事業」成果報告会

1. 実証事業の目的と取組
2. 取組の概要と実施結果
3. 各取組の詳細
4. 今年度の推進体制及び連携スペシャリスト
5. 実証事業のスケジュール
6. クロージング

#### SOEコメント

- キックオフミーティング同様、福井県をはじめ、3市町の行政なども参加いただき、今回の事業における取り組みの概要や実施結果などの成果報告を共有することができた。3市町におけるアンケート結果をはじめ、産地ヒアリングによって、多くの事業者が通年で産業観光に興味があり、観光客の受け入れをやりたいとの意向が強いことがわかり、本事業終了後においても、各事業者が自走できるように伴走支援していく前向きな課題も見えてきた。

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 3/7

## ■取組② | 3市町の連携体制構築

### 組合との分科会や組合協議への参加

越前町	鯖江市	越前市
<p style="text-align: center;"><b>越前焼・陶芸村基本構想策定委員会</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>鯖江まちなか交流・にぎわい協議会 産業観光・交流分科会</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>越前和紙バレー創造事業 意見交換会</b></p>
<p>■ 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 越前焼・越前陶芸村の取組を再考し、伝統工芸振興の一拠点として強化するための委員会</li> </ul> <p>■ 参加者</p> <p>福井県（伝統工芸室）、兵庫県立芸術文化観光専門職大学 今村教授、越前町、越前焼工業協同組合、越前町観光連盟、パレスホテル東京、実生窯 窯元、その他関係者、日本旅行、SOE</p> <p>■ 実施事項</p> <p>① 8月29日(金) 16:00-18:00 第1回越前焼・陶芸村検討委員会に参加 アジェンダ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 検討委員会について</li> <li>(2) 越前焼・陶芸村の現状と課題について</li> <li>(3) 今後の流れについて</li> <li>(4) 質疑応答・意見交換</li> </ol> <p>② 12月18日(木) 14:00- 16:00 第2回越前焼・陶芸村検討委員会に参加 アジェンダ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第1回委員会の振り返り</li> <li>(2) 基礎調査結果 (アンケート、ヒアリング、先進事例)</li> <li>(4) 基本構想 骨子案の説明</li> <li>(5) 質疑応答・意見交換</li> </ol>	<p>■ 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 鯖江市の今後の方向性を共有し、実現のための方策を官民が連携、協議する分科会</li> </ul> <p>■ 参加者</p> <p>鯖江市長（副市長）、福井県（文化交流部副部長）鯖江商工会議所、鯖江観光協会、福井工業大学 吉村教授、その他、各地場産業の組合、JTB福井支店、まち歩きガイドの会、SOE</p> <p>■ 実施事項</p> <p>① 12月15日(月) 10:30-12:30 第1回 産業観光・交流分科会に参加 アジェンダ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域観光と市内交通の現状について             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福井県の観光動向について</li> <li>2. 市内公共交通、公共施設の状況</li> </ol> </li> <li>(2) 意見交換</li> </ol> <p>② 2月3日(火) 10:00- 13:00 第2回 産業観光・交流分科会に参加 アジェンダ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第1回分科会の振り返り</li> <li>(2) 課題に対する意見交換</li> <li>(3) 課題のまとめ（結果の集約）</li> <li>(4) 課題解決に向けた新たな取り組み</li> <li>(5) 質疑応答</li> </ol>	<p>■ 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 越前和紙 Valleyエリアの滞在価値向上による「越前ファン」の創造・拡大に向けた意見交換会</li> </ul> <p>■ 参加者</p> <p>越前市（観光誘客課、都市計画課、和紙・打刃物・たんす課）、区長（大滝、岩本、新在家、不老）、越前市議会、和紙組合、越前和紙事業者、越前市観光協会、デキタ、TSUGI、SOE</p> <p>■ 実施事項</p> <p>① 11月19日(水) 19:00-21:00 越前和紙バレー創造事業 意見交換会に参加 アジェンダ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 進捗報告             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「和紙の里通り」整備状況について</li> <li>2. 越前鳥の子紙の研修場の活用状況</li> <li>3. 宿泊施設「SUKU」の整備状況等</li> </ol> </li> <li>(2) 質疑応答</li> </ol> <p>② 12月23日(火) 19:00- 21:00 越前和紙バレー創造事業 意見交換会に参加 アジェンダ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) メインストリート景観整備事業について             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. サイン整備計画（全域・和紙エリア）</li> <li>2. 歩道内花壇の撤去について</li> </ol> </li> <li>(2) 質疑応答</li> </ol>

#### ■ 参加後のコメント・今後の方針

3市町が開催する委員会や意見交換会にも積極的に参加したことで、問題・課題における情報の把握をするとともに、行政や観光協会と顔を合わす機会も増やすことが出来た。今後は一般社団法人SOEが推進主体となり各行政と連携しながら、産業観光における消費分析に基づく広域戦略の策定などを行っていく。

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 4/7

## ■取組② | 3市町の連携体制構築

### 事業者との他地域への現地視察

#### 現地視察の目的・概要

目的	✓ 瀬戸内エリアでの広域連携の現状、越前焼と同じ日本六古窯である備前焼における産業観光の課題点などを学ぶ	
	日程	✓ 1月27日(火)～1月28日(水) 1泊2日
実施概要	訪問先	✓ 岡山県（備前市、倉敷市）
	参加者	✓ 越前焼工業協同 1名、（一社）SOE 3名 合計 4名

#### 視察スケジュール

1日目	視察先	✓ 倉敷市 ・倉敷美観地区 ・倉敷民藝館 ・児島ジーンズストリート
	打ち合わせ	✓ 企業名：せとうちDMC ✓ メンバー：せとうちDMC 越前焼工業協同組合 （一社）SOE 内容：広域DMCの現状と戦略
2日目	視察先	✓ 備前市 ・備前市役所、国指定史跡 南大窯跡 ・備前市立備前焼ミュージアム ・伊部の陶芸エリア散策
	打ち合わせ	✓ 企業名：備前市役所 ✓ メンバー：備前市 越前焼工業協同組合 （一社）SOE ✓ 内容：備前市における産業観光の現状

#### せとうちエリア 現状

- 瀬戸内エリアは、日本の中でも広域連携型の持続可能性モデルを志向している地域の一つである。
- 広域マネジメント構造の強みは、7県を横断する「せとうちDMO」がマーケティング等の設計を一体で行っている。
- 2024年8月に「せとうちDMC」を立ち上げ、観光誘致を目的に、FAMツアーや海外の商談会に積極的に参加。
- 広島や直島など一部エリアへの集中という課題がある中、大量集客型ではなく“質”重視へ転換している。

#### 備前焼の 課題点

- 瀬戸内エリアは、沿岸部の大都市が中心的役割を担っており、備前市はその中心からやや離れた位置付けにある。イベントは行政主導、工房が儲かる仕組みが難しく、備前祭は過去42回やっているが、来場者数が年々減っており、祭り自体もマンネリ化してきている。
- 備前焼は陶友会会員の方が400人いて、その方々は販売の機会があるが、会員にならない作家もいる。
- 材料の問題としては、薪は赤松を使っていたが、なくなってきたので植えるプロジェクトがあったりする。
- 備前市のルールとして、薪窯の煙突が新しく建てられず許可がおりないので、市外に行ってしまう作家もいる。





#### 参加者の感想

- 今回の視察を通じて、観光資源としては、特に越前鯖江の地場産業である「眼鏡」と「越前焼」に向けて大きなヒントをいただく機会となった。一方で、「備前焼」に産地である伊部が一番古い焼物産地ということもあり、釉薬をつけない焼き締めが主流であるからこそ、可能になるアップサイクルの循環を作っている点は、素晴らしい取り組みだと思った。またせとうちDMCや備前市役所との打ち合わせについては、お互いの情報交換だけでなく、今後産地がつながるきっかけになる関係構築ができた。

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 5/7

## ■取組② | 3市町の連携体制構築





### 事業者とその他地域への現地視察 1/3

訪問都市	倉敷市	<div style="text-align: center;">— 当日の様子 —</div>  <p style="text-align: center;">倉敷民藝館にて民藝の展示</p>  <p style="text-align: center;">越前和紙で作られた工芸の「本」</p>  <p style="text-align: center;">ベティスミス ミュージアム見学</p>  <p style="text-align: center;">日本一古いジーンズ工場見学</p>
訪問箇所	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 倉敷美観地区（倉敷民藝館）</li> <li>➤ 国産ジーンズ発祥の地「児島」</li> </ul>	
視察内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「倉敷美観地区」では、倉敷民藝館を見学し、民藝と伝統工芸の違いを学んだ。伝統工芸は、高度な手仕事や国の指定制度、地場産業の側面が強い一方、民藝は無名、日常使、生活に根差した美を重視している。つまり、伝統工芸が「技術の継承」に軸足を置くのに対し、民藝は「暮らしの中の価値」に軸足を置いている点に違いは感じた。特に倉敷では、工芸が単なる商品ではなく、まちのアイデンティティとなっていて、大量生産でもラグジュアリーでもなく、生活と共にある工芸になっていることで、価格競争に陥らない、地域の誇りを育むという意味では、持続可能性と親和性が高いと感じるエリアであった。</li> <li>● 倉敷で今注目を浴びている「児島」では、日本で初めてジーンズの生産を開始した、国産ジーンズ発祥の地としても有名である。児島といえば、ジーンズというのが定着している町で、日本一古いジーンズ工場を持つベティスミスが運営するミュージアムなどを見学。100年以上前のジーンズやミンソンなどで、ジーンズの歴史と技術を学ぶことができ、ジーンズに関するさまざまな施設が立ち並び、テーマパークのように楽しめる場所は、眼鏡にも通ずるところを感じた。ミュージアムでは、ジーンズの起源やジーンズの誕生秘話など、日本に入ってくる前の海外でのジーンズの歴史が、パネルと当時の貴重なジーンズの展示を見学。ジーンズ作り体験ができる工房では、古い機械でのボタンつけなどを体験させてもらった</li> </ul>	
得られた内容 見習うべき点	<p>倉敷は景観そのものの完成度が高く、観光地としてはせとうちエリアの中でも、広島や直島に次いで、滞在を楽しめる地域であると感じた。多くの人々がイメージする倉敷美観地区だけでなく、新たな目的地として児島を確立している点が特徴的である。これにより、日帰り観光にとどまらず、倉敷駅周辺での宿泊へと需要をつなげる可能性を広げている。また、倉敷は「工芸」というよりも「民藝」の思想が根づいており、市内の宿泊施設においても、せとうちエリアの工芸作家の作品を取り入れるなど、地域文化を体感できる空間づくりがなされていた。単なる宿泊拠点ではなく、産地へ足を延ばすきっかけをつくるハブとして機能している点は示唆に富む。</p> <p>児島においては、ものづくりとファッションを掛け合わせたまちづくりが印象的であった。ジーンズストリートやベティスミスといった老舗が築いてきた歴史を背景に、「ジーンズのまち」という明確な目的性を打ち出している。児島まで足を延ばす動機づけが設計され、倉敷市内からの日帰りツアーなども展開されるなど、戦略的なエリアマネジメントが行われている点は大いに参考になる。ものづくり×ファッションという切り口は、鯖江のめがね産業とも通じる部分があり、産業観光の可能性を広げるヒントがあると感じた。</p>	

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 6/7

## ■取組② | 3市町の連携体制構築



### 事業者とその他地域への現地視察 2/3

訪問都市	備前市	<p style="text-align: center;">——— 当日の様子 ———</p>  <p style="text-align: center;">国指定史跡 南大窯跡見学</p>  <p style="text-align: center;">伊部の陶芸エリア散策</p>  <p style="text-align: center;">備前市立備前焼ミュージアム見学</p>  <p style="text-align: center;">備前焼の回収ボックス</p>
訪問箇所	<p>➤ 国指定史跡 南大窯跡、備前市立備前焼ミュージアムと伊部の陶芸エリア</p>	
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「国指定史跡 南大窯跡」では、越前焼工業協同組合 代表理事 泉氏に説明をもらった。江戸時代に築かれた登り窯の遺構であり、備前焼の生産の歴史を物語る重要な文化資産であった。現地に立つと、単なる「窯の跡」ではなく、地域の産業と暮らしを支えてきた基盤そのものであったことが実感できる場所で、遺構を保存するだけでなく、周辺環境とあわせて“風景として”体験できる点にあると感じた。観光資源であると同時に、地域アイデンティティの拠点にもなっている。ここから学べるのは、産業遺産を単なる歴史展示にとどめず、現在のものづくりや文化と接続させる編集力の重要性である。</li> <li>● 備前市立備前焼ミュージアムは、長年親しまれてきた備前焼ミュージアムを改修した施設で、新施設として2025年7月にオープンした施設。備前焼の歴史・技法・作家作品を体系的に紹介する拠点であり、単なる展示施設ではなく、産地全体を理解するための“入口”として機能している。印象的だったのは、「ミュージアムで完結させない設計」で、その後実際窯元や作家のもとへ足を運びたいという導線がつくられている。</li> <li>● 備前焼は自然素材を活かす焼き物文化だと改めて学びになった。釉薬を使わず、薪窯で長時間焼成するのが特徴なので、リサイクルができるところが素晴らしい。回収された陶片は、研究・再利用・土への還元などに活用される。廃棄ではなく循環を前提にしている。</li> </ul>	
得られた内容 見習うべき点	<p>備前市は、倉敷市と同じく、地域アイデンティティを感じる場所であった。越前鯖江においても、焼物や和紙、刃物などの産地には歴史的資産が点在している。それらを単体で見せるのではなく、「産業の時間軸」として体験化できるかどうか、持続可能な産業観光へとつながる鍵になるのではないかと感じた。また博物館の存在が、存在感あるようで、入り口的な場所であるところが良かった。博物館がゴールではなく、産地周遊のハブとして機能している点に大きな意味がある。越前鯖江に置き換えると、和紙・焼物・刃物などの産業も、歴史と現在をつなぐ総合的な“解説拠点”を持つことで、産地全体の体験価値を高められる可能性がある。単体の工房や店舗の魅力に加え、産地全体の物語を整理・発信する場の存在が、産業観光の質を左右すると感じた。越前鯖江でも産業観光の入り口的な場所が必要かもしれない。</p> <p>備前焼は、釉薬がかかっていない焼き締めされた器の割れたり不要になったりした備前焼を回収し、これらをアップサイクルする活動として、再生粘土を使って、コーヒーカップなどの「再生備前」シリーズが作られているのは素晴らしい。売って終わりではなく、使い終わった後まで関与する姿勢こそが、持続可能な産業の重要な視点だと感じた。観光客や購入者に対し、目につく看板は、「ものを大切にする文化」を伝える装置になっているので、素晴らしい取り組み事例を目の当たりにした。越前鯖江でも、和紙の端材活用、刃物の研ぎ直し、めがねの回収再利用など、循環を可視化する仕組みを観光コンテンツに組み込める可能性がある。</p>	

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 7/7

## ■取組② | 3市町の連携体制構築

### 事業者とその他地域への現地視察 3/3

<p>企業名</p>	<p>せとうちDMC（せとうちDMO）</p>	<p style="text-align: center;">当日の様子</p>  <p style="text-align: center;">左より時計回りに、せとうち、SOE、 越前焼工業協同組合（写真撮影：SOE）</p>
<p>ヒアリング内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 広域マネジメント構造の強みは、7県を横断する「せとうちDMO」がマーケティング等の設計を一体で担い、2024年8月に「せとうちDMC」を立ち上げ、観光誘致を目的に、FAMツアーや海外の商談会に積極的に参加している。せとうち全体での課題点としては、特にインバウンドにおいては、広島や直島など一部エリアへの集中するという課題がある中、大量集客型ではなく“質”重視へ転換しているため、高付加価値なマーケット（欧米）に向けてのプロモーションも強化している。</li> </ul>	
<p>成果</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 広域で“ブランドを定義する”戦略的統合 →せとうち観光推進機構（せとうちDMC）は、「せとうち」を単なる地理概念ではなく、ストーリー性を持つ広域観光ブランドとして再定義している＝点の魅力を面で再編集する視点。</li> <li>② 戦略設計と実装を一体化したDMO×DMCモデル →マーケティング戦略策定（DMO機能）と、旅行商品造成・販売・手配（DMC機能）を同一組織内で統合。単なるプロモーション組織にとどまらず、収益構造を内包した観光地域経営モデル。</li> <li>③ 高付加価値市場への明確なセグメンテーション →数的拡大ではなく、欧米豪を中心とした高付加価値層を主要ターゲットに設定。持続可能性を「環境配慮」だけでなく「経済的持続性（地域還元率）」で評価する枠組みを採用している。</li> </ol>	
<p>企業名</p>	<p>備前市役所</p>	 <p style="text-align: center;">奥より時計回りに、備前市役所、SOE、 越前焼工業協同組合、（写真撮影：SOE）</p>
<p>ヒアリング内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 備前祭などのイベントは行政主導で、工房が儲かる仕組み作りが苦戦している。また備前祭は過去42回やっているが、来場者数が年々減っているし、祭り自体もマンネリ化してきている課題もある。備前焼は陶友会会員だけでも400人いるが、備前市のルールとして、薪窯の煙突が新しく建てられず許可がおりないので、市外に行ってしまう作家もいるのも新たな課題の1つ。</li> </ul>	
<p>成果</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 行政主導イベントの限界 →イベントは「集客装置」ではなく「収益導線」で設計すべきであり、イベント依存ではなく、通年型・高付加価値型のツアー造成や個社収益に直結する仕組み設計の重要性を再確認した。</li> <li>② 薪窯規制による作家流出 →持続可能性は環境だけでなく、産業継続性も重要であり、行政のルールで作家の流出につながる現実さも実感した。行政がある程度予算をかけて作家が作陶する場所の創出も必要と感じた。</li> </ol>	

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 1/6

## ■取組③ | 伝統工芸・地場産業の事業者の巻き込み・既存のコンテンツの高付加価値化

取組内容	KPIの達成状況
<p>■ 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ RENEW期間だけでなく、観光客を通年で新規に受け入れる事業者・工房の増加</li> <li>✓ 既に観光客を受け入れている工房に対して、観光客を通年で受け入れるための課題・現状把握、コンテンツの高付加価値化</li> </ul> <p>■ 実施事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① RENEW参加事業者に向けたアンケートの実施</li> <li>② 事業者・職人へのヒアリング、ルート検討、ロードマップの作成、観光客を受け入れている工房見学及びサステナブル要素を取り入れたコンテンツの造成（地域文化を含んだストーリーづくり等による高付加価値化）に向けた有識者 3名による視察（1/18(日)～1/19(月)の2日間）</li> </ol>	<p>■ 指標項目</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 観光客を通年で受け入れる事業者数</li> <li>② 既存コンテンツにサステナブル要素を追加もしくは高付加価値化に取り組んだ事業者数</li> </ol> <p>■ 目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2025年度：①2件、②2件</li> <li>✓ 2027年度：①4件、②6件</li> </ul> <p>■ 実績値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2025年度：             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 4件（目標2件、目標対比 200%）</li> <li>② 2件（目標2件、目標対比 100%）</li> </ul> </li> </ul>
<p>■ 成果</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 約100事業者へ依頼をしたところ、予想以上に事業者の参加意識が高く、合計20社の回答を得ることができた。</li> <li>② 工房、宿泊施設、食事場所など、RENEW期間のみ受け入れをしている事業者、通年での受け入れをしている事業者、全11箇所を巡り、有識者から、各事業者からの質問などの対応、並びに各事業者の評価をもらった。 （各訪問先の評価は、次ページの有識者越前鯖江視察 評価シート参照）</li> </ol> <p>■ 見えてきた課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 通年での観光客の受け入れ状況としては、約80%が依頼があれば受け入れている。受け入れ人数の所感としては、68.2%がちょうど良いと答え、今後の意向としては、50%が増やしたいという前向きな意向を示している。一方で、本業とのバランスも課題である。</li> <li>② 有識者の全体評価としては、産業観光は事業者にとって本業ではない部分もあり、産業観光の目的をどこに置かかを事業者とすり合わせておくことも大事なことである。</li> </ol>	<h3 style="text-align: center;">推進上の工夫点</h3>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="136 1219 465 1458"> </div> <div data-bbox="504 1219 833 1458"> </div> <div data-bbox="871 1219 1178 1458"> </div> </div> <p>▲鯖江市事業者・KISSO訪問    ▲越前焼窯元・萌蘗窯訪問    ▲越前漆器・辻田漆店訪問</p>	<p>■ 工夫点（アンケートによるヒアリング実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各事業者が回答しやすいように、Googleフォーム、かつ設問数は、なるべくシンプルにして、RENEW参加事業者に向けて依頼。ここ3年間でのRENEW参加可否や、ファクトリーショップの有無等の設問も入れたほか、RENEW期間以外に、①積極的に受け入れている、②依頼があれば受け入れている、③検討中、④予定なしで振り分け、①②については、課題点や要望などを詳しく記載する設問とした。</li> </ul> <p>■ 工夫点（有識者3名による越前鯖江・現地視察）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2日間全て同じ有識者ではなく、3人の有識者を入れ替わりにすることでさまざまな目線で効率よく視察を進めることができた。また今回は課題の産業である「越前焼」に焦点を当てることで、現地視察の意義も高まり、窯元などに向けてのトークショーなどの学びの場であったり、有識者との交流会を催すことで、意味のある現地視察となった。有識者においても、それぞれ異なる分野の方々でさまざまな目線が入る現地視察となった。</li> </ul>

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 2/6

## ■取組③ | 伝統工芸・地場産業の事業者の巻き込み・既存のコンテンツの高付加価値化

### 有識者 3名による越前鯖江・現地視察

#### 現地視察の目的・概要

目的	✓ 有識者 3名それぞれの知見を持った専門家に、この産地を見ていただくことで、外部からの目線や意見が今後の参考となる	
実施概要	日程	✓ 1月18日(日)～1月19日(月) 2日間
	訪問先	✓ 福井県（鯖江市、越前市、越前町）
	参加者	有識者①：浜野氏（promoduction） 有識者②：佐々木氏（羅針盤） 有識者③：大高氏（wondertrunk&co.）

#### 当日の様子



➤ 鯖江市：KISSO  
メガネの材料商社「KISSO」での工房見学。事務所もKISSO LANDとして大きなりニューアルを経て、通年での工房見学受け入れも開始。佐々木氏からは「眼鏡」というコンテンツをどう海外の人の需要を喚起していくかがこれからのチャレンジである、またしっかり単価を取って特別な体験も用意が必要とのアドバイス。



➤ 越前町：越前焼杯土工場  
焼物に詳しい浜野氏からは、焼きものづくりを奥深く知りたいコアな訪問者には有益。土づくりを体験できるワークショップなどがあるの良いのではないかというアドバイスをいただく一方で、佐々木氏からは、他とセットであればとても意味ある場所であると思うが、単体での評価は難しいという現実的なコメントもいただいた。



➤ 越前市：やなせ和紙  
浜野氏には工房見学と合わせて、和紙漉き体験も実施。実際体験してみてその難しさを知ることによって産業観光コンテンツとしての価値があるという意見と、楽しめることと難しいことがバランス良く体験できるワークショップで良かったというお言葉をいただいた。

#### 視察スケジュール

#### 1日目

1. KISSO 工房見学（鯖江市）
2. 越前焼・杯土工場見学（越前町）
3. 萌蘗窯工場見学（越前町）
4. 越前焼・分科会 & トークショー（越前町）
5. 夕食交流会@だいこん舎（越前町）
6. 越前和紙 工芸宿「SUKU」宿泊（越前市）  
※宿泊は浜野さまのみ

#### 視察先

#### 2日目

7. やなせ和紙 工房見学（越前市）
8. 大音師漆器店 工房見学（鯖江市）
9. 昼食@椀椀（鯖江市）
10. 辻田漆店 工房見学（越前市）
11. 龍泉刃物 工房見学（越前市）
12. 小柳筆筒店 工房見学（越前市）

#### 有識者の感想 （総評）

浜野氏：  
現場での工程紹介と訪問者が体験できるワークショップがセットにされていることで、身を持ってものづくりを理解し、その難しさが見える。ワークショップスペースまで用意している点には驚いた。

佐々木氏：  
「たくさん来られると業務が止まってしまうので」という発言もあり、価格設定する段階でも、来ても前向きに受け入れられる価格設定をすることも大事と感じた。産業観光は事業者にとって本業ではない部分もあり、産業観光の目的をどこに置くかが大切。

大高氏：  
各分野での卓越した職人さんの丁寧な手仕事や、その人にしかわからない感覚的なものなどにも常に感銘した。このような技術を残していかなければならない、ということ強く感じる、福井のプロダクトの強さを感じた。

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 3/6

## ■取組③ | 伝統工芸・地場産業の事業者の巻き込み・既存のコンテンツの高付加価値化

### 有識者越前鯖江視察 有識者コメント（総括）

浜野氏

産業観光としてのコンテンツについては、訪問した事業所ごとに差はあるが、概ね充実した内容が計画されているものの、日々の本業である製造を行なっている現場に、どのように訪問者を通年で受け入れるかが今後の課題と感じました。また日頃公開していない作業現場を目の当たりにし、何気ない職人の作業している様子と多くの人の手を介して1つのプロダクトが生み出されていることを体験することで、一朝一夕ではできないものづくりの奥深さを知ることができると思いました。加えてものの価値と価格に納得感が生まれ、将来的な消費者心理にプラスに働くと考えられます。現場での工程紹介と訪問者が体験できるワークショップがセットにされていることで、身を持ってものづくりを理解し、その難しさがわかりますし、製造事業者がそれぞれファクトリーショップから、さらにワークショップスペースまで用意している点には驚かされました。

佐々木氏

「たくさん来られると業務が止まってしまうので・・・」という発言もあり、価格設定する段階でも、来ても前向きに受け入れられる価格設定をすることも大事な、と感じました。産業観光は事業者にとって本業ではない部分もあり、産業観光の目的をどこに置くか（認知拡大・採用等・収益化(ツアー収益/物販収益)・人材育成)を事業者とすり合わせておくことも大事なことだと感じています。陶芸や眼鏡等地域の文化・工芸を活かしたコンテンツでもあり、そこに人と出会えることは特別な体験でもあると感じるから。ただ、謙遜する方々をどう価値に変えていくか、特別な体験だと感じて貰うか、はまだまだ改善の余地もある。事業者、特にモノづくりの担い手とのふれあいと、それに至るまでの見えていないストーリーはとても興味深いものだと感じています。

大高氏

地域に根ざした技術や文化を引き継ぎながらも、新しい形を生み出したり、そのニーズが有るところにしっかりと当てていく、姿勢そのものが「サステナブル」または「リジェネラティブ」だと思いました。また、外国人向けの高付加価値向けの商品として仕上げていくことで、地域の産業経済の活性化や、誇りに繋がっていく再生産されるサイクルも素敵だと思いました。今回の視察対象は、まさに福井でしか味わえない事業者と取り組みであるため。皆様のお話も「本物」の体験として、とても興味深かったです。個人的には、越前漆器店訪問からの、材料としての漆専門業者に訪問できたのは、手に取るプロダクトがどのように作られているということがわかり、とても興味深かったです。普段使っているものや、製品がどのように沢山の人の手によって丁寧に作られていることや、原材料まで遡ると「自然」に生かされている・「自然」のものをいただいているということがわかり面白かったです。派生して、例えば漆や漁業などは気候変動にも晒されている、ということも、改めて実感し、とても印象に残りました。また、各分野での卓越した職人さんの丁寧な手仕事や、その人にしかわからない感覚的なものなどにも常に感銘いたしました。このような技術を残していかなければならない、ということ強く感じる、福井のプロダクトの強さを感じました。

### ■ 視察を踏まえてのコメント・今後の方針

今回の有識者による越前鯖江エリアの視察を通じ、地場産業が有する「工程の多層性や専門性」や職人の「身体的感覚・精神性」といった目に見えないストーリーこそが、訪問者に強烈な感銘を与える「本物の付加価値」であると再確認することができました。これらは単なる観光資源に留まらず、消費者の理解を深め、将来的な購買行動や地域経済の再生を牽引する極めて強力なコンテンツだと思います。今後、本事業を「持続可能な産業観光モデル」へと昇華させるため、①生業を阻害しない為にも「生産現場と観光の両立に向けた目的の最適化」、②日常の作業を「高付加価値体験」へ転換する仕組みづくり、③原材料から購買までを繋ぐ「一気通貫のストーリー」の確立という3つの方針を軸に、地域全体で技術を次世代へつなぐサイクルとして推進していきたいと思っています。

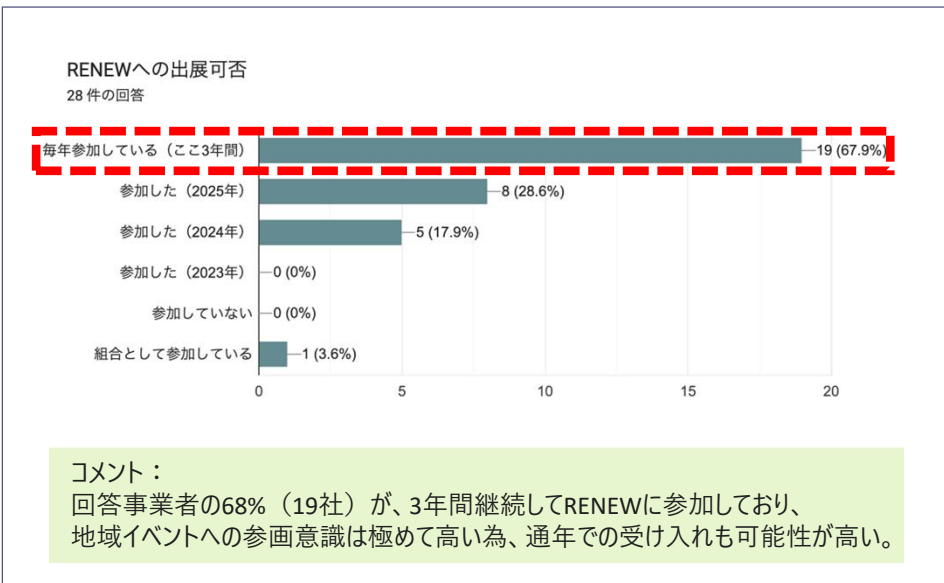
# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 4/6

## ■取組③ | 伝統工芸・地場産業の事業者の巻き込み・既存のコンテンツの高付加価値化

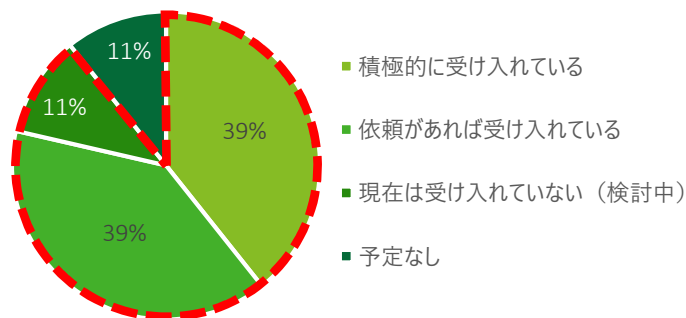
### アンケート結果 1/3

#### 実施概要

目的	本調査は、RENEW開催期間以外も含めた受け入れ体制や課題を把握し、今後、事業者の皆様にとって無理のない形での持続可能な工房の受け入れや、課題解決に向けた具体的な支援・取り組みを検討するためのものです。
実施期間	2026年1月
回答数	26件
対象者	RENEW参加事業者
回答方法	Google Formでの回答

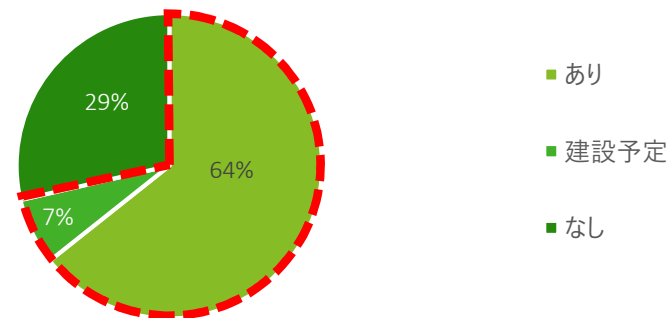


#### ■通年での観光客受け入れ状況



コメント：  
約80%（「積極的に」39% + 「依頼があれば」39%）の事業者が、イベント期間外も通年を通じて観光客を受け入れている事業者である。検討中も含めると、約90%の事業者が通年での受け入れを試みようとしている。

#### ■工房に隣接するショップの有無



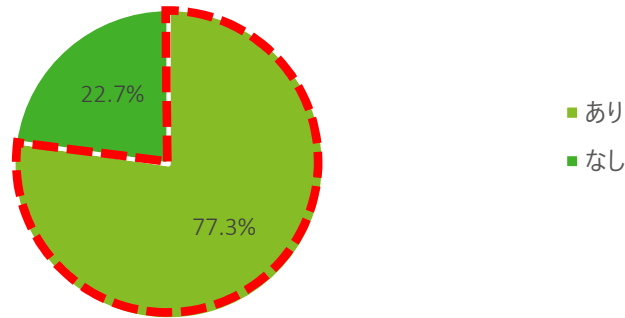
コメント：  
工房に隣接するショップを、「既に所有している（64%）」または「建設予定（2%）」の事業者は約7割にのぼり、B2BやOEM依存だけに頼ることなく、通年観光の拠点となるインフラ整備が進んでいる。もっと増えると良い傾向に。

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 5/6

## ■取組③ | 伝統工芸・地場産業の事業者の巻き込み・既存のコンテンツの高付加価値化

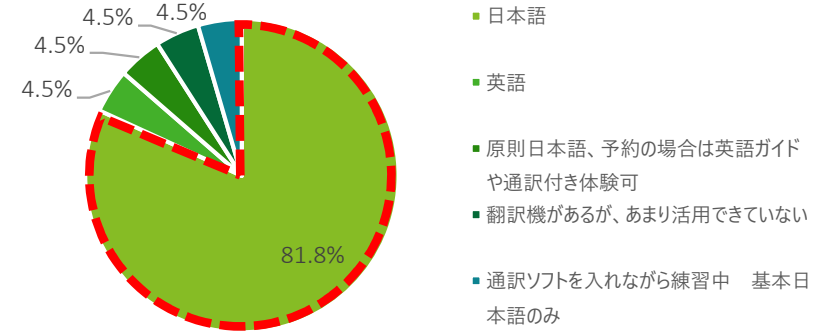
### アンケート結果 3/3

#### ■公開プログラムの有無



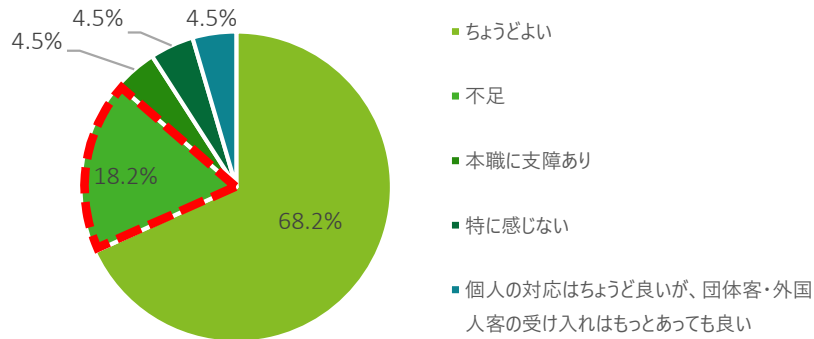
コメント：  
公開プログラムは、約7割強の事業者が「あり」とすでに持っている事業者が多い。これはRENEW参加時に、作成したプログラムが通年でも問い合わせがあれば、受けているような傾向に繋がっている。

#### ■対応可能な言語



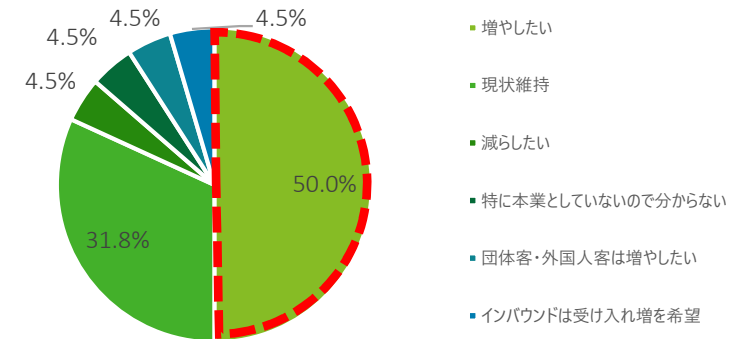
コメント：  
対応言語は、約8割が「日本語」となっており、事業者独自で多言語対応をするにはハードルが高いので、通訳ガイドが工房を案内する形態が現時点では好ましい。中でも、通訳ソフトで頑張っている事業者もある。

#### ■受け入れ人数の所感



コメント：  
現在の受入人数については、68%が「ちょうどよい」と感じている一方で、18%は「不足」と回答しており、さらなる誘客の余地がある。また受け入れが「限界」と回答する事業者はなく、通年での観光受け入れの可能性を感じる。

#### ■今後の意向



コメント：  
今後の意向として、31%が「現状維持」となっているが、50%が「受入を増やしたい」と回答。インバウンドの受け入れを増やしたい事業者もある。半数以上の事業者が現状以上の拡大に前向きで、現状よりも増やしたい事業者が多い傾向。

# 各取組の詳細（取組ごとに記載） 6/6

## ■取組③ | 伝統工芸・地場産業の事業者の巻き込み・既存のコンテンツの高付加価値化

### アンケート結果 3/3

#### 高付加価値化に向けたコンテンツ提供状況と今後の課題

- ✓ 通年受入事業者の77%（17社）が既に公開プログラム（体験・見学）を保有している。
- ✓ 単価設定は「500円～1,000円の見学」から「高単価な体験」まで幅広く、ターゲットに応じた高付加価値化に向けた可能性は高い。
- ✓ 多くの事業者からの声としては、インバウンド対応における「言語」と「案内」の課題が多かった。
- ✓ 対応可能言語は「日本語のみ」が80%（16社）を占め、外国人客への対応力がボトルネックとなっている事業者も見受けられる。
- ✓ 料金表の案内についても「都度案内」が45%（9社）と半数近く、明確な価格提示と多言語化が今後の必須事項である。
- ✓ 拡大への意欲はあるものの、現実問題として「人手・収益のバランスが取れていない」ので、その問題解決が重要である。
- ✓ 今後の意向として半数以上（50%）が「受入を増やしたい」と回答している前向きな意見が多かったことに期待。
- ✓ 「人手不足」や「通常業務への支障」を懸念する声もある為、職人の手を止めすぎないような「高単価かつ少人数の受け入れモデル」への磨き上げが求められる。

#### 事業者が産業観光の推進に期待する具体的メリット

- ✓ 工房受け入れをする中で、直接的な経済効果が欲しい。
- ✓ B2Cでの直接販売による「売上・業績への貢献」に加え、工房自体の「ブランド価値の向上」を最大のメリットと捉えている。
- ✓ ニッチな技術がある地域なので、産地全体の認知拡大が必要である。
- ✓ 産業観光を推進する上で、顧客との深い接点と理解醸成が大切である。
- ✓ 「本当に興味がある熱心な人」への紹介や、体験を通じた「素材の魅力アピール」など、深い理解に基づいたファンづくりを重視している。
- ✓ 受入環境の自発的な改善意欲
- ✓ 魅力をより伝えるために「ショップを改良していきたい」といった、観光を契機とした自発的な事業環境のアップデート（磨き上げ）への意欲が見られる。

#### 【考察：現場の負担を「価値」に変える仕組みづくりの必要性】

アンケート結果から、事業者の多くは「意欲」が高いことはわかったものの、「時間・場所・言葉」という物理的な壁に阻まれていることも明らかになった。

特に「見学が直接的な収益にならない」という課題は深刻であり、今後は「無料見学」から「有料の付加価値コンテンツ（ガイド付き、特別な体験等）」への転換を地域全体で推進していく必要があると考える。一方で、意欲が高い事業者に向けては、通常の生業である製造などに専念できるよう、「予約の分散管理」や「通訳ガイドの派遣」といった 事業者と一緒に伴走する支援の強化が、次年度以降の継続性を担保する鍵となる。その支援が持続可能であれば、新規事業者も増えていく好循環な産業観光が推進できる。

## 実施概要・実施内容

### ■ 実施概要

実施日時	2025年11月11日（火）～11月13日（木）
実施場所	1日目～2日目：サンドームものづくりキャンパス ワークルーム 3日目：越前市、鯖江市、越前町周遊
講師	GSTC公認トレーナー：二神真美氏 講師サポート：一般社団法人SOE
参加者数	14名(採択団体3名、その他11名)

### ■ 実施内容

11月 11日 (火)	9:00～9:10	開会あいさつ
	9:10～11:00	持続可能な観光の全体像とGSTCについて
	11:00～14:00	講義①持続可能なマネジメント
	14:00～16:00	講義②社会経済のサステナビリティ
11月 12日 (水)	16:00～17:00	グループディスカッション
	9:00～12:00	講義③文化的サステナビリティ
	13:00～16:00	講義④環境のサステナビリティ
11月 13日 (木)	16:00～17:00	グループディスカッション
	9:00～14:00	フィールドワーク（伝統工芸の工房訪問等）
	14:00～15:30	グループワーク
	15:30～16:55	3日間の振り返り
	16:55～17:00	閉会挨拶

## 1日目・2日目：講義・グループディスカッション

### 1日目

#### 当日の様子



- 二神先生による持続可能な観光地域づくりに取り組む意義等の最近の動向等に関する講義の様子



- ゲストスピーカー 漆琳堂内田氏。一般社団法人SOEでの活動と、漆琳堂に関する講義の様子

### 2日目

#### 当日の様子



- 各チームに分かれて、グループディスカッション後の発表も積極的に行っている様子







- ゲストスピーカー 越前市 軽部氏。一般社団法人SOEの活動と、漆琳堂に関する講義の様子

### 3日目：フィールドワーク

訪問場所	越前焼 風来窯	——— 当日の様子 ———	
担当者	大屋宇一郎氏		
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 越前焼「風来窯」は、従来の薪窯だけでなく、電気窯での製作もおこなっている。単価の高い薪窯は年に1度くらいしか焼けず、単価の安い器などを電気窯で焼くのが主流。</li> <li>● 越前焼の命となる土を生成する杯土工場では、1名のスタッフが全てを担っており、今後持続可能にしていくためには、この施設の運営体制の持続可能性も重要である。</li> </ul>		
基準に関連した取組※	<ul style="list-style-type: none"> <li>● セクションB,C</li> </ul>	【越前焼 工房見学】	【越前焼 杯土工場】
訪問場所	越前和紙 滝製紙所	——— 当日の様子 ———	
担当者	取締役 滝 英晃氏		
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 越前和紙「滝製紙所」は、機械漉きと手漉きの両方の製作をおこなっている。ふすまなどの単価が高い製品の需要が減る一方、ホテルなどの壁紙やディスプレイなどでの利用も普及され、なんでもできる越前和紙を地域一体で協力しながら仕事を受けている</li> <li>● サステナブルな観点でも、水を一度綺麗にしてから排水するなど手掛けている。</li> </ul>		
基準に関連した取組※	<ul style="list-style-type: none"> <li>● セクションB,C,D</li> </ul>	【越前和紙 工房見学】	【職人によるプレゼンテーション】
訪問場所	越前和紙 工芸宿「SUKU」	——— 当日の様子 ———	
担当者	一般社団法人SOE 山田 美玖氏		
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 越前和紙 工芸宿「SUKU」は、地元の素材や木材、そして産地事業者を使っている。カウンターでの紙漉き体験も紙を再生した材料で紙漉きを体験したり、フロントの壁紙は産地で眠っていた紙を再利用するなど、宿全体がサステナブルを意識した内装である。</li> </ul>		
基準に関連した取組※	<ul style="list-style-type: none"> <li>● セクションA,B,C</li> </ul>	【越前和紙 工芸宿 SUKU】	【フロントでの紙漉き体験】

### 3日目：フィールドワーク

訪問場所	越前漆器 椀椀（伝承料理）	当日の様子  
担当者	うるしの里いきいき協議会 田中敏江氏	
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 越前漆器「椀椀」では、地産地消の伝承料理を体験。地元のお母さんたちがその時期に食べてきた食材を使って、昔ながらのレシピをもとに提供するレストラン。越前漆器の複合施設「うるしの里会館」に立地し、食事をいただく器も越前漆器を塗り直して継承してきたお皿でいただくことができる。蚕を育てていた地域なので桑の木から採取された「桑茶」や、昔ながらの薬味「山うに」なども継承し、製造販売にも力を入れている。</li> </ul>	
基準に関連した取組※	<ul style="list-style-type: none"> <li>● セクションA,B,C</li> </ul>	
		【越前漆器・椀椀での昼食】
		【地産地消の伝承料理】

訪問場所	越前漆器 漆琳堂	当日の様子  
担当者	漆琳堂代表取締役 内田徹氏	
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 越前漆器「漆琳堂」では、230年続く伝統を継承しながらも、日常でも使えるカラフルな漆器なども開発し、100年後も漆器を塗り続けられるようにというのをビジョンに掲げて若者の担い手を育成にも注力している。また新たに木地ろくろの整備と木地師を雇用し、伝統的な漆器製造を継承しつつ、木素地をベースとした小ロットのオーダーメイドなどの製品の受け入れる体制を整え、現在の産地の課題解決に求められている、産地技術の垂直統合だと考えている。また伝統に縛られず、日々更新されていくデザインに対応していくことが必要と考え、越前漆器の未来に向けて探り探り挑戦していく企業。</li> </ul>	
基準に関連した取組※	<ul style="list-style-type: none"> <li>● セクションB,C,D</li> </ul>	
		【越前漆器 工房見学】
		【若手木地職人のお話】

## 3日目：グループワーク

テーマ	越前鯖江エリアが目指す持続可能な観光とは？
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 持続可能な観光の目標設定 越前鯖江エリアが今後持続可能な観光を目指す際の共通認識となる目標について、議論を行いました。</li> <li>● 持続可能な観光を目指す上での課題抽出 目標達成へ取り組む際に課題となる点の抽出を行いました。</li> <li>● 今後の取組についての検討 課題に基づき、今後の取組内容について検討を行いました。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <span>【グループワーク】</span> <span>【発表】</span> </div>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 越前鯖江エリアにおける持続可能な観光の目標 職人が無理なく本業に専念できる環境を守りつつ、観光客や関係人口が実際に産地を訪れる地域を目標とした。</li> <li>● 持続可能な観光を目指す上での課題点 越前鯖江エリアは、伝統や文化を中心とした地域であり、生業を主とした工房が観光資源であることから、まずは産業観光による売上が拡大する仕組みを整備する必要がある。また冬季の寒さにより滞在時間が短縮され、観光消費単価が伸びない構造が課題である為、その辺りも考慮が必要である。</li> <li>● 今後の取組 観光客や関係人口が実際に産地を訪れることにより、職人自身の意識や誇りが高まり、地域への愛着や継承意識を促進する効果を生み出すことで、持続可能な観光へとつながると考えている。そのためにもターゲット設定は必要である。</li> </ul>

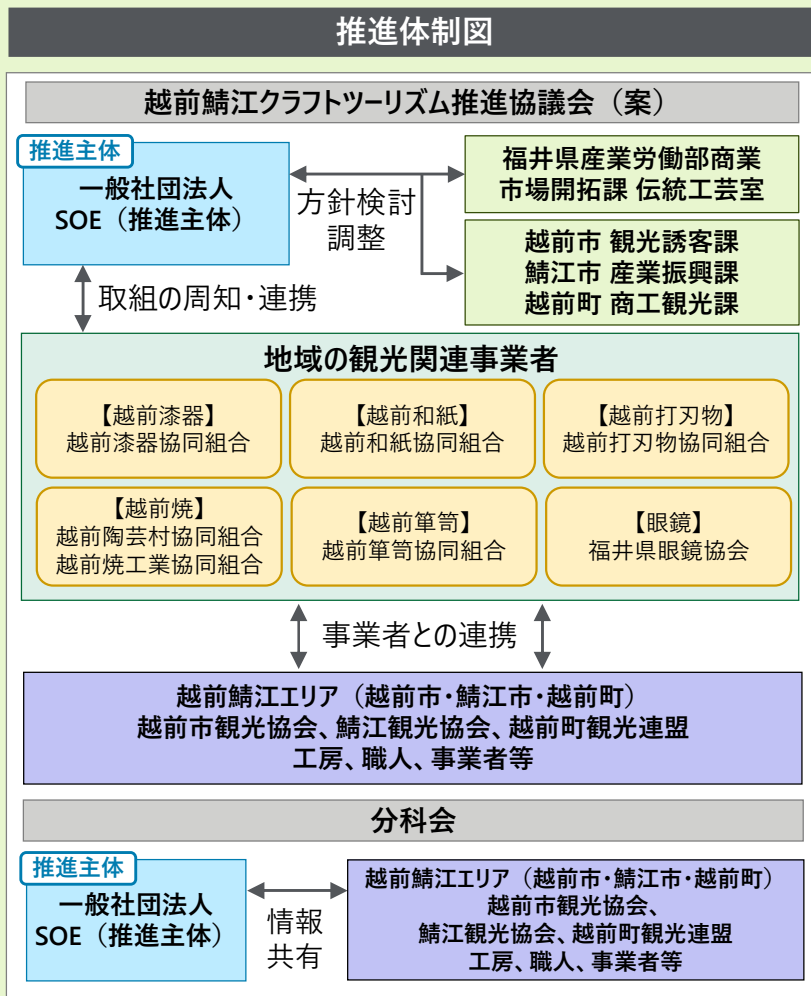
## 全体総括

採択団体の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市町の行政や地域事業者の方々が研修に集まって、地域のことを話す機会ができたことで、まずは持続可能な地域に向けた第一歩へとつながったように思う。</li> <li>● 越前鯖江エリアとして持続可能な観光を推進していくために、民間と行政がしっかりと連携しながら、今回検討した課題に対する取組を進めていきたいと考える。</li> </ul>
参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 持続可能という言葉はよく耳にするが、実際に学ことでやるべきことが少しずつ見えたように思う。地域一体で、共通の目的に向かって進むには、GSTC研修というのはとても意味がある研修だと改めて感じた。</li> <li>● 日頃話することがない方々との接点が新しく、二神先生のお話もとても勉強になった。</li> </ul>
トレーナーの感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 参加者は地元の工房関係者に加えて地域外の関係者も多く参加しており、特にディスカッションやフィールドワークにおけるグループワークでは積極的なネットワーキングが見られた。観光庁によるモデル事業として鯖江市が、今後さらに持続可能な観光による地域づくりを推進する上での基礎的な研修として意義のあるものであったと思われる。</li> </ul>



# 今年度の推進体制及び連携スペシャリスト

## ■今年度の推進体制



## 推進体制における今年度の協議実施結果及び参画団体

	主要アジェンダ	開催時期
第1回	・ 本事業の内容・スケジュール説明	9月29日
第2回	・ 本事業の進捗共有、中間報告	12月19日
第3回	・ 本事業の最終報告、来年度以降の取組方針	1月29日

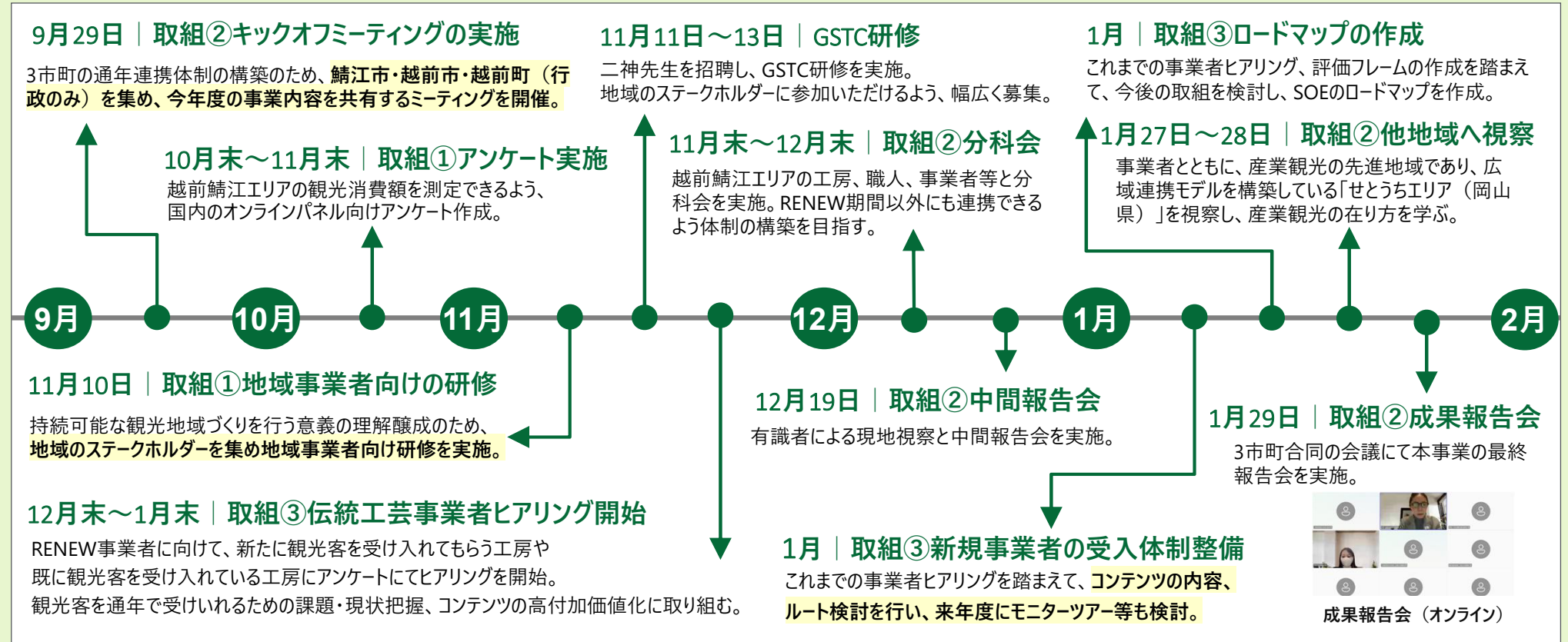
団体名	役割
一般社団法人SOE	観光関連事業者との連携 取組の周知と連携 行政間の調整
観光関連事業者	行政との連携 観光関連事業者との連携
越前鯖江エリア 工房、職人、事業者等	工房見学の受け入れ整備 ワークショップ・体験コンテンツの造成 各工房における取組や課題定義
福井県	方針検討・調整 課題等の把握と情報共有

## ■本事業で連携したスペシャリスト

- ・ 専門家①：名城大学 二神 真美
  - ✓ 持続可能な観光の国際基準・指標に関する高い知見を基に、“持続可能な観光地域づくり”の理解醸成を目的とした地域事業者向けのセミナーへの登壇、鯖江市で開催したGSTC研修の講師、またマネジメント・文化分野に係るJSTS-Dアセスメントレポートへのフィードバックをいただいた
- ・ 専門家②：東洋大学 古屋 秀樹
  - ✓ 観光地における経済波及効果分析の専門的知見を基に、観光客向けアンケートの設問内容、経済波及効果算出のアドバイスをいただいた
- ・ 専門家④：株式会社羅針盤 佐々木 文人
  - ✓ ガイド人材育成における専門的知見を基に、伝統工芸の事業者を巻き込むためのアドバイス、インバウンド誘客におけるご助言をいただいた
- ・ 専門家⑤：株式会社wondertrunk&co 岡本岳大、大高恵里沙
  - ✓ インバウンド専門旅行会社でのマーケティングにおける専門的知見を基に、コンテンツの高付加価値化に向けてのアドバイスをいただいた
- ・ 専門家⑥：Promoduction LLC 浜野 貴晴
  - ✓ 産地でのものづくりのあり方の研究・事業化支援の実績を有しておりその知見を基に、各事業者におけるアドバイス、有田焼の事例などをご紹介いただいた

# 実証事業のスケジュール

## ■ タイムライン



## ■ 重点施策と結果・実施時期

### 3市町合同のキックオフMTG開催

実施時期：9月

- これまでRENEW期間のみの連携にとどまっていたため、3市町の通年での連携体制を構築することを目的に、越前鯖江（越前市・鯖江市・越前町）のステークホルダーを集めた。越前鯖江エリアの今後の持続可能性について、現状の共有と課題整理を行い、広域としての方向性を確認した。

### 地域事業者向けの研修

実施時期：11月

- 持続可能な観光づくりの必要性・意義や、鯖江市の産業観光の貴重さ・地域の魅力を事業者やステークホルダーに再認識いただき、今後の取組の機運醸成を図る

### 新規事業者の受入体制整備

実施時期：1月

- 既に観光客を受け入れている工房（RENEWに参画済み）に対して、ヒアリングを実施し、観光客を通年で受け入れるための課題・現状把握。既に通年での受け入れをしている工房においては、コンテンツの高付加価値化を行う。

# 実証事業における目標値の達成状況

## ■ KGI・KPI別の達成状況

	指標項目	2025年度実績値	結果詳細	達成率
KGI	<ul style="list-style-type: none"> <li>3市町* 観光データ管理基盤整備進捗率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100% = 3市町観光データ管理基盤整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本人観光客を対象に位置情報データから絞り込んだパネルへオンラインアンケートを実施し、十分な有効回答数を得られた。また、今後の3市町における観光振興施策の検討に資する情報を収集するため、アンケート設問を設計の上、宿泊・日帰り別の観光消費額等のデータを取得できた。経済波及効果については、(一社) SOEで継続して算出することが出来るよう、環境省ツールを用いて経年比較を行う。</li> <li>一方でインバウンド向けの調査は、実地調査を5日間福井駅内で実施したが、アンケートを断られる人数が多く、9パネルしか取得ができず、十分なデータが得られなかった。次年度以降は多くの回答数を得られるよう、設問内容の再検討及び、福井市内の宿泊事業者にも協力を仰ぐ等、体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100% 達成</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>“持続可能な観光”に対する事業者の理解度・協力意向度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理解度 50%</li> <li>協力意向度 30%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修後のアンケートでは、理解度 50%、協力意向度 30%となっており、達成した。研修参加者から、「持続可能な観光地域づくりを実施することの意義を改めて考える機会になった」との意見をもらった。</li> <li>地域事業者向けの研修は1回のみではなかなか理解度は測れないので、継続して回数を重ねることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>40% 達成</li> </ul>
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>開催・参加したWG・協議回数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間 合計8回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(一社) SOEの観光チームのメンバーが3市町に向けたキックオフミーティング、成果報告会や各3市町の分科会・協議会に、合計8回参加した。</li> <li>3市町とは、RENEW以外でもこのような機会を作り、定期的に話し合う場を民間側から設定することが必要だと感じた。また一方で組合や事業者とは、学びの時間も作って、他産地を視察をし、自分の地域をどうしていくかを考える時間も一緒に作っていくことが必要と感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>160% 達成</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客を通年で受け入れる事業者数</li> <li>既存コンテンツにサステナブル要素を追加もしくは高付加価値化に取り組んだ事業者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4件</li> <li>2件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客を通年で受け入れる事業者数は4件（目標2件、目標対比200%）、既存コンテンツにサステナブル要素を追加もしくは高付加価値化に取り組む意欲ある事業者数は2件（目標2件、目標対比100%）となり、目標を達成した。</li> <li>キックオフMTGや現地視察、専門家派遣等を通して事業者の視座を高めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>150% 達成</li> </ul>

\*3市町 = 福井県鯖江市・越前市・越前町を指す

## 2. 次年度以降の取組方針

---

- (1) JSTS-Dを活用した自地域のアセスメント結果と優先課題
- (2) 次年度以降の推進ロードマップ

# JSTS-Dを活用した自地域のアセスメント結果と優先課題

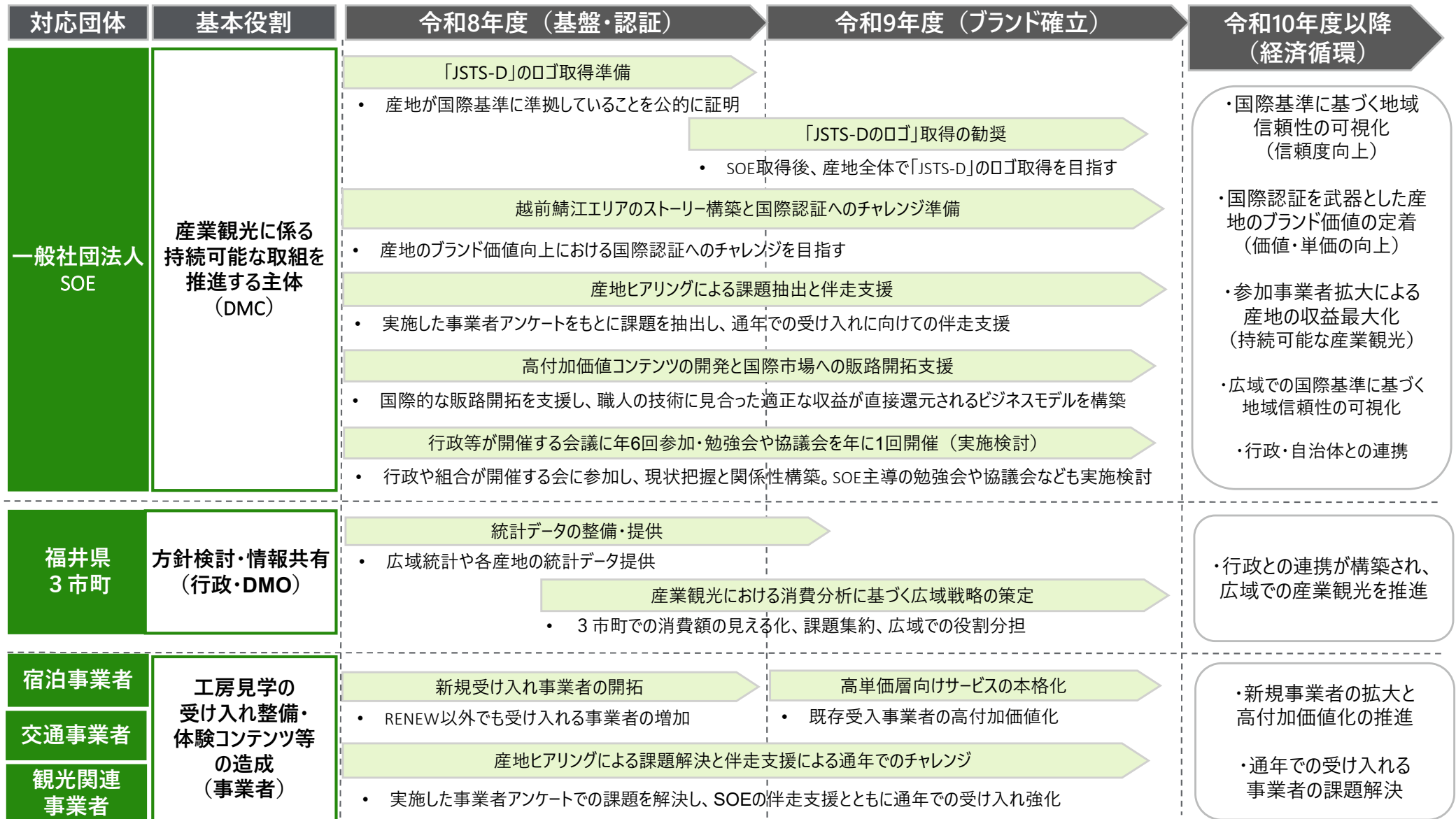
## ■優先課題の特定・課題への対応方策（案）の検討

現時点のアセスメント結果	◆ 合計スコア：144pt、セクションA：70pt、セクションB：30pt、セクションC：28pt、セクションD：16pt	
優先的に対応すべき事項	具体的な対応方策（案）	
<b>対応事項1：</b> デスティネーション・マネジメント（観光地経営）戦略と実行計画 （関連指標：A1）	①観光計画等に「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」に取り組むことを明記していること  対応策： JSTS-Dのロゴ取得も進めるにあたり、各地域の観光計画をまとめて、JSTS-Dに取り組むことを明記した計画書を、2027年3月までに完成させる予定。	◆ 現状値：13pt ◆ 目標値：14pt
<b>対応事項2：</b> 観光による経済効果の測定 （関連指標：B1）	① 地域への直接的な経済波及効果（観光消費額）について測定し、公表していること（直接効果の把握）  対応策： 3市町における観光消費額は、今回の事業を通じて測定できたので、この数値をまずは観光庁のホームページで公表いただくとともに、産地に向けても公表していく予定。	◆ 現状値：2pt ◆ 目標値：4pt
<b>対応事項3：</b> 文化遺産の保護 （関連指標：C1）	① 景観等の保全に関する計画があること  対応策： 越前バレー地域においては、委員会での意見交換会や現地視察などを実施しながら、和紙の里通りから岡太・大瀧神社方向につながる動線を作り、景観等を意識したサイン整備なども進める予定。	◆ 現状値：2pt ◆ 目標値：4pt

# 次年度以降の推進ロードマップ

【今後の3か年で目指す地域の姿】

伝統工芸の生業を高付加価値な経済モデルへと進化させ、国際的な持続可能性基準を反映した産地を確立することで、観光収益を産地へ再投資し、次世代に向けて「クリエイティブ・サステナブル産地」という姿を目指す





**JSTS-D (Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations)**